

令和4年度 研究集録

資質・能力

を育むための

単元研究会からの

カリキュラムマネジメント

令和4年12月9日

福島県立相馬支援学校

目次

はじめに	2
第1章 研究の目的と方法	3
第1節 研究の目的と方法～カリキュラム・マネジメントを実現するために～	4
第2章 3年間の研究開発の結果	11
第1節 日々の授業に関わる開発	12
【突破口1】 単元で必要な要素を全てかつシンプルに押さえ、実践力がつく単元案	12
【突破口2】 学習評価の力が身に付き、単元のまとまりを研究するための単元研究会	18
第2節 教育課程に関わる整備・開発	25
【突破口3】 12年間を見通した各教科等の年間指導計画	25
【突破口4】 教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化	30
【突破口5】 教育活動の質を向上させるための単元配列表	36
【突破口6】 各教科等を合わせた指導における “必要に応じて効果的に組み合わせる” 考え方と実践	41
第3節 授業を考えるための時間確保及び個々の教師力の向上	49
【突破口7】 単元案の蓄積及び単元配列表クリック作戦での業務短縮	49
【突破口8】 指導に役立つ環境整備、教師一人一人の学びを支える教師寺子屋	54
第3章 単元案と学習評価～これまでの事例紹介～	61
◆6つの単元案と実践例 *独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所「知的障害教育における授業づくりと 学習評価に関する研究」令和4年度研究協力校	
第4章 これまでの取組の考察	71
第1節 資質・能力に向き合い、単元研究し、 カリキュラム・マネジメントは充実したのか	72
参考文献	77
編集後記	78

はじめに

本校は、昭和46年に相馬市立養護学校として創立し、今年で52年目を迎えました。

平成29年度から学習指導要領が改訂されること、令和2年4月に南相馬市鹿島区に校舎を新築移転することを踏まえて、新しい土地、新しい校舎、新しい時代に見合った教育ができるよう、単元研究会を中心に据えて研修を進めてきました。

令和元年度に教育課程を整えるためのプロジェクトチームを設け、本校が育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、学校教育目標を見直しました。

令和2年度からの3年間は、学習指導要領を根拠とした軸がぶれない授業実践・単元作りを目指して、様々な取組を積み上げてきました。

研修部を中心に日々の授業を第一に考え、単元で必要な要素をシンプルに押さえた単元案の活用や12年間を見通した各教科等の年間指導計画の作成、教科横断的な視点に立った資質・能力の明確化、教育活動の質を向上させるための単元配列表の作成など、一つ一つ焦らずにじっくりと作り上げてきました。これらは、本校の教職員が真面目に授業のことを考え、実直に日々の授業と向き合い築き上げてきたものです。普段から先生方は、当たり前前に授業について語り合い、児童生徒の学びや成長を語り合っています。真摯に児童生徒と向き合う先生方と共に仕事ができる日々がとても楽しく、ワクワクします。素晴らしい仲間であり、実践者である先生方に心から感謝します。

本校の実践は、これからも進化していきます。児童生徒を中心に据え、何よりも授業実践を大事にして、児童生徒にとって、「学びがいのある学校」、教職員にとって、「働きがいのある学校」、保護者にとって、「預けがいのある学校」、地域にとって、「応援がいのある学校」を目指していきます。

最後に、本校の取組が、知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校で、日々、一生懸命に授業作りをされている先生方の参考となり、少しでもお役に立てれば幸いです。

福島県立相馬支援学校長 和知 学



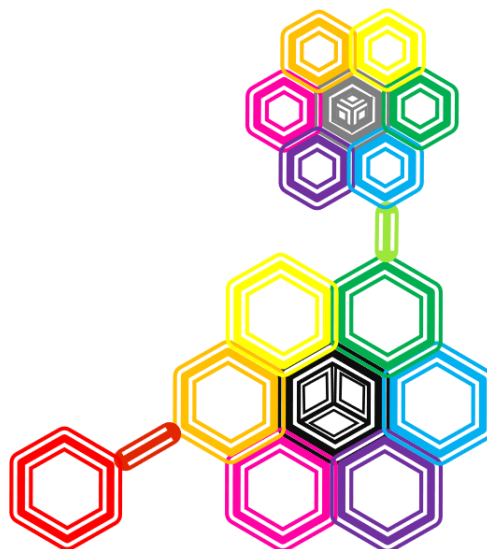
第1章

研究の目的と方法

3年間に渡る研究の目的と方法について紹介する。

第1節 研究の目的と方法

～カリキュラム・マネジメントを実現するために～



1

研究の目的と方法

～カリキュラム・マネジメントを実現するために～

1 カリキュラム・マネジメントを実現するための問題と目的

(1) 求められるカリキュラム・マネジメント

特別支援学校学習指導要領解説総則編（小学部・中学部）の中では、



各学校においては、児童又は生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下カリキュラム・マネジメント）という。）に努める。その際、児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、第3節の3の（3）のイに示す個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくように工夫すること。

と示すなど、カリキュラム・マネジメントについて教育活動の質の向上を図るために各学校において努めることとしている。さらに、以下のカリキュラム・マネジメントの4つの側面を通して、実現を図っていくことについても述べている。

【カリキュラム・マネジメントの4つの側面】

- (ア) 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- (イ) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- (ウ) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと
- (エ) 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと

近年この「カリキュラム・マネジメント」という言葉が溢れ、その方法論は多くの著書で示されている。しばしば、現場としてはその言葉に振り回され、不安に陥りながら仕事がビルドアップされ、方向性を見失うことがある。だからこそ、本校は、このカリキュラム・マネジメントの4つの側面にどう向き合うのか、その本質に徹底的に向き合い、シンプルかつ本来の目的を達成するために研究を進めた。



*令和2年度の研究の前に、令和元年度にカリキュラムを整えるために「新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム」で、本校の資質・能力、各種書式等の検討を行ってきました。こちらのQRコードから読み取ることができます。



(2) カリキュラムをマネジメントするための問題点

学習指導要領には、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」とある。実際に、教育課程と私たちの授業がどのようにつながっているのか、その点を明確（図1）にしていくことで、実現を図るための問題点が見えてきた。

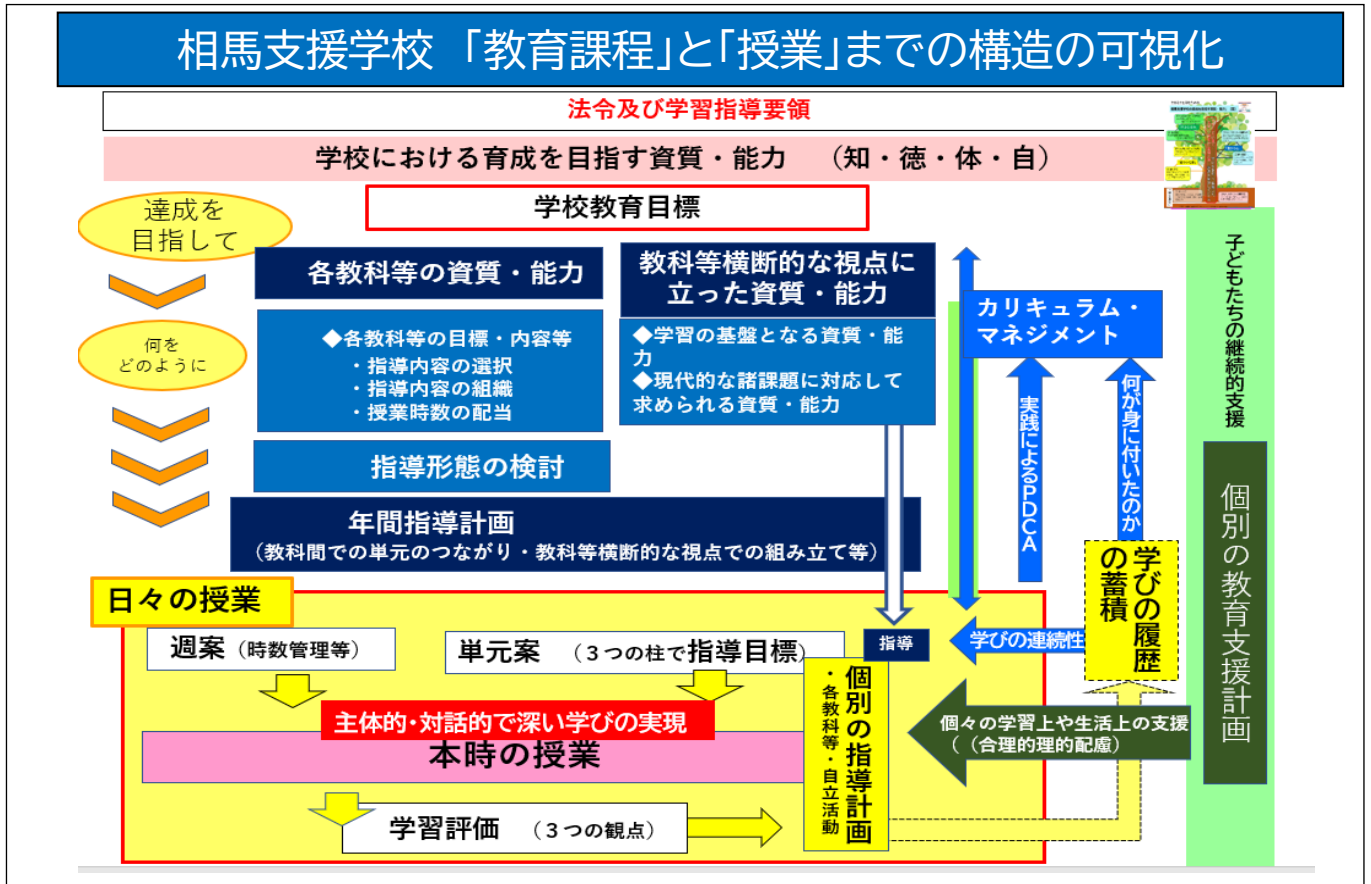


図1:「教育課程」と「授業」までの構造の可視化

【研究を始める前の5つの問題点】

①指導内容の選択、指導内容の組織、授業時数の配当

・学習指導要領に示す各教科の指導内容について、しっかりと履修しているか、担任任せな状態

②指導形態が本当に適切か。

・各教科等を合わせた指導ありきになっていないか、活動ありきになって本当に指導すべき内容を指導しているか曖昧な状態

③年間指導計画

・教科等横断的な視点で、教育内容を組み立てるためのツールがない状態

④教科等横断的な視点に立った資質・能力について

・どう実現していくか、授業に落とし込んでいくか分からない状態

⑤日々の授業

・3つの資質・能力に向き合い、学習評価することに課題がある状態
 ・資質・能力に向き合うためには、内容のまとまりで向き合う必要があるが、その単元を見通した単元研究が弱かった点

等の問題点に、この研究以前は直面していた。

皆さんの学校は
どうですか？



つまり、①～④のカリキュラムが整っていない点、⑤の資質・能力に向き合って授業づくりに対応できていない点が考えられた。

まずは、①～④について、まだ明確な解決策が見えない中で、直ちにカリキュラム改善に取りかかることは難しい状況にあった。

そこで、着目したのは⑤の資質・能力に向き合った授業づくりである。

これについては、特別支援学校学習指導要領解説総則編（小学部・中学部）の中でも

各授業の個別の指導計画（Plan）—実践（Do）—評価（Check）—改善（Action）のサイクルの中で蓄積される児童生徒一人一人の学習評価に基づき、教育課程の評価・改善に臨むカリキュラム・マネジメントを実現する視点が重要である。

まずは、この視点を大事にして、資質・能力に向き合った授業とカリキュラム作りを同時に取組んでいくことにした。

(3)研究目的～「資質・能力を育むための単元研究会からのカリキュラム・マネジメントの充実」～

（2）で示した問題点を解決するためには、資質・能力に向き合った授業づくりを徹底し、「何が身に付いたか」の学習の成果を的確に捉えることで、その気づきをカリキュラムの改善やマネジメントにもつなげていけると考えた。

この資質・能力に向き合った授業づくりは1単位時間で育成されるものではない。内容のまとまりごとに、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等が、バランス良く育まれるものである。つまり資質・能力に向き合った授業づくりというのは、“単元のまとまり”を見通した単元研究が必要であり、それが本校の出発点と考えた。

単元研究がカリキュラム・マネジメントの4つの側面と、どうつながりがあるのかは図2の通りである。日々の単元を充実させることで、この四つの側面について、無意識的に関わることになり、教員一人一人が考えるきっかけになると考えた。また、カリキュラム・マネジメントのために、「～をする。」といった業務のビルドアップではなく、日々の取組みがつながり、業務多忙な中でも持続可能であり、実現可能な方法を

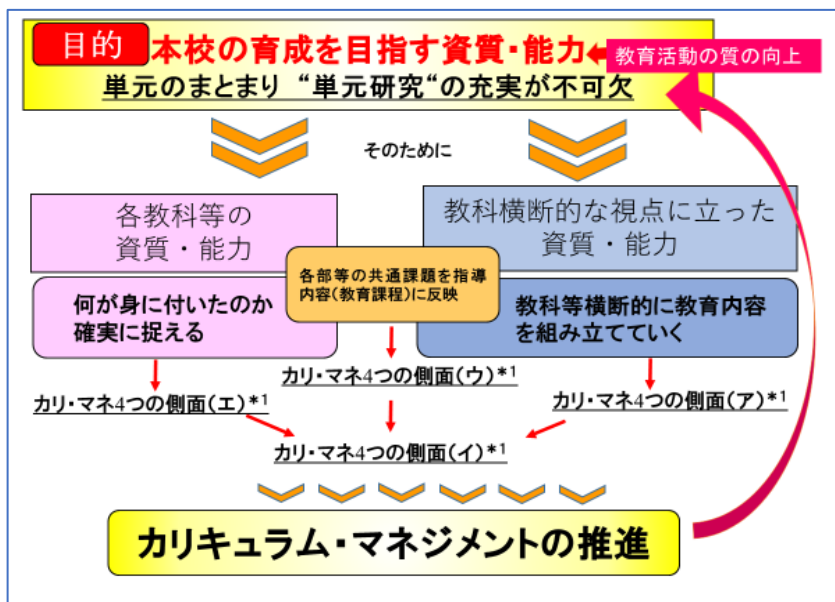


図2:本校の研究目的とカリキュラム・マネジメント4つの側面との関係性

これが、本校の「資質・能力を育むための単元研究会からのカリキュラム・マネジメントの充実」を研究テーマとした理由である。

(3)「資質・能力」の位置づけ～キーワードの関連性を押さえる～

学習指導要領には、「生きる力」、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」、「資質・能力」、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」、「主体的・対話的で深い学び」等の大切にすべき、数多くのキーワードが多くある。

これらのキーワードの関係性について、すぐに説明できるだろうか。

まず、全体像をつかみ、それらの関連性を踏まえることで、目の前のキーワードに踊らされることなく、学校として研究がさらに推進され、取り組む手順が見えてくる。学習指導要領を基に整理すると、図3ようになる。(小・中学部特別支援学校学習指導要領解説総則編 (p174～))

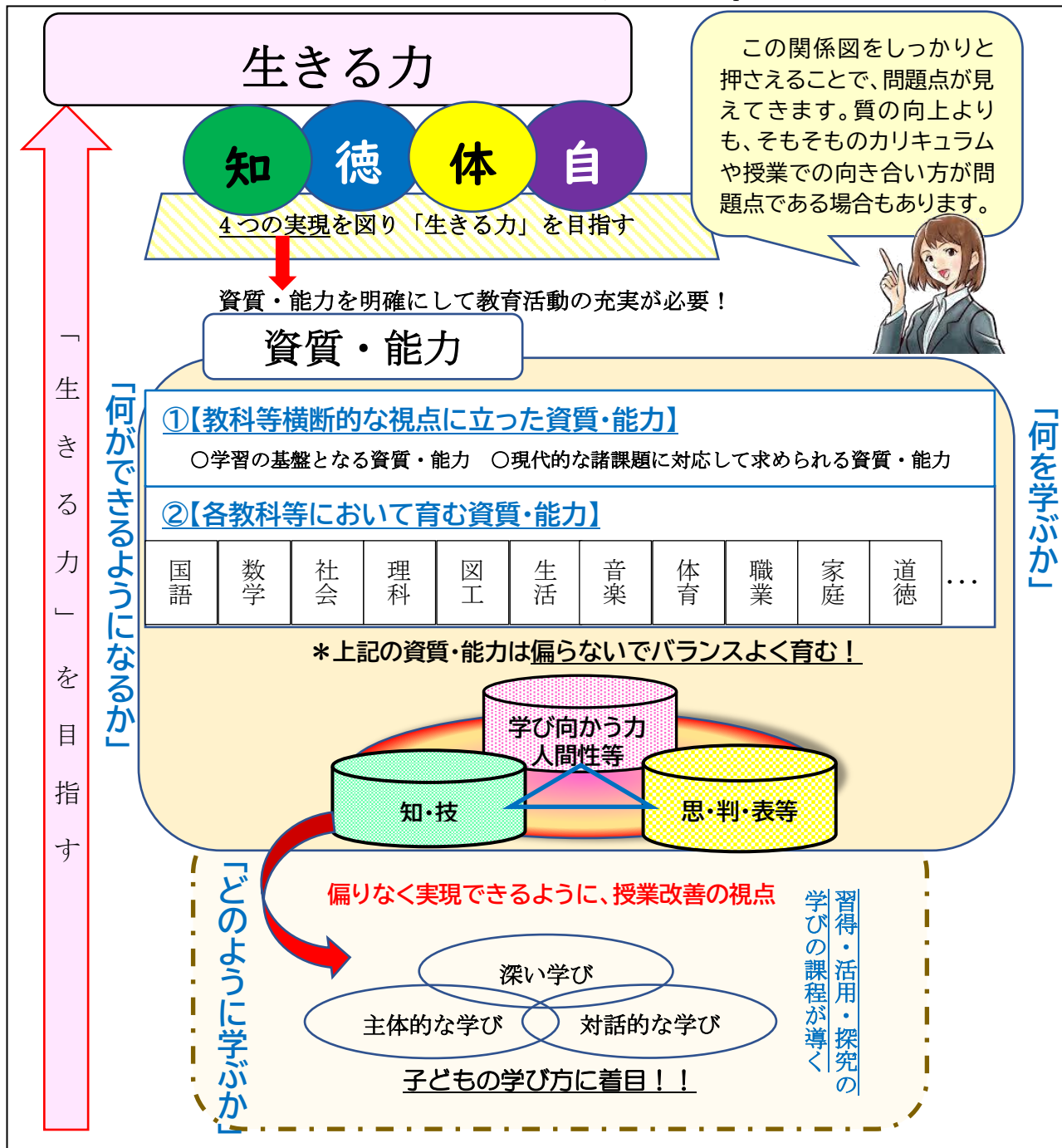


図3:「資質・能力」等の位置づけを示す関係図

2 研究方法～じっくりと焦らず定着へ・たどり着いた所がゴール！～

(1) 単元研究を中心に据えて、教育課程上の課題を解決し、カリキュラム・マネジメントを目指す

この取組は、焦らずじっくりと展開していき、単元研究で得た改善等の知見をカリキュラムに生かせるようにする（図4）。

その際、**図4に示す①「単元のまとまりをサポート」**とは、各教科等の中で育まれる資質・能力である。こちらの研究については、資質・能力に向き合い、その実現を図るための主体的・対話的で深い学びの設定を考え、観点別学習状況の評価にも向き合いながら取り組むことで、普段の取組みとして定着するように計画した。

②「教科等間のつながりをサポート」とは、この当時の研究段階では、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」の解説の中で、「各教科等間の指導の関連付けは、前述の中央教育審議会答申が大別した2点目及び3点目にあるような教科等の枠組みを越えた資質・能力の育成にもつながるものである。」ということが手掛かりであった。ここで述べられている「大別した2点目及び3点目にあるような」という記述は、学習指導要領で言うと、学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力のことを示しており、教科等の枠組みを越えた資質・能力とは、教科等横断的な視点に立った資質・能力のことである。つまり、この時点で分かっていたのは、どうやら、各教科等間の関連付けから、教科等横断的な視点に立った資質・能力が見えてくる可能性があることに気づいた。だからこそ、1年次は、単元研究を深める中で、「各教科等間の指導の関連付け」を図ることができるように単元案（詳細はこの後の章にて説明。）の単元構想部分に入れることで、教科等横断的な視点に立った資質・能力、教科等横断的に内容を組み立てていき、年間指導計画（後の単元配列表となる部分）につなげていけるように仕組んだ。初年度に計画したものは以下の通りである。

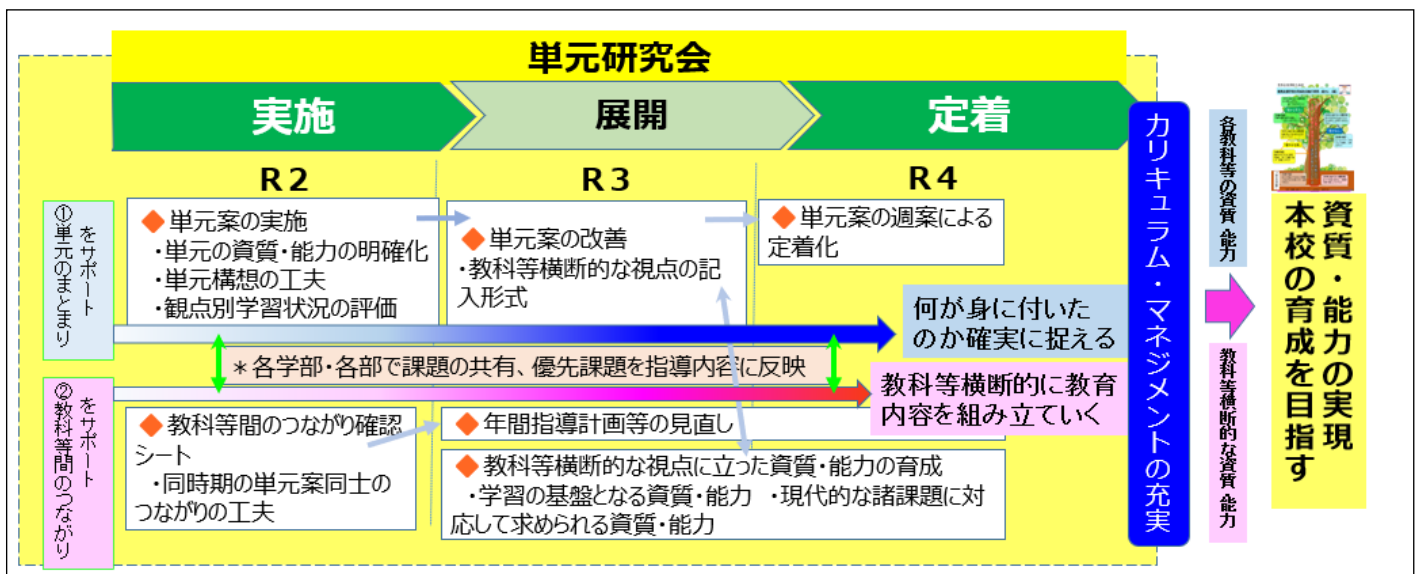


図4: 単元研究を中心に据え、カリキュラム・マネジメントの充実を目指す3年間の計画

単元での指導を充実させ、その問題点や気づきをカリキュラムの改善に反映させることで、教育活動の質の向上に向けてマネジメントできるようにし、その安定した定着を図るために、3年間じっくりと向き合ってきた。

(2)「単元研究会」の位置づけ

詳しくは、後の章で説明をする。本校の単元研究会は、①研修日に自分の授業の単元案等を活用して単元構想したり、学習評価したりする単元研究会、②悉皆研修の研究授業について、本時や単元構想等を学び合う単元研究会の2種類があり、それらの取組みを通して研究を進めていくようにした。

(3)令和4年度における研修支援体制・日程・グループ名

R4 研修支援体制

研修部は、あくまでも、先生方の学びを支援するという立ち位置でやってきました。



全体企画・統括 富村		研修会計
□個別最適な学びの提供	□協働的な学びの提供	
教師寺子屋：藤田、根本	単元研究会：藤田、黒澤	○相原 T 加藤
センター専門研修等：相原	校内研修：富村、根本、相原、黒澤、藤田、加藤	
悉皆研修（5・10年）：富村、根本	*時期が来たら学校公開	
研修案内：加藤		
学習コンテンツ創造：富村、根本、加藤		
研究集録：富村、根本		
広報・ICT原稿関係：黒澤、富村、根本		

研究日程(年間計画)

月	日	内容	月	日	内容
4	1 3	様式等自主研修会	1 0	1 2	グループ単元研究会⑤
	2 6	校内全体研修会 I		2 6	学習評価の時間（任意）
	2 7	学習評価の時間（任意）		2 7	教師寺子屋（自由参加）
5	1 1	グループ単元研究会①	1 1	9	グループ単元研究会⑥
	1 8	*課題研究検討会①（2年次）		2 4	学習評価の時間（任意）
	2 5	教師寺子屋（自由参加）	2 9	教師寺子屋（自由参加）	
	2 7	学習評価の時間（任意）	1 2	9	学校公開（校内全体研修会 II）
6	8	グループ単元研究会②		2 0	学習評価の時間（任意）
	2 9	教師寺子屋（自由参加）		2 6	教師寺子屋（自由参加）
	3 0	学習評価の時間（任意）	1	1 2	5年経験者研修 研究発表
7	6	グループ単元研究会③		2 5	*課題研究報告会（2年次）
	1 5	学習評価の時間（任意）	2	1	中堅教諭等資質向上研修 パイオニア発表
	2 7	教師寺子屋（自由参加）		1 5	校内全体研修会 III
8	2 3	教師寺子屋（企業研修）		下旬	研究集録各校配付
9	7	グループ単元研究会④	3	*次年度に向けて	
	2 6	*課題研究検討会②（2年次）	*他に、フォローアップ研修、5年経験者研修の研究授業における単元研究会を調整して行う。（日程は調整中）		
	2 7	学習評価の時間			

研究グループ編

単元のつながり等が見えやすいグループ（でも、基本的には自分の授業に向き合うのがメインです）

小学部	A	1-1、2-1、2-2、 2・5-4	○相原聖美、佐藤千愛美、堀内洋子、大坂興裕、和田拓也 佐藤汐莉、佐々木玲奈、渡辺結、関本つぐみ（9名）
	B	3・4-1、5-1、6-1	○遠藤砂絵、中村由依子、岡崎あゆみ、高橋美琴 小林みちる、長谷川裕樹（6名）
中学部	A	1-1、1-2	○西村祐司、三浦千晶、濱須直文、永山さくら、岡部純一（5名）
	B	2-1、3-1	○藤田泰人、村上まゆみ、二上真也、 関口まみ、紺野美和子（5名）
高等部	A	1-1、1-2、1-3	○黒澤圭太、阿部安代（佐藤美月）、室井郷司、渡邊美穂 濱尾康史、奥山美穂、富村和哉、田中恵美子、高橋優太（9名）
	B	2-1、2-2、	○八巻美貴、伊藤真吾、樋口裕香、村木亮太 庄司智子、志賀美音、大浦将（7名）
	C	3-1、3-2	○加藤優良、大関克也、安島孔史郎、五十嵐早織 山田敦子、勝倉康平、菊田源（7名）
重度・重複障がい グループ		小学部 1・2-3 中学部 1-2-3 高等部 2-3、3-3	○根本麻美、志賀潮、黒羽秀、渡邊栄子、岡千愛 齋藤明日香、富山淳史、山本祐一（8名）

単元研究会の日程

初任者研修・フォローアップ研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修の
研究授業・単元研究会の実施予定について。

1 経験者研修等の研究授業日程一覧

月	予定日(校時)	氏名	予定教科等 ○校時	単元研究会 予定実施日	学びの 記録者	ビデオ 撮影者	ファミリー テーター(1人)	全体
5月	31日(火)	村木教諭	保健体育②	6月15日	五十嵐	富村	樋口	富村
5月	31日(火)	五十嵐教諭	音楽⑧	(水)	村木	富村	安島	
7月	5日(火)	村木教諭	保健体育②	7月13日 21日(木)	五十嵐	富村	大関	渡邊
	*14日(木)		*保健体育⑥					
	5日(火)	五十嵐教諭	音楽⑧	村木	富村	八巻		
	12日(火)	山田教諭	生単③	7月21日 (木)	山田	黒澤	黒澤	富村
9月	14日(水)	村木教諭	国語①	9月21日 (水)	五十嵐	富村	渡邊	八巻
	15日(木)	中村教諭	算数②		中村	佐々木	佐々木	
	16日(金)	室井教諭	職業③か④	前:初任 後:経験5	室井	大関	大関	根本
	28日(水)	佐々木教諭	生単③	10月13日 (木)	佐々木	中村	中村	富村
10月	4日(火)	黒澤教諭	生単③		黒澤	大関	大関	
	7日(金)	五十嵐教諭	国語①	10月25日 (火)	村木	富村	庄司	渡邊
	14日(金)	伊藤教諭	職業③		伊藤	室井	室井	富村
	17日(月)	齋藤教諭	家庭⑤	前:初任 後:経験5	齋藤	伊藤	伊藤	
	27日(木)	大関教諭	数学①	11月22日 (火)	大関	山田	山田	根本
11月	15日(火)	室井教諭	作業学習 (後期現場実習)		室井	黒澤	黒澤	
12月	9日(金) (学校公開日)	室井教諭	職業③	学校公開にてパ ネル形式等				研修部
	13日(火)	五十嵐教諭	生単③	12月23日	村木	富村	五十嵐	八巻
	16日(金)	村木教諭	職業③	(金)	五十嵐	富村	村木	

出入り自由の単元研究会です。しかし、経験に限らず、多くの先生方が参加し、同僚の先生から学び、アイデアを出し合い、授業者だけでなく自身の専門性向上を図っています。





第2章

3年間の研究開発と結果

3年次に渡る研究から、本校の資質・能力を育むためにカリキュラム・マネジメントに取り組み、その突破口となる8つの開発を紹介する。

第1節 日々の授業に関わる開発

- 【突破口1】 単元に必要な要素を全てかつシンプルに押さえ、実践力がつく単元案
- 【突破口2】 学習評価の力が身に付き、単元のまとまりを研究するための単元研究会

第2節 教育課程に関わる整備・開発

- 【突破口3】 12年間を見通した各教科等の年間指導計画
- 【突破口4】 教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化
- 【突破口5】 教育活動の質を向上させるための単元配列表
- 【突破口6】 各教科等を合わせた指導における
“必要に応じて効果的に組み合わせる”考え方と実践

第3節 授業を考えるための時間確保及び個々の教師力の向上

- 【突破口7】 単元案の蓄積及び単元配列表クリック作戦での業務短縮
- 【突破口8】 指導に役立つ環境整備、教師一人一人の学びを支える教師寺子屋



1

日々の授業に関わる開発



◆カリマネ側面(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)対応

～資質・能力に向き合う単元づくり～

【突破口1】単元に必要な要素を全てかつシンプルに押さえ、実践力がつく単元案

今回の学習指導要領では、各教科等において資質・能力を示し、どのような単元を作っていくのか、学習指導要領の様々な所に、その押さえるべき点が記載されている。学習指導要領は、基準性として示されていることから、これは授業者として授業、単元を作っていく時に必ず押さえる視点となる。

【学習指導要領で示されている単元づくりで押さえるべき点】

- ① 本校の育みたい資質・能力から、教科等の資質・能力へのつながり
- ② 単元における育む資質・能力の明確化
- ③ 単元における評価規準と評価計画（いつ、どの資質・能力を育ていくのか。）
- ④ 授業改善の視点（主体的・対話的で深い学びの単元構想における意図的な設定場面）
- ⑤ 子どもたちの学びの過程（習得、活用、探究）をデザイン
- ⑥ 単元間のつながり（教科内、教科等間）
- ⑦ 教科等横断的な視点に立った資質・能力を育む視点
- ⑧ 「何が身についたのか」観点別学習状況の評価と授業改善

考えなきやいけないことが結構ある……

令和2年度以前の従来の指導案の形式では、これらの①～⑧までの基準性を全て押さえていないことが実践していくと見えてきた。

そこで、日々の単元・授業において、授業者のこれまでの経験値や教育観だけでの単元展開をしていくのではなく、基準性を押さえ、見える化、言語化して思考を整理しながら、単元のまとまりを意図的にコントロールしていくことが資質・能力に向き合った単元作りの一歩になると考えた。

（1）日々、実践できる形へ～研究授業の時だけの特別な形式をやめ、普段使う“単元案”へ～

上記の①～⑧の項目を毎単元、詳細に書いていくことを、日々の多忙な業務の中で実施することは難しい。しかしながら、頭の中だけの整理では単元のまとまりで育む資質・能力が不明確になったり、単元構想が活動ありきになったり、自己満足の学習評価になったりする危険性がある。

研修部では、「日々の業務の中で、教員一人一人が自分の授業を考え、日々実践できる“単元案”」をコンセプトに開発に取り組んだ。令和2年度の研修部内の開発チームが、当初A型～F型までの試作案について、必要な基準性を満たし、シンプルかつ深く考えることができ、日々の実践で授業者が活用できるような形を開発することができた。さらに、令和3年度から、教科等横断的な視点に立った資質・能力についても記載できるようにし、単元の中で授業者が何を押さえて指導するのか、全て視覚化、意識化して指導することができるようになってきた。次のページがその形式である。

単元案形式・解説

①～⑧の番号は、基準性で示している番号です。しっかりとした根拠のもとに、単元が展開でき、議論できるようにしています。



【1枚目：資質・能力に関して明確にして押さえていく】

相馬支援学校 単元案		
本校の学校教育目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
高等部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
自立と社会参加のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自分の考えを持ち、他者を理解し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
【資質・能力の育成のための教育活動として】		
生活単元学習 単元案	単元・題材名	「夢を叶えるプロジェクト」
【単元・題材で育成する資質・能力】 主に高等部2段階で設定		
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
言語(聞・読) 言葉には、人間関係を構築する働き(相手の行動を促す働き)につながっていくことがある。ことに気付くことができる。	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現方法を工夫することができる。	資料等を活用して自分の表現を工夫したり、言葉には相手の行動を促す働きにつながっていくことに気付いたりしようとしている。
言語・書く 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めて書くことができる。	目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり、分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。	目的や意図に応じて書くことを明確にしたり、用紙全体との関係に注意したりして書くようとしている。
職業 自分たちの取り組みたい活動を企画し、自己表現を図ることで、勤労(自分で考え、協力して取り組むこと)の意義を理	目標をもって取り組み、その成果や自分と他者との役割及び他者との協力について考え、表現することができる。	自分たちの取り組みたい活動の自己表現を図るために、自分と他者との役割を決めたり、協力したりして取り組もうとしている。
社会生活 周囲のことを考えることを通して、自分の役割や責任を果たすためには周囲の人々の協力が不可欠であることが分かる。	社会生活の中で状況を的確に判断し、自分の役割と責任について考え、表現することができる。	自分の役割や責任を果たすために、他者と協力しようとしていたり、表現しようとしていたりしている。
*自立活動 個別の指導計画の指導内容による		
単元構想のためのメモ欄		
5/26(2h) 6月22日、23、30、7月7、14(2h)、21(2h)、28 計12時間 *基本は1時間扱い。残り1時間は隔週で(SSTと理科を中心とした内容)		

①対応

学校教育目標とのつながり

学校教育目標、学部目標の見える化。常に意識して、同じ方向を目指し、単元の資質・能力とのつながりを確認できる。

②対応

資質・能力の明確化

各教科等を合わせた指導においても、各教科等の単元における資質・能力の明確化ができる。

単元構想メモ欄を設定し、自由に記述。教員によって、使い方は様々。発想を広げることができる。

令和3年度さらに進化

【単元・題材で育成する資質・能力】 高等部2段階

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
2段階		
生物の体のつくりと働き、生物環境との関わりについて理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて調べの中で、主にそれらの働きや関わりについて、より妥当な考えをつくりだす力を養う。	生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わりについて進んで調べ、生命を尊重する態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。

③対応

評価規準対応

文部科学省の学習評価参考資料に基づいて、評価規準を設定して指導ができるようにした。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準 ・植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 ・根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されることを理解している。 ・観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けている。	・植物の体のつくりと働きについて調べの中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現している。	・生物の体のつくりと働きについての事象・現象に進んで関わり、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

【2枚目:単元のまとまりを研究する“単元構想”をしていく】

【何を、いつ、どのように】育んでいくのか

展開	時数	評価規準					●どのように【学習活動】国・図・関 どのような指導で(習得・活用・探究)	
		教科名	種別	習得	活用	主		
第一次(計画)	1・2	国	○	○	○		5/26(火) 2h ●学校のまわりのことについて、 国・図・関:自分たちで、取り組みたい内容について、学校や地域の ことを考えながら、話し合い、内容について大まかに決定できる ようにする。 準備物:ワークシート、話し合いの仕方 習得・活用	
		職業	○	○	○			
第二次(準備)	3	国	○	○	○		6/2, 9, 16, 23, ●取り組み企画に応じて、準備、もしくは撮影等に取り組む。 図・関:企画内容に応じて、制作までの段取りの計画を自分たち で行い、必要に応じて教師が支援する。その際、教科の見方・考 え方について、疑問等を意図的にし、指導と評価の一体化を図 る。準備物:企画内容に応じて、思考のフレームワーク(国) 習得・活用	
	4	職業	○	○	○			
	5	社会	○	○	○			
	6	*自立活動(個々)						
	7	国	○	○	○			6/30, 7/7 ●企画宣伝用のちらし、ポスター等を作成する。 国・関:自分たちの企画について、相手に伝えるように、その目 的や意図を整理し、伝えたいことを明確にできるようにする。 準備物:考え方の参考資料 活用
	8	社会	○	○	○			
第三次(実施)	9	国	○	○	○		7/14(2h) ●プレ実施をする。 関:企画した内容について、プレオープンをする。気付いたこと から改善していくようにする。 準備物:映像教材 探究	
	10	職業	○	○	○			
	11	*自立活動(個々)						
第四次	12	職業	○	○	○		7/21(2h) ●夢を叶えるプロジェクトの実施日 対・深:生徒が企画した内容について、自分たちで進めたり、お 客さんへの対応をしたりなど、自分たちの目的のもとに協力して できるように進めていく。 準備物:企画に合わせたもの 探究	
	13	社会	○	○	○			

③対応 評価計画

各教科等を合わせた指導においても、本時の指導は、どの教科のどの力を育むのか、評価計画を設定し、指導で意識し、学習評価できるようにした。

⑤対応 学びの過程

習得・活用・探究を意識した子どもの学びの過程をイメージした単元構想を行う。「習得・活用・探究が深い学びへとつながる」と指導要領では示している。ここを考えることで、「深い学び」への発動条件を演出する。

④対応 主・対・深の設定

優れた授業者に共通して見られる要素、授業改善の視点としてあげられている「主体的・対話的で深い学び」の設定場面について考えていく。

⑥対応 他教科との関連

各教科等の資質・能力を育む時には、他教科等との関連を図ることが活用の幅を広げると示している。単元構想時で意識できるようにし、必要によっては単元配列を改善していく根拠としていく。

令和3年度 さらに進化

資質・能力			資質・能力			ならでは力
言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	地域で起こる災害等への緊急時に対応する力	生活力や地域力の育成	感染症、肥満、運動不足等の自身の健康・生活習慣の改善	自己理解・自己実現の育成

⑦対応

教科等横断的な視点に立った資質・能力の設定

教科等横断的な視点に立った資質・能力は、各教科間の関連の中で、その力の育成につながったり、各教科等の学習の文脈の中で育成・発揮できたりするとしている。本校では、令和2年度に本校の特色を踏まえ「どんな力が必要か」を明確にし、単元構想で意図的に実践できるようにした。

【3枚目以降:「何が身に付いたか」を押さえる観点別学習状況の評価】

職業イ	<p>①道具の特性を理解して正しく扱い、確実性や持続性、巧緻性を高め、状況に応じて作業することができる。←</p> <p>②作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ることができる。←</p> <p>③状況に応じた作業をしたり、作業効率の改善をしたりしようとしている。←</p>	<p>・初めて行う作業では、手本を見せたり、一緒に動作確認をしたりする。←</p> <p>・気をつける箇所や、工程の流れを一緒に確認しながら取り組む。←</p>	<p>かデータやグラフから考えることができた。←</p>
数学	<p>①数量の増減をグラフで表現することができる。←</p> <p>②目的の達成のために、データを解決するためにグラフを読み解くことができる。←</p> <p>③数量の増減をグラフで表現するためにグラフを読み解くことができる。←</p>	<p>・公式で作った個数や売れた個数を当てはめ、電卓を使い正しく割合を求めることができた。円グラフにすることで、その製品がどれだけ売れたのかについて、売り上げ表よりも見やすいと考え答えていた。←</p> <p>・カレンダーを担当してもらい、売れた量と売れ残った量を理解して、84%が売れた量ならば来年は今年よりも作る数を減らし40個にした方が良く考えていた。また、理由として「今年は多く作りすぎて売れ残ってしまった」と考えてもいた。データの傾向に着目し、問題が何かを考え解決するためにどうしたら良いのか考察することができていた。←</p> <p>・電卓を使って正確に割合を出そうとする姿が見られた。また、やり方を理解すると自分で公式に数字を当てはめ</p>	<p>・カレンダーの帳合やレール通し、袋詰め、ハンドマスク作りなど臨機応変に取り組むことができた。ハンドマスクに貼るシールを切る作業では、曲線を上手に線に沿って切ることができた。←</p> <p>・本人が最初は「できます」と言ったため、卓上カッターのやり方を説明したが、なかなか指示通り切ることが難しかった。その際に「この作業できそう?」と聞くと、「難しいと思います」「他の作業の方が良いと思います」と自分ができることと難しいことを考え理解することができた。←</p> <p>・与えられた仕事で、「ここはこれで良いですか」「これで大丈夫ですか」と教師に相談し、確認しながら不良品に気付き報告する姿も見られた。←</p>

⑧対応

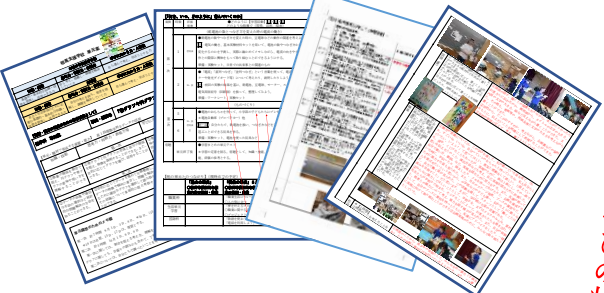
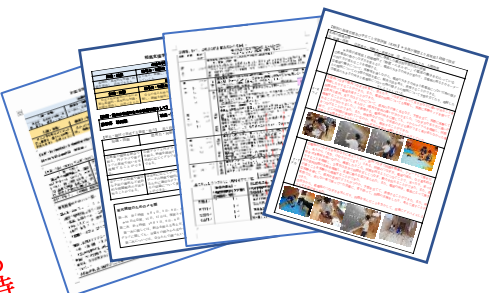
観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価を行うことで、子どもの学びの状況が分かり、授業改善に生かせる。また、学習終了後の学習評価(子どもの姿)は、各教科の段階における学びの習得状況の根拠となり、学びの履歴につながる。

学習評価(子どもの学びの姿)から、授業改善や教育課程等の改善にもつながる。

3つの資質・能力と向き合い、観点別学習状況の評価をする。

研修日で作成する時間を確保!



学習評価の時間で、学びの状況を確認

日々の単元・授業が充実するように、研修日以外でも
単元案を作成して活用する先生が増えてきている。

確かな実践の積み重ねが、カリマネのアイデアへつながっている!

現在(令和4年10月段階)、蓄積された単元は400個以上!!

参考にすることで、単元構想の時間が削減され、授業準備に時間を割ける!

(2)研究授業だけ、詳しい指導案を書いて取組む矛盾に切り込む！

これまで、フォローアップ研修、経験者研修Ⅰ・Ⅱの研究授業においては、詳しく書き込む指導案による研究授業を行っていたが、研究授業後の日々の単元については、頭の中だけでの指導であることが多く、研究した成果が反映されていないことが見えてきた。つまり、研究授業が、研究授業のための授業構想になっていたのである。また、従来の指導案では対応していない部分（特に単元構想等）や本質の議論から外れている部分（教材観や指導観の表現への指導に終始する等）に時間を費やす状況が見えてきた。多忙な現状の中、そこに時間を割く余裕はない。

だからこそ、指導案ではなく普段使っている単元案を研究授業でも使用し、 unnecessaryな議論や曖昧な要素は徹底的に削除し、シンプルに、押さえるべき点を押さえ、本質の目標に到達できる、授業準備に取りかかれるようにした。参観者に見てもらおう都合上、単元案に本時の指導過程のみ追加している。

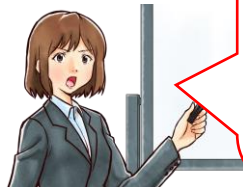
事後研究会に当たる単元研究会において、日々活用している「単元案」を使うことで、授業改善のサイクルの精度を上げていく研修とした。また、単元研究会後は、どんなアイデアが出たのかを、簡単にまとめたり、単元終了後に通常の単元指導における観点別学習状況の評価に取り組んだりすることにより、そのまま個別の指導計画の評価につながるだけでなく、研修者自身の日々の業務の資質向上になり、次の単元に向かえる持続可能な研修になるようにした。

【単元案等の取組の先生方の声 R3、R4アンケートより】



単元案を作成した授業に関して、自分の指導内容のねらいも明確になったので、作成しなかった授業に比べて、「授業のやりやすさ」を感じました。また、生徒も発言が活発になった気がします。

単元案や単元配列表を活用したことで、迷わず単元を展開することができ、自分自身が授業の見通しをもてるので、教科の準備等がねらいにそってシンプルに作ることができるので、迷って考える時間が減りました！！



単元案を作成して授業を行うことで、以前より授業の振り返りがしやすくなりました。また、見直し、検討事項もより明確になりました。ただ、各教科等を合わせた指導の評価は大変でした。しかし、単元案を作成して評価を行うと、目標から逸れてしまっていることに気が付くことができます（授業内容、自分の発問、生徒の学びに向かう姿等）。

単元ごとに学習評価を行ったことで、個別の指導計画の評価に時間がかからなくなりました。大変な評価の時期、すぐに、終わりました！！



単元案が全ての業務に連動する

日々の単元案の取り組みが、「個別の指導計画」と連動している。これまでの学習指導案等が授業研究会でのみ使用する指導案であったことに比べ、単元案は、児童生徒一人一人の段階に基づいて、指導目標と学習評価が行われることから、そのまま個別の指導計画とも連動（図5）していることになる。実際に単元案で学習評価まで取り組んでいる先生方からは、「個別の指導計画の学習評価の時には、単元案からすぐに記載をすることができた」「すぐに、終わる！」など、その有効性の声が届いている。

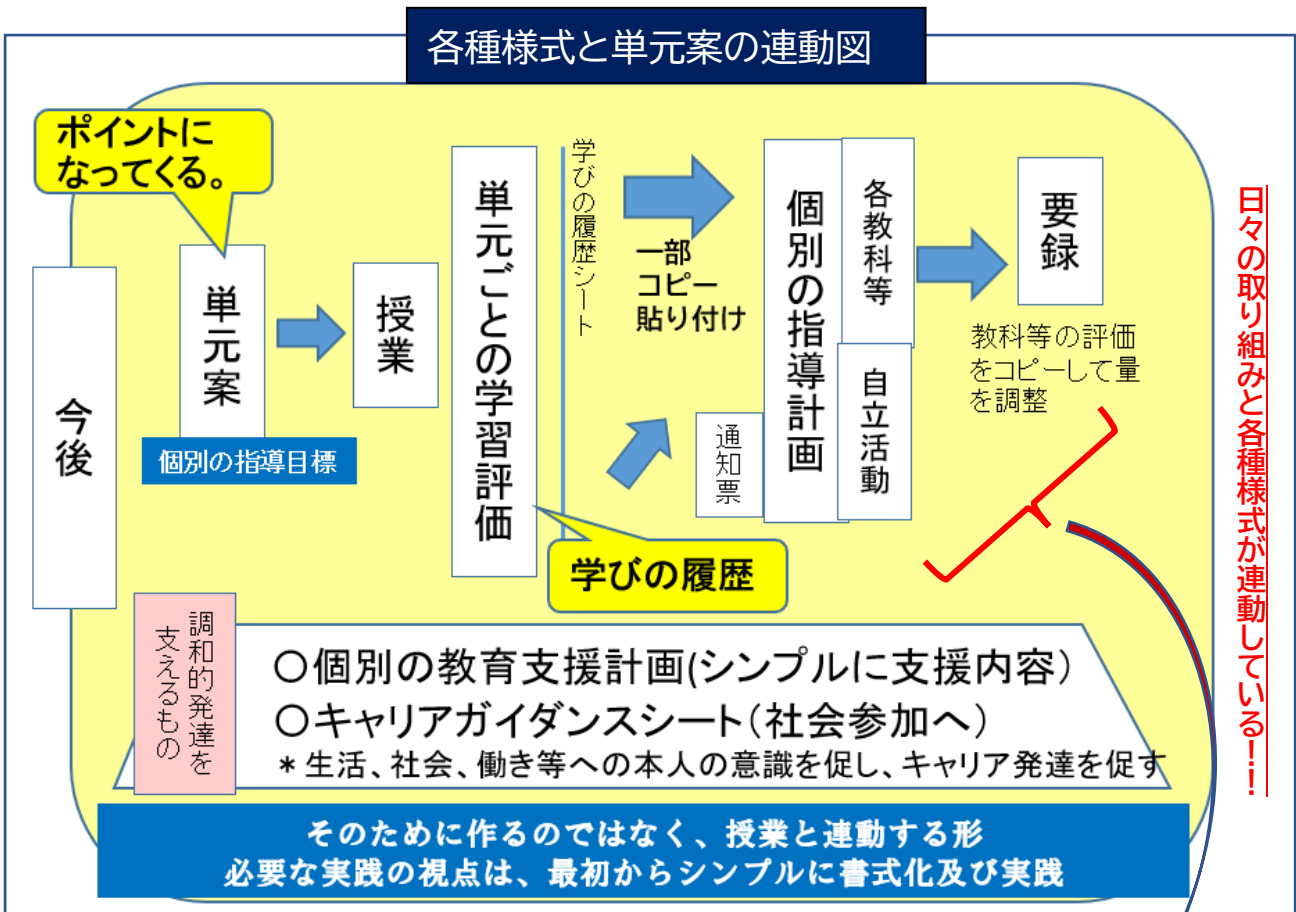
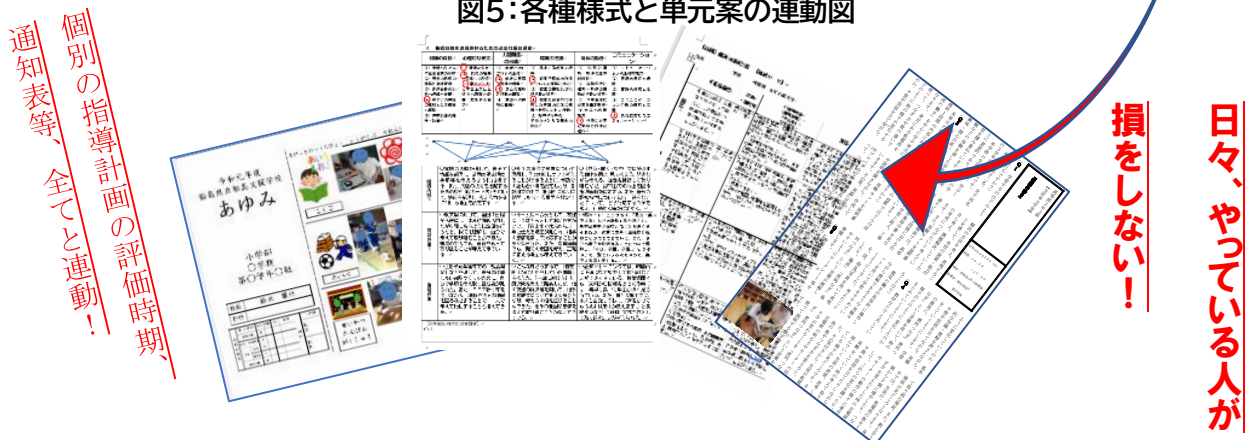


図5:各種様式と単元案の連動図



しっかりとやっている人は、質も高く、時短も図ることができる!!

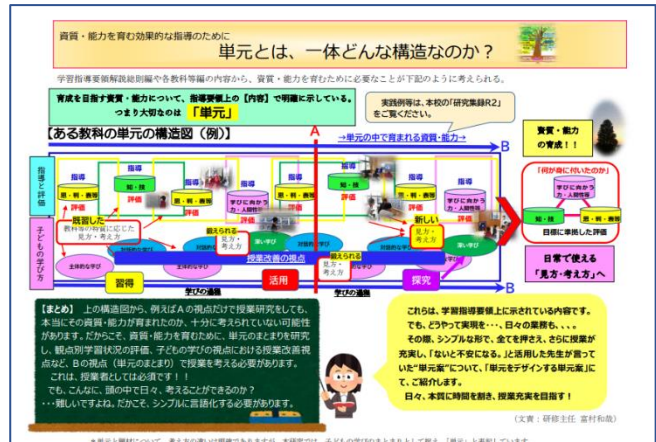
→意味ある研修・研究へ

単元案の定着化へ

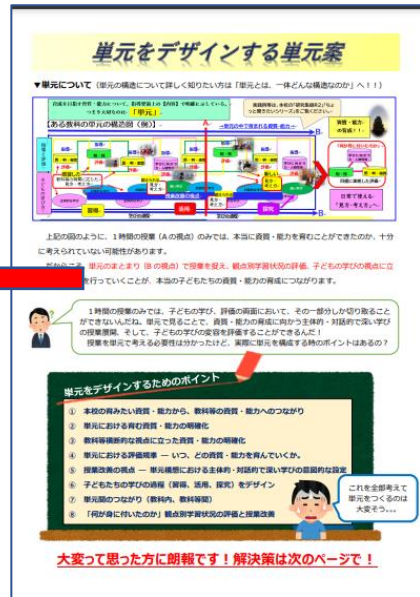


単元案

【普通の授業で単元案を活用している様子】



単元の考え方、単元案の書き方については、隣のQRコードから、さらに詳しく掲載しています。



単元案等の事例については、第3章「学習評価のこれまでの事例紹介～指導と評価の一体化～にて紹介いたします。



【突破口2】単元のまとまりを研究するための単元研究会

(1)グループ単元研究会

月1回の研修日に自分の単元を見つめて単元案等を作成したり、修正したり、学習評価したりする時間である。単元案が定着し始めている最近では、学習評価等に当たる先生も多く、研修日は自分の授業を考える時間として、単元研究をできるようにしている。

【先生方の声 R2:研究集録より】

- ・研修の時間を通して、単元案を作成していくスケジュールは、個人的にとっても助かった。（他業務がある中で行うにあたり、負担感を感じにくかった）
- ・「研究のために」「研修のために」等を目的とした研修の時間ではなく、日々の授業のための時間として設定されているので、とても貴重な時間となっている。



「研修のために」という考えから、「自分のために」という時間の確保を大事にすることで、日々の業務の多忙化に向き合い、単元研究する時間、授業準備の時間を確保するようにした。

もし仮に、月1回30分程度、自分の授業に向き合えない場合は、これは学校としての業務運営上の問題として考え、まずそこに向き合う必要があると考える。

(2)研究授業における単元研究会

学習指導要領や中央教育審議会答申（H28）では、授業研究会について、以下のような点について指摘している。

1. 学習評価時には、複数の視点で行い「何が身に付いたか」を明確にすること。
2. 授業改善の視点をもって改善すること。
3. 従前の「授業研究会が一時間、一時間という狭い範囲に留まっている」ため、「単元のまとまり」で考えていく必要性があること。
4. 単元のまとまりで考えることで、教員の資質向上が図られること。



これらについて、従来の授業研究会を改善し、取組んでいく必要がある。

逆に、この4つの視点を取り入れなければ、授業者が個人的に行うことになり、せっかく時間をかけて集まっている授業研究会と個人的に行う研究が二重となり、仕事のビルドアップが生まれると考えた。

だからこそ、上記の3点を45分～50分以内に取り組めるようにした。

この単元研究会への参加については任意であり、学びたい教員が参加し、途中の出入りもOKとし、自由な雰囲気で行なうことを大切にしている。



写真:学びの記録(子どもたちの言動)から、何が身に付いたのか、複数の視点で学習評価をしている場面



写真:自由な雰囲気の中で、ファシリテーターが本時、単元全体と単元研究をしていく場面

単元研究会の実際の要項

2年次教員フォローアップ研修・5年経験者研修

単元研究会

令和4年10月13日(木)

場所：視聴覚会議室

【日程】(15:50~16:40)

佐々木 玲奈 教諭

黒澤 圭太 教諭

途中参加、途中退席もOK。みなさんでアイデアを出し合い、自分の授業も考える機会としましょう!

【単元研究会の3つのコンセプト】

本時の授業力向上

単元全体の構成力・授業力向上

枠を越えた力の指導力向上

「教育活動の質」の向上を目指す→日々の単元から始まるカリキュラム・マネジメント

*ファシリテーター・記録(富村)

1 授業者の自評(1分)×2

* 授業目標に対しての今回の授業に絞った振り返り

2 授業での学びの姿を見取る(8分)×2 (黙読2分、VTR4分、共有2分)

学びの質を捉える

* 目標に対してどう学んでいるのか、対象児童生徒を決め、グループごとに①知識・技能、②思考力・判断力・表現力などの本時の個別の目標で挙げられている内容を、子どもの様子から、その事実を見取る。

* 経験者等が記録した学びの記録も補助資料に活用する。

3 学習評価及び授業改善(主体的・対話的で深い学びになるための)ブレインストーミングでのアイデアの出し合い(10分)

指導と評価の一体化

* 時短のため、授業者がある程度、学習評価をしておき、ビデオを見て、多角的な視点で、複数の目線での学習評価を行う。それを生かし、どのように学ぶとさらに目標(資質・能力)が実現できたのか、自由にアイデアを出し合う。

4 単元の構想、教科等横断的な視点に立った資質・能力について、キャリア教育等のブレインストーミングでのアイデアの出し合い(10分)

単元のまとまりで深める!

* 単元のまとまりで、授業の深まり、教育活動の質の向上を考える。

* 年間指導計画と「本校の教科等横断的な視点に立った資質・能力」を活用する。

枠を越えた力を深める!

New!!

以下のポイントで自由にアイデアを出し合う。

○単元構成の在り方 ○年間指導計画を見て、その関連でのアイデア

○教科等横断的な視点に立った資質・能力について(目標にある場合には、学習評価等も踏まえながら)

5 まとめ(2分)*初任者研修以外

・全体進行者が簡潔にまとめる。

6 全体感想(10分) 国立特別支援教育研究所総合研究所

情報支援部 上席総括研究員 横倉 久 先生

研修事業部 研修企画担当 主任研究員 嶋野 隆文 先生

この日は研究協力校訪問で、御助言をいただきました。

広い視野で、“授業”を捉え、資質・能力を育成する教員の資質・能力の向上

【日々の研修コラム～単元研究会～】

7月21日(木)に、初任者研修の単元研究会を行いました。

本校の単元研究会は

- ①授業での学びの姿を見取る → 学びの質を捉える
- ②学習評価及び授業改善の実施 → 指導と評価の一体化
- ③単元の構想の改善及び教科等横断的な視点に立った資質・能力の評価・改善
→ 単元のまとめ、枠を越えた力を深める



という流れで行い

「本時の授業力の向上」

「単元全体の構成力の向上」

「枠を越えた力の指導力向上」

を短時間で効率的に考え、参加者も含めて次の授業力につなげたり、日々の単元から「教育活動の質の向上」を図ったりすることを目的としています。



【学びの姿を見取っている場面】



①では、学びの記録という授業の中での生徒や教師の言動について、目標を意識しながら、どのような姿が見られたかを読み取っています。その際、“黙読タイム”をとり、一人一人の先生方の学習評価する視点を高めながら、②において事実に基づく多面的な学習評価を実施しています。「何が身に付いたのか」をまず明確にすることで、授業改善の議論やその後の議論がブレないようになり、多くのアイデアが出て、授業者だけでなく参加者にとっても学ぶ時間となりました。

【授業者の声】

- 授業を、そして生徒の学びを客観的にみていただいて、新しい気づきや自分の偏った見方に気づきました。今後の授業づくりで気を付けていきたいです。
- 単元で取り組んだ「体づくり運動」を今回で終わるのではなく、他教科ともつなげて、「継続」して伝えていくことが大切だと感じました。



令和2年度～令和4年度までの単元研究会

令和2年度 単元研究会

フォローアップ、経験者研修Ⅱ 研究授業・単元研究会日程一覧

月	予定日(校時)	授業者氏名	単元研究会 予定実施日	学びの 記録者	ビデオ 撮影者	ファシリ テーター
7月	3日(金)3校時	遠藤砂絵教諭	7月10日(金)	岡	阿部	徹、和田
	10日(金)5校時	岡千愛教諭		砂絵		村上、八巻
7月	15日(水)2校時	橋本玲教諭	7月15日(水) (校内全体研修)	青木	太田	青木、太田 (記録:鈴木)
	8日(火)3校時	岡千愛教諭		砂絵	徹	徹、和田
9月	2日(水)4校時	遠藤砂絵教諭	9月9日(水)	岡	八巻	村上、八巻
	25日(金)3校時	遠藤徹教諭		和田	村上	砂絵、村上
	30日(水)2校時	和田拓也教諭		徹	八巻	岡、八巻
	10月16日(金)	村上		砂絵	徹	
10月	16日(金)3校時	八巻美貴教諭	10月16日(金)	村上	砂絵	徹
11月	13日(金)3校時	青木梨紗教諭	11月13日(金) (校内全体研修)	鈴木	橋本	鈴木、橋本
	18日(水)2校時	鈴木奈緒教諭		鈴木	橋本	鈴木、橋本
	26日(木)3校時	岡千愛教諭		鈴木	橋本	鈴木、橋本
12月	2日(水)4校時	村上まゆみ教諭	12月7日(月)			
	3日(木)3校時	太田賢孝教諭				
1月	19日(火)4校時	遠藤砂絵教諭	1月26日(火)	岡	和田	岡、徹

令和3年度 単元研究会

初任者研修・フォローアップ研修、5年経験者研修の研究授業・単元研究会の実施予定について

1 経験者研修等の研究授業日程一覧

月	予定日(校時)	氏名	予定教科等 *変更可	単元研究会 予定実施日	学びの 記録者	ビデオ 撮影者	ファシリ テーター(2 人)	全体		
6月	1日(火)	◎山田教諭	体育	6月11日 (金)	黒澤	山田	富村、 高橋	富村		
	2日(水)	◎黒澤教諭	体育		山田	富村、 大関				
7月	9日(金)	阿部教諭	生活単元学習	7月15日 (水)	樋口	演尼	森田、樋口	富村		
	13日(火)	渡邊教諭	生活単元学習		渡邊					
	14日(水)	◎黒澤教諭	体育		7月26日 (月)	山田	黒澤			
9月	6日(月)	◎菊沼教諭	◎特別活動 「遠征準備等」 「心と体の成長」	9月6日 (月)	黒澤			富村		
	7日(火)	相原教諭	生活単元学習	9月17日 (金)	根本	佐々木、 安島、鈴木	室井			
	17日(金)	佐藤教諭	生活単元学習	9月27日 (月)	相原	鈴木、 佐々木、 安島			岡	
	24日(金)	鈴木教諭	国語	9月27日 (月)	安島	相原	相原、佐藤			
10月	10月4日(月) ～8日(金)	◎黒澤教諭	担当教科等 (休養を除く)	10月13日 (水)	山田	富村	菊田、八巻	富村		
	28日(木)	演尼教諭	作業学習		11月5日 (金)	森田	阿部		阿部、樋口	室井
	29日(金)	佐々木教諭	国語		佐藤	安島	鈴木、 渡邊			
11月	25日(木)	根本教諭	算数	12月2日 (木)	鈴木	佐藤	相原、佐々木	岡		
12月	10日 (学校公開日)	森田教諭	体育	(学校公開日)	阿部	樋口		岡		
		安島教諭	情報		佐々木					
1月	1月19日(水) ～28日(金)	◎黒澤教諭	担当教科等 (休養を除く)	1月31日 (月)	山田			富村		
		◎山田教諭	担当教科等 (休養を除く)		山田					
		◎菊沼教諭	◎体育「保健」 「長谷川教諭等」 「感染症予防」		山田					

令和4年度 単元研究会

初任者研修・フォローアップ研修、5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修の
研究授業・単元研究会の実施予定について

1 経験者研修等の研究授業日程一覧

月	予定日(校時)	氏名	予定教科等 ○校時	単元研究会 予定実施日	学びの 記録者	ビデオ 撮影者	ファシリ テーター(2人)	全体		
5月	31日(火)	村木教諭	保健体育②	6月15日 (水)				富村		
	31日(火)	五十嵐教諭	音楽②							
7月	5日(火)	村木教諭	保健体育②	7月1-3日 21日(木)				富村		
	*14日(木)		*保健体育②							
	5日(火)	五十嵐教諭	音楽②							
9月	12日(火)	山田教諭	生単②	7月21日 (木)	山田	黒澤	黒澤	富村		
	14日(水)	村木教諭	国語①		9月21日 (水)	五十嵐	富村		渡邊	八巻
10月	15日(木)	中村教諭	算数②	10月13日 (木)	中村	佐々木	佐々木	根本		
	16日(金)	室井教諭	職業②か④		前:初任 後:経験5	室井	大関		大関	
	28日(水)	佐々木教諭	生単③		10月13日 (木)	佐々木	中村		中村	富村
11月	4日(火)	黒澤教諭	生単③	10月25日 (火)	黒澤	大関	大関	富村		
	7日(金)	五十嵐教諭	国語①		村木	富村	庄司		渡邊	
	14日(金)	伊藤教諭	職業③		前:初任 後:経験5	伊藤	室井		室井	富村
	17日(月)	齋藤教諭	家庭②		前:初任 後:経験5	齋藤	伊藤		伊藤	
11月	27日(木)	大関教諭	数学①	11月2 (火)	大関	山田	山田	根本		
12月	15日(火)	室井教諭	作業学習 (後期現場実習)	12月 (火)	室井	黒澤	黒澤	根本		
12月	9日(金) (学校公開日)	室井教諭	職業③	12月 (火)	学校公開 本校			根本		
	13日(火)	五十嵐教諭	生単③							
	16日(金)	村木教諭	職業③							

学びたい人が参加しています！
途中参加、退席OK！

単元研究会(3年間で26回)に参加した先生方、この3年間で

延べ520人以上が参加！(R4.10.31現在)

自主的に授業や単元構想、学習評価を学び、自分の授業、単元に生かす！

単元研究会を実施後



単元案

単元研究会



得たアイデアから、
引き続き単元指導を行う。

単元を実施した後

実践報告書

実施した「授業改善アイデア」実践報告

【本時の個別の指導目標】
①自分で考えたり、友達のことを思いたりして、南穂市の土地の高さや広がりについて知ることができる。
②土地の高さや広がりについて地図や地形を指さしたり、模型を使って、場所による違いを自分なりに表現することができる。

①〇模型を手がかりにして自分で考えることができた。
①「高さは下に低い」「東の側が学校より高い」と自分の言葉にして考えることができた。
●高さや広がりを考える上での基礎が分かっておらず、発想が難しい。
②〇土地の広がりについて、高さに気付くことができた。
②土地の広さについては、友達の見解を参考にし、模型を触りながら、言葉にすることができた。

単元研究会から得た本時の授業改善アイデア
【ことば】【発想】【指導】【教材】【構成】の観点での整理
【ことば】
○「高い」「低い」「がさい」など言葉掛けを扱う言葉の整理をするよ。
○模型を地図と同じ方向で提示し、方向を書き添えておくよ。
【指導】
○グループワークをテレビに映して見せようよ。
【教材】
○言葉の精選。
【構成】
○知識が身に付くよ。
【その他】
○学習・生活態度

単元研究会から得た単元のまとまりでの授業改善アイデア
・国語科での対話の学習ができる。
・土地の高さや広がりから、地形の川や農業の産物立ちにつなげる。
・小学校からの学習のつながり。

【アイデアを実践してみた】
単元案の改善、単元終了後の学習評価は、別冊単元案をご覧ください。
今回の授業改善のアイデアを受けて、もう一度土地の高さや広がりについて学習した。アイデアに準って「模型を地図と同じ方向で提示し、方向を示すこと」「高さや広がりから考える基準となる自分の模型、地図上を置くこと」を実践して学習を進めると、「山が高い、自分より山が高いから」「自分の家は低い、自分の家より低い」と平地のことも考え、表現することができた。また、土地の広がりについて考えようとして、西から東へ小さい山が4個出ている。と自分で方向を用いて、言葉で考えを表現することができた。準って学習した。単元終了後の学習評価は、別冊単元案をご覧ください。
【次の単元へのつながり】
今回は、「外国の様子について知る」という単元で、外国の文化や風習について知ったり、日本との違いについて考えたりしていく。その際、今回学んだ「生徒の発想や学習・生活態度」「生徒の視点」といったことを十分に考慮しながら、教材研究を行い、生徒が分かる授業を展開していきたい。

実践後の振り返り

単元研究会で行った
多面的な学習評価

単元間のつながり、
他教科とのつながり
等のアイデア

単元終了後、「何が身に付いたのか」、
観点別学習状況の評価

単元案学習評価入り

生活科
①砂遊びや砂遊びの道具・おもちゃ、友達の違いや遊びの楽しみを味わうことができる。
②砂遊びの道具やおもちゃに思い入れを持って遊ぶことができる。
③友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができる。

図画工作科
①砂や小石等の自然物に触れながら、砂を握る、積み上げる、砂山を作る、小枝を並べる等の遊びをすることができる。
②砂の固さや水分の量をイメージしながら、砂を握ったり押しつぶしたりして形を表現することができる。

学習評価
〇砂遊びの道具やおもちゃに思い入れを持って遊ぶことができる。
〇友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができる。
〇砂遊びの道具やおもちゃに思い入れを持って遊ぶことができる。
〇友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができる。
〇砂遊びの道具やおもちゃに思い入れを持って遊ぶことができる。
〇友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができる。

(3)単元研究会の実施後は～普段と同じサイクルを回すことで、さらに技術力の向上へ～

単元研究会後は、**実践報告書と単元案（学習評価入り）**は、**悉皆研修者に回覧して、学び合う機会を設定している**。悉皆研修の先生方からは「（単元案を）やらない方が、不安になる。」という、漠然と単元を進めていくことに不安があるとの声が聞かれ、日々の授業において、単元を構想していくためのツールとして、単元案を作成し取り組む先生方が増えている。子どもの学びを考え、単元構想を行なうことで、生徒の学びが変わっていくことや資質・能力が育まれていくことを実感しているからその感想である。また、日常的に単元案での単元構想に取り組む先生方の資質向上が顕著に見られ、平成28年中教審答申で示している「教員の資質向上」のためには、「単元のまとまりを考える力をつけていくことで資質向上が図られる」という部分において、立証できたのではないかと感じる。単元研究会にて、日々の単元案を使用することで、他の教員についても「自分の授業をよくしたい」と、日常的に単元案を活用し取組む組織風土が生まれてきており、持続可能な研修として、各教員が単元研究のサイクルを回している。

【単元研究会後の授業者の声：R2授業改善ハンドブック Vol2、R3授業改善ハンドブック Vol3より】



目標を立てた時点での生徒の姿と評価後の生徒の姿では、若干の開きがありました。単元のまとまりの中で生徒の姿を明確に捉えながら授業を行わなければならないことを実感できました。「何をいつ学び、何ができるようになるのか」を意識すること、「単元をコントロールする必要があるってこのことか。」と改めて考えることができました。



単元の最初は子どもたちが見学に行ったお店やその商品に思う存分浸れるような学習活動の設定が必要だったと感じる。お店について浸った後、お店の「種類」や「広さ」といった様々な見方を取り入れて考えられる単元設定だと、より「お店」について深く学ぶことができたのではないかと思った。今回の単元を通して、「お店」といった一つの題材にも色々な見方ができ、どの見方を、単元のどのタイミングで取り入れるかが、子どもたちの見方・考え方を広げる上で重要になってくると痛感した。



あくまでも先に「活動」を決めるのではなく、どのような学習指導要領の「内容」を生徒に学習させたいのかを考え、「活動」に入っていけるかが大切だと実感しました。そのためにも学びの履歴を活用して、履修状況を確認していきたいです。また、単元の構成が曖昧だと、どのような授業をしたいのかがブレると感じます。生徒自身が授業していて、どの部分に向かっているのか分かるように、単元の目標から外れないように授業をしていくことが大切だと考え、次に生かしていきたいと思います。



発問内容や生徒の表現に対する声かけ、発言の取り上げ方を目標に沿って意識的に行わなければ、目指す資質・能力を身に付けることができないことに気付きました。キーワードとなる発言があっても教師が目標を意識していなければ取り上げることができないと実感し、いかに生徒から意見を引き出して教師が活用できるかが重要であると考えました。また普段授業を実施しないからこそ、生徒の反応の予測や、ねらいに沿った授業内容になっているか等、T1との授業準備を入念に行い、模擬授業を重ねることが大切であると実感しました。(養護教諭)

このような単元研究会を積み重ねることで、各教科等の資質・能力以外に大事にする力の存在(教科等横断的な視点に立った資質・能力等)や、教科の中での単元のつながりにおける12年間を見通した学びが必要であること、重複障がいのある児童生徒にとっても教科別の指導の方が効果的な内容もあること等、次の第2節以降につながる取り組みのきっかけが多く生まれ、ここから教育課程編成へとつながっていきました。



2

教育課程に関わる整備・開発

◆カリマネ側面(ア)、(イ)対応

～カリキュラムとマネジメントに必要なもの～

【突破口3】 12年間を見通した各教科等の年間指導計画

(1) 学びの連続性～本当に、知的障がい教育にカリキュラムが整っているのか～

それぞれの単元研究を進めていく中で、本人が何を学んできたのか、習得状況はどうかという「学びの履歴」に関する問題点、課題点が出てきた。

それは、高等部1段階オ「我が国の国土の様子と国民生活」を学んでいた生徒Aが、ふと、「先生、川ってどこから流れてくるのですか？」と質問をした。改めて学級の生徒に聞くと、半数以上が分からない、もしくははっきりしないとの答えがあった。つまり、単元同士での学びのカリキュラムに空白が生じている可能性があることが見えてきた。

上記の問題点は、図6のように考えられる。

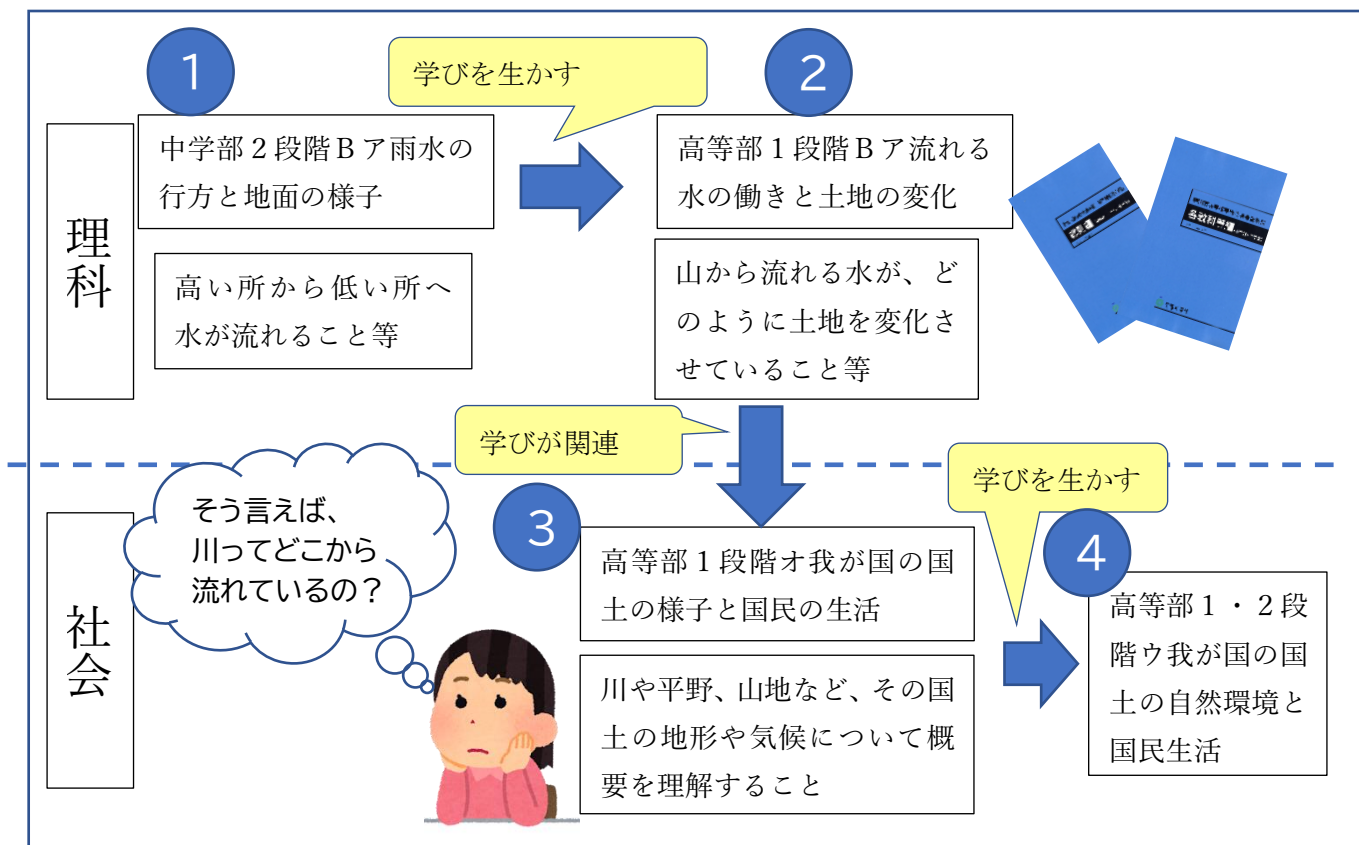


図6 「単元同士の学びがつながっている関係性」

つまり、生徒Aは、高等部1段階の内容や中学部2段階の内容を学習していないことから、このよう

な質問が出てきたのだと考える。これでは、川や平野、山地などを覚えたとしても、知識が断片的であり、本質をつかめないまま知識偏重型になる可能性がある。

(2) 教員一人の力ではどうしようもない～最大限に力を伸ばせるようにカリキュラムを整える～

「学びの履歴」を活用し、社会の教科内で考えて「我が国の国土の様子と国民生活」を選択したとしても、全体のカリキュラムを整えなければ同様のことが起きると考え、教員一人の力ではどうしようもないことが見えてきた。

また、そもそも上記のような問題は、知的障がいの程度が比較的軽度の生徒が、学習指導要領が示す高等部2段階の内容を学びきるためのカリキュラムが存在しないということに起因していることにたどり着いた。学習指導要領は、特に示す場合を除き、教科等を履修することになっている。「履修」の意味からすると、各教科等で示されている一部の内容や領域を学ぶことではない。つまり、高等部2段階まで学ぶことができる生徒が最後まで学びきるカリキュラムが存在しないこと自体が問題であり、そこに令和2年度、学校全体で取組んできた（写真1）。



写真：学校全体で、教科会に分かれて、各教科等の年間指導計画に取組む様子

もちろん、高等部2段階まで学びることができる生徒は一部であるので、従来通り、習得状況に応じて、本人の段階に合わせて指導することは変わらない。しかし、各教科等の年間指導計画について、本人の段階に合わせた学年に変更できるようにすることで、授業者が毎年年度末等に年間指導計画を作成する多忙化を解消できるだけでなく、学習指導要領の内容から考えるので、指導者が悩まないようになり、「どう教えるか」という本質的な所で時間を使うことができるようになった。

令和3年度には、特別の教科道徳や特別活動、総合的な学習（探究）の時間等についても改善を図り、現在に至る。

只今、ホームページ上で公開している。

各教科等年間指導計画

教科・学年ごとの年間指導計画です。

国語

- 小学部1年国語.docx
- 小学部2年国語.docx
- 小学部3年国語.docx
- 小学部4年国語.docx
- 小学部5年国語.docx
- 小学部6年国語.docx
- 中学部1年国語.docx
- 中学部2年国語.docx
- 中学部3年国語.docx
- 高等部1年国語.docx
- 高等部2年国語.docx
- 高等部3年国語.docx



隣のQRコードから、各教科等の年間指導計画を見ることができます。各学校で変更できるようにWord版ですので、パソコンでの閲覧がおすすめです。



相馬支援学校(R4)

○各学年の単元配列表 ○各教科等の年間指導計画等について

【二つの目的】

① 私たちが日々の授業で育成を目指す二つの資質・能力である「教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力」「教科等横断的な視点に立った資質・能力」について見える化して、教育活動の質の向上を図る。

* 知識が断片的にならないように各教科等での学びの活用の幅が広がるように教育活動の質の向上(カリキュラム・マネジメント)を図るため。

② 学習指導要領に記載されている内容の小学部6年間、中学部3年間、高等部3年間を見通した計画を作成する。

* 教科等の中での学び、教科等間での学びのつながりがあるため、学習指導要領の内容をバランス良く履修して学びきることができるようにするため。



【注意】子どもたちの習得状況に応じて、本人に合わせた知的障がい教育における各教科等の段階を学ぶことは従来通りです。学年で示された内容が難しい場合は、その領域での本人の習得状況に応じた段階で学ぶことにより、偏りなく調和的な発達を目指すことは変わりありません。

【情報公開に当たって】

毎年、より教育活動の質の向上を図るために、指導時期、単元間でのつながりなどを検討しています。あくまでも現在のものです。全国の学校でも、日々の多忙な業務の中でも、“作成・活用したい”と考える学校が多いことが分かりました。

あえて、ワード版にて公開します。

ぜひ、形式等を有効活用して、ご自由に、各学校のバージョンに変更して、学校が取り組みやすいようにしていただければと思います。改善点等がある場合は、各学校で解決していただき、その情報を本校にも教えていただければ、さらに私たちの向上につながりますので、よろしくお願いします。

【注意】まだ、修正しながら行っている部分があります。また、私たちも日々の業務を行いながらの開発でしたので、誤字脱字、整合性の細かい調整等まだ改善すべき内容もありますのでご注意ください。

学校の枠を越えて、目指す教育のために

<div style="text-align: center;"> 高等部 2年生 社会 年間計画 【1段階】 </div>	
指導内容	単元名（仮） ＊各教科等を合わせた指導で行う
工 産業と生活 教科別の指導 (ア) 我が国の農業や水産業における食料生産に関わる学習活動 ⑦ 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。 ⑧ 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。 ⑨ 生産物の種類や分布、生産量の変化などに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。 ⑩ 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。	「私たちの生活と食料生産」 ①暮らしを支える食料生産 ②米作りの盛んな地域 ③水産業の盛んな地域 ＊小 5、知・思とほぼ同一。
ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活 教科別の指導 (ア) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連に関わる学習活動 ⑦ 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害が国土と国民生活に影響を及ぼすことを理解すること。 ⑧ 関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解するとともに、公害が国土の環境や国民の生活に影響を及ぼすことを理解すること。 ⑨ 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。 ⑩ 公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、公害防止の取組を捉え、その働きを考え、表現すること。	「私たちの生活と環境」 ①自然災害を防ぐ ＊国土の自然災害のみ →国や都道府県の防災の取り組みは、2段階で学ぶ ②私たちの生活と森林→＊ ③環境を守るわたしたち
オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史 教科別の指導 (イ) 我が国の歴史上の主な事象に関わる学習活動 ⑦ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、関連する先人の業績、優れた文化遺産などを理解すること。 ⑧ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の変化を考え、表現すること。	「日本の歴史」 ＊小 6 知については、大まか 思については、ほぼ同一。しかし、通史 で扱うことがないため、 <u>修学旅行</u> な ど、 <u>学習旅行</u> で使える。
カ 外国の様子 教科別の指導 (ア) グローバル化する世界と日本の役割に関わる学習活動 ⑦ 異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解すること。 ⑧ 外国の人々の生活の様子などに着目して、日本の文化や習慣との違いについて考え、表現すること。	「世界の中の日本」 ①日本とつながりの深い国々 ＊小 6、「世界の未来と日本の役割」 については、取り扱わず
【2段階】	
ア 社会参加ときまり 生活単元学習 作業学習 (ア) 社会参加するために必要な社会生活に関わる学習活動 ⑦ 社会の中で互いに協力しながら、社会生活に必要な知識や技能を身に付けること。 ⑧ 社会生活の中で状況を的確に判断し、国民としての権利及び義務、それに伴う責任について考え、表現すること。	＊基本的には、ア、イについては、 特別支援教育独自。 内容解説から、 「生活に関係の深い制度」 ○税金、国民の権利、模擬選挙 ○自動車運転免許 ○選挙権
ア 社会参加ときまり 教科別の指導 主権者教育 生活単元学習 作業学習 (イ) 社会生活に関わる学習活動 ⑦ 社会生活の中で互いに協力しながら、社会生活に必要な知識や技能を身に付けること。 ⑧ 社会生活の中で状況を的確に判断し、国民としての権利及び義務、それに伴う責任について考え、表現すること。	の深い制度、選挙、租税、 に関する制度 、厚生年金、障害者年 障害者手帳

なんでも、そのままで！



知的障がいの特別支援学校では、障がいの程度が重く、学習の習得状況から小学部 1 段階の内容を繰り返し学ぶ児童生徒も在籍しています。どのように指導していいのか受け持った教員が悩むことが多いことから、令和 3 年度に「1 段階プロジェクト！」を有志で立ち上げ、1 段階の内容をさらに分析し、具体的に発達の視点で考えて、3 年サイクルでゆっくりと履修し、習得することができる年間指導計画、単元配列表を開発し、こちらは実践検証中です！！



各教科等の年間指導計画の一部

高等部 2年生 道徳 年間計画	
*主に、中学校を参考	
指導内容	参考:単元名(仮)
<p>A 主として自分自身に関すること 向上心, 個性の伸長 (3) 自己を見つめ, 自己の向上を図るとともに, 個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。</p>	<p>* 中学校の道徳の教科書参考 【作業学習】</p>
<p>A 主として自分自身に関すること 真理の探究, 創造 (5) 真実を大切に, 真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。</p>	<p>* 中学校の道徳の教科書参考 【作業学習】 【生活単元学習】</p>
<p>B 主として人との関わりに関すること 相互理解, 寛容 (9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに, それぞれの個性や立場を尊重し, いろいろなものの見方や考え方があることを理解し, 寛容の心をもって謙虚に他に学び, 自らを高めていくこと。</p>	<p>* 中学校の道徳の教科書参考 【作業学習】 【生活単元学習】</p>
<p>C 主として集団や社会との関わりに関すること 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度 (16) 郷土の伝統と文化を大切に, 社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め, 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し, 進んで郷土の発展に努めること。</p>	<p>【生活単元学習】</p>
<p>C 主として集団や社会との関わりに関すること 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度 (17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに, 日本人としての自覚をもって国を愛し, 国家及び社会の形成者として, その発展に努めること。</p>	<p>* 中学校の道徳の教科書参考 【生活単元学習】</p>
<p>D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること 生命の尊さ (19) 生命の尊さについて, その連続性や有限性なども含めて理解し, かけがえのない生命を尊重すること。</p>	<p>* 中学校の道徳の教科書参考 【生活単元学習】</p>
<p>D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること 感動, 畏敬の念 (21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち, 人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。</p>	<p>* 中学校の道徳の教科書参考 【生活単元学習】</p>

*知的障がいの各教科の段階と、小学校の内容との関連性から、中学校の内容について、高等部1年、2年、3年で学ぶように配列している。

【突破口4】教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化

(1)教育課程編成に必要な明確化に向けて

単元研究会の「単元構想」のブレインストーミングで、「～な力が必要だよ。」と教科等の指導目標とは、別な力の存在、その必要性に気付いた。

つまり、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」について、教員同士の話し合いの中で、言及し始めたのである。また、各教科の関連を図る中で、各教科の学びをしている際に、教科等横断的な視点に立った資質・能力について実感するような場面を感じた授業者が出始めた。

改めて、教科等横断的な視点に立った資質・能力について確認すると、学習指導要領総則編解説（小学部・中学部）の記載から、図7のようにまとめられる。

教科等横断的な視点に立った資質・能力



○学習の基盤となる資質・能力

(1) 各学校においては、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

「ここに挙げられた資質・能力の育成以外にも、各学校においては児童生徒の実態を踏まえ、学習の基盤づくりに向けて課題となる資質・能力は何かを明確にし、カリキュラム・マネジメントの中でその育成が図られるように努めていくことが求められる。」としています。



○現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

(2) 各学校においては、児童又は生徒や学校、地域の実態並びに児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

各学校においては、児童生徒や学校、地域の実態並びに児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮して学校の特色を生かした目標や指導の重点を計画し、教育課程を編成・実施していくことが求められるとしています。



学習指導要領には、学習の基盤となる資質・能力について、参考となる資質・能力を掲載しています。



図7:教科等横断的な視点に立った資質・能力について

(2)職員全体で、本校の教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化

指導要領上はあくまでも参考として示しているが、本校の特色を踏まえ、これらの資質・能力が明確になっていないことが課題であり、単元を実践していく上で必要になった。

そこで、令和2年度教育課程全体協議会にて、7つのグループに分け、ワールド・カフェ方式にて、創造的にアイデアを出し合い、整理していく方法をとった。

教育課程全体協議会にて、全教職員で、本校の実態や地域等を考慮してアイデアを出し合い、教科等の枠組みを越えた「大切にしたい視点」がたくさん出された。教育課程に教科等横断的な視点に立った資質・能力を明記し、全教職員で教育活動の中で、意図的に育成を目指すように位置づけた。

本校の児童生徒の実態や地域に添った教科等横断的な視点に立った資質・能力

学習の基盤となる資質・能力について

現代の諸課題に対応して求められる資質・能力について

上記の資質・能力以外に、相馬支援学校ならではの力

自由に、大切に思うことを出し合い、共有し合っています！



<p>【1年】 1. 基礎的な知識・技能の習得 2. 基礎的な思考力・判断力・問題解決能力の育成 3. 基礎的なコミュニケーション能力の育成 4. 基礎的な生活態度の育成</p>	<p>【2年】 1. 基礎的な知識・技能の習得 2. 基礎的な思考力・判断力・問題解決能力の育成 3. 基礎的なコミュニケーション能力の育成 4. 基礎的な生活態度の育成</p>	<p>【3年】 1. 基礎的な知識・技能の習得 2. 基礎的な思考力・判断力・問題解決能力の育成 3. 基礎的なコミュニケーション能力の育成 4. 基礎的な生活態度の育成</p>	<p>【4年】 1. 基礎的な知識・技能の習得 2. 基礎的な思考力・判断力・問題解決能力の育成 3. 基礎的なコミュニケーション能力の育成 4. 基礎的な生活態度の育成</p>	<p>【5年】 1. 基礎的な知識・技能の習得 2. 基礎的な思考力・判断力・問題解決能力の育成 3. 基礎的なコミュニケーション能力の育成 4. 基礎的な生活態度の育成</p>	<p>【6年】 1. 基礎的な知識・技能の習得 2. 基礎的な思考力・判断力・問題解決能力の育成 3. 基礎的なコミュニケーション能力の育成 4. 基礎的な生活態度の育成</p>
--	--	--	--	--	--

情報を整理・全職員で修正し、
学部毎に段階を踏んで明確化!

書き出された文言・キーワードから、各学部の力 素案

学習の基盤となる資質・能力	○言語能力の育成 国語科を要として、全ての教科等のそれぞれの特質や児童生徒の発達の段階に応じながら、「語彙の段階的な獲得」「言語理解」「情報整理」「感性・情緒の表現」「聞く・読む・書く」等の言語能力の育成を図る。また、年間指導計画及び単元案等で、国語科を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同士の関連を図ることで、言語能力の確実な育成や問題解決に必要な「コミュニケーション能力（挨拶、返事、やりとり等）」「知識を活用した表現や思考」「創造的・論理的思考の表現」等の言語能力の育成も図っていく。		
	【小学部】 国語科を要として、全ての教科等のそれぞれの特質や児童の発達の段階に応じながら、「語彙の段階的な獲得」「言語理解」「聞く・読む・書く」等の学んで活用できる言語能力の育成を図る。また、年間指導計画及び単元案等で、国語科を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同士の関連を図ることで、言語能力の確実な育成や教科等の枠を越えた必要な力として「コミュニケーション能力（挨拶、返事、やりとり等）」等の言語能力の育成も図っていく。	【中学部】 国語科を要として、全ての教科等のそれぞれの特質や生徒の発達の段階に応じながら、「語彙の段階的な獲得」「情報整理・読解力」「感性・情緒の表現法」等の学んで活用できる言語能力の育成を図る。また、年間指導計画及び単元案等で、国語科を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同士の関連を図ることで、言語能力の確実な育成や教科等の枠を越えた必要な力として「コミュニケーション能力」「知識を活用した表現や思考」等の言語能力の育成も図っていく。	【高等部】 国語科を要として、全ての教科等のそれぞれの特質や生徒の発達の段階に応じながら、「語彙の段階的な獲得」「情報整理・読解力」「感情表現」等の学んで活用できる言語能力の育成を図る。また、年間指導計画及び単元案等で、国語科を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同士の関連を図ることで、言語能力の確実な育成や教科等の枠を越えた必要な力として「コミュニケーション能力」「知識を活用した表現」「創造的・論理的思考の表現」等の言語能力の育成を図っていく。
	○情報活用能力の育成 「生活科」「職業科（職業・家庭科）」「情報科」「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」等を要として、各教科等の特質に応じて、ICT等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理したりする力の育成を図る。また、この学習を遂行するために、「必要となる情報手段の基本的な操作（スマートフォン、 タブレット端末 、コンピューター等）の習得や情報モラル等の生きた知識・技能を身に付ける。これらの資質・能力を確実に育てていくために、年間指導計画及び単元案等で、「自立活動」「生活科」「職業科（職業・家庭科）」「情報科」等を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同士の関連を図り、情報活用能力を一層発揮できるようにする。		



これらの文言は、教育課程上の方針にも記載し、学校として育む資質・能力として位置づけています。もちろん、単元案にも、実際に教科等の学びの文脈の中で、育成・発揮できるようにしていきます。明確な分、悩みません！！あとは、実践のみ！

【小学部】

「生活科」等を要として、各教科等の特質に応じて、情報機器（タブレット端末、コンピューター等）の簡単な操作に慣れ親しむ力を育む。小学部段階で目指す情報機器の操作に慣れ親しむ力とは、写真を撮って学習に活用すること、タブレット端末等を使った学習、簡単なゲーム等の扱い方等、児童の興味・関心に合わせて取り入れていく。

これらの資質・能力を確実に育んでいくために、年間指導計画及び単元案等で、「生活科」等を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同士の関連を図り、情報活用能力を一層発揮できるようにする。

【中学部】

「職業・家庭科」「総合的な学習の時間」等を要として、各教科等の特質に応じて、ICT等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理したりする力の育成を図る。また、この学習を遂行するために、基礎的な情報モラルの知識及び情報手段の基本的な操作の技能を身に付ける。中学部段階における知識及び操作の技能としては、生徒の発達の段階に応じながら、情報モラルでは「SNSについて」、コンピューター等の基本的な操作では「キーボード等の操作・入力」等について取り扱うこととする。これらの資質・能力を確実に育んでいくために、年間指導計画及び単元案等で、「数学科」「職業・家庭科」等を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同士の関連を図り、情報活用能力を一層発揮できるようにする。

【高等部】

「職業科」「情報科」「数学科」「総合的な探究の時間」等を要として、各教科等の特質に応じて、ICT等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理したりする力を育成する。また、この学習を遂行するために、実践的な情報モラルの知識及び情報手段の基本的な操作の技能を身に付ける。高等部段階における知識及び操作の技能としては、発達の段階に応じながら、情報モラルでは「ルールやマナーを守った情報機器の正しい使い方」、情報手段の基本的な操作では「キーボード等の操作・入力」「スマートフォン等での情報活用」「アプリケーションやソフトウェアの活用による情報デザイン」等について取り扱うこととする。これらの資質・能力を確実に育んでいくために、年間指導計画及び単元案等で、「職業科」「情報科」「数学科」等を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同士の関連を図り、情報活用能力を一層発揮できるようにする。

○問題発見・解決能力の育成

各教科等において、物事の中から問題・疑問を見出し、学習で得た知識から解決方法を探して、結果を予測しながら実行して振り返り、試行錯誤等をしながら、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるようにする。これらの資質・能力を確実に育んでいくために、年間指導計画及び単元案等で、「特別活動」「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」等、各教科等で身に付けた力が統合的に活用できる場面を設定していく。

また、児童生徒自身の学習上又は生活上の課題に対して、「自立活動」「職業（職業・家庭）」「特別活動」を要として、自己の理解を深め、自身の長所を知り生かすとともに、自身の課題を理解し、その改善や解決に向けて行動できる力を育成する。

【小学部】

各教科等において、物事の中から問題・疑問を見出し、学習で得た知識から解決方法を探し、試行錯誤等をしながら、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるようにする。小学部段階では、各教科の特質に応じた取り組みの他に

【中学部】

各教科等において、物事の中から問題・疑問を見出し、学習で得た知識から解決方法を探して、結果を予測し試行錯誤等をしながら、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるようにする。中学部段階では、「知識を活用した表現

【高等部】

各教科等において、物事の中から問題・疑問を見出し、学習で得た知識から解決方法を探して、結果を予測し試行錯誤等をしながら、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるようにする。高等部段階では、論理的思考で考え、

	<p>も、「生活科」を中心としながら<u>簡単なゲーム等を通した手順や操作などプログラミング的思考</u>を取り入れ、問題発見・解決能力の一層の充実を図る。</p> <p>これらの資質・能力を確実に育んでいくために、年間指導計画及び単元案等で、各教科等での学んだ資質・能力を発揮できるように各教科等横断的に教育の内容を組み立てていくようにする。</p>	<p>や思考」などの言語能力を活用したり、情報活用能力を活用したりしながら「<u>数学科</u>」、「<u>社会科</u>」、「<u>職業・家庭科</u>」等において<u>プログラミング的思考</u>を取り入れ、問題発見・解決能力の一層の充実を図る。</p> <p>これらの資質・能力を確実に育んでいくために、年間指導計画及び単元案等で、各教科等での学んだ資質・能力を発揮できるように各教科等横断的に教育の内容を組み立てていくようにする。また、「特別活動」「総合的な学習の時間」等、各教科等で身に付けた力が統合的に活用できる場面を設定していく。</p>	<p>課題解決に向けた表現をしていく力などの言語能力を活用したり、情報活用能力を活用したりしながら「<u>数学科</u>」「<u>社会科</u>」「<u>職業科</u>」「<u>情報科</u>」等において<u>プログラミング的思考</u>を取り入れ、問題発見・解決能力の一層の充実を図る。</p> <p>これらの資質・能力を確実に育んでいくために、年間指導計画及び単元案等で、各教科等で学んだ資質・能力を発揮できるように各教科等横断的に教育の内容を組み立てていくようにする。また、「特別活動」「総合的な探究の時間」等、各教科等で身に付けた力が統合的に活用できる場面を設定していく。</p>
<p>現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力</p>	<p>○現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力（相馬支援学校の地域・児童生徒の実態から）</p> <p>●地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成 ●地域と連携した「生活力」や「地域力」の育成 ●感染症対策、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成</p>		
	<p>【小学部】</p> <p>●地域の実態に応じた各種災害に対する「緊急時に対応する力」の育成を図る。</p> <p>小学部段階において、「生活科」「特別活動」を要として災害の種類（地震、洪水等）を理解し、誰と一緒に避難するかを知ったり、身を守る方法を理解したりする。</p> <p>●地域の人々と触れあい、共に学ぶ<u>経験や地域行事への参加等</u>を通して、互いに尊重し、共に生きていく力を育む。</p> <p>小学部段階では、「特別活動」「生活科」を要としながら、居住地校交流等の交流及び共同学習や地域にある身近な施設等の学習と関連させながら育んでいけるようにする。</p> <p>また、これらの資質・能力を確実に育んでいくためには、年間指導計画及び単元案等で、教科等横断的な視点に立って教科等同志の関連を図ったり、ICT等の情報機器を活用したりしながら、「生活力」及び「地域力」の育成の充実を図る。</p> <p>●感染症対策、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成を図る。</p> <p>小学部段階において、「自立活動」「体育科」等</p>	<p>【中学部】</p> <p>●地域の実態に応じた各種災害に対する「緊急時に対応する力」の育成を図る。</p> <p>中学部段階において、「社会科」「特別活動」「総合的な学習の時間」等を要として、災害の種類（地震、洪水等）を理解し、どのようにすれば身の安全を確保できるのか考えたり、周囲に助けを求める方法を身に付けたりする力を育む。</p> <p>●地域の人々と連携・協力したり、地域での体験活動等、共に活動する経験をしたりしながら、互いに尊重し、共に生きていく力を育む。</p> <p>中学部では、「社会科」「職業・家庭科」「特別活動」「総合的な学習の時間」等を要としながら、居住地校交流等の交流及び共同学習や南相馬市について学び体験する活動、地域の人材からの学び（地域の出前講座）を積極的に設定し、生活力、地域力を育んでいけるようにする。</p> <p>また、これらの資質・能力を確実に育んでいくためには、年間指導計画及び単元案等を</p>	<p>【高等部】</p> <p>●地域の実態に応じた各種災害に対する「緊急時に対応する力」の育成を図る。</p> <p>高等部段階において、「社会科」「特別活動」「総合的な探究の時間」等を要として、ICT等を活用した適切な情報収集をして、避難場所、避難方法を判断し、自ら行動できる力を育んでいくようにする。</p> <p>●地域の人々と連携・協力したり、地域での体験活動等、共にアイデアを出し合い創造する経験をしたりしながら、互いに尊重し、共に生きていく力を育む。</p> <p>高等部では、「社会科」「職業科」「特別活動」「総合的な探究の時間」等を要としながら、<u>地域との交流及び共同学習において</u>、共に創造して活動する機会や、卒業後に地域で過ごすために必要な「主権者教育」「消費者教育」等、情報活用能力と連携を図りながら設定し、育んでいけるようにする。</p> <p>また、これらの資質・能力を確実に育んでいくためには、年間指導計画及び単元案等を中心とした教科等横断的な視点に立って教科等同志の関連を図り、ICT等の情報機器を活</p>

	<p>を要として、健康・安全に対する基本的な知識を知り、予防に取り組むようにする。</p>	<p>科等同士の関連を図り、ICT等の情報機器を活用したりしながら、「生活力」及び「地域力」の育成の充実を図る。 ●感染症対策、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成を図る。 中学部段階において、「自立活動」「保健体育科」等を要として、健康・安全に対する基本的な知識を知り、どのように予防すればいいのか実生活上で考え、生きた知識・技能を身に付けていくようにする。</p>	<p>用したりしながら、「地域の力になる生徒」や「地域に貢献する力」を育む。 ●感染症対策、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成を図る。 高等部段階において、「自立活動」「保健体育科」等を要として、健康・安全に対する生活上必要な知識を知り、どのように予防すればいいのか実生活上で考えたり、予防方法を実践したりして、習慣化を図っていくようにする。</p>
<p>相馬支援学校ならではの力</p>	<p>○自己理解・自己実現力の育成 児童生徒自身の学習上又は生活上の課題に対して、「自立活動」「職業（職業・家庭）」「特別活動」を要として、自己の理解を深め、自身の長所を知り生かすとともに、自身の課題を理解し、その改善や解決に向けて行動できる力を育成する。</p>		
	<p>【小学部】 ○自己理解・自己実現力の育成 自分自身の学習上又は生活上の課題に対して、「自立活動」「特別の教科道徳」を要として、自分の得意な事を知ったり、良さを生かして学級での活動（係、児童会等）に取り組んだりしながら、発達段階に応じた自己実現を図っていくようにする。</p>	<p>【中学部】 ○自己理解・自己実現力の育成 自分自身の学習上又は生活上の課題に対して、「自立活動」「職業・家庭科」「特別の教科道徳」等を要として、キャリアガイダンスシート等を活用しながら、自分自身を見つめ、学校生活の中での自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくために努力し、発達段階に応じた自己実現を図っていくようにする。</p>	<p>【高等部】 ○自己理解・自己実現力の育成 自分自身の学習上又は生活上の課題に対して、「自立活動」「職業科」「特別の教科道徳」等を要とし、キャリアガイダンスシート等を活用しながら、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、生徒が自己理解を深めるとともに、自己と社会との関わりについて深く考え、将来の在り方生き方、進路を選択決定して、将来の生活において望ましい自己実現を図っていくようにする。</p>

普段の単元案

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】		
学習の基礎となる 資質・能力	現代的な諸課題に対応して求められる 資質・能力	相馬支援学校 ならではの力
言語能力 情報活用能力 問題発見・解決能力	地域で起る災害等の緊急時に対応する力の育成 生活力や地域力の育成 感染症、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成	自己理解・自己実現の育成

<教科等横断的な資質・能力>：地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成
地域の実態に応じた各種災害に対する「緊急時に対応する力」の育成を図る。

【評価】
台風19号と関連させながら学習を進める。自分に出来ることとして、「事前に台風が来る前に天気予報を見て避難の準備をする。」など知識を活用する姿が見られた。また、「避難をする道と避難場所を事前に調べておく。」と気付いたことを表現し、そのためにハザードマップを調べたり、水害で避難する時に膝の上から水がたまっている状態での移動しにくさを学んだりすることができた。



単元案に書くことで、日々の単元構想等に影響。意図的に教科等の文脈の中で育成・発揮できるようになってきたことを実感する先生も多くなってきました。



【突破口5】教育活動の質の向上をさせるための単元配列表

(1)教育活動の質の向上に向けて～カリキュラムが整った！どう組み立てるのか～

【突破口3】【突破口4】によって、各教科等の学び、教科等横断的な視点に立った資質・能力について、カリキュラムが整理されたことで、次はどうマネジメントすると教育活動の質の向上につながるか、という視点が必要になってくる。

いよいよマネジメントである。

マネジメントの仕方については、学習指導要領には次のように示している。



指導に当たっては、教科等ごとの枠の中だけではなく、教育課程全体を通じて目指す学校の教育目標の実現に向けた各教科等の位置づけを踏まえ、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、他の教科等における指導との関連付けを図りながら、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むことを目指したりしていくことも重要となる。～中略～

教育活動の質の向上を図ること、つまり、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むためには、単元のまとまりで身に付けた資質・能力を教科等の枠の中だけでなく、日頃の教育活動の中で、学びを活用するつながりを作っていくことが非常に大切になってくる。学校内で横断的に発揮された力は、家庭で、社会で使うことができる力へとつなげていくことができる。また横断的に発揮された力から、問題を発見して解決する力や情報を活用する力など、教科等の枠を越えた力にもつながってくる。これは、知識・技能が断片的になりやすい知的障がいがある児童生徒の学びにとっても最も重要とする部分である。

実現のためのポイントは3つ

- ①各教科等における教科内での単元のつながり
- ②他教科等の指導の関連付け
- ③教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化

特に、③に関しては、教科等間の指導の関連付けから③の教科等の枠組みを越えた資質・能力につながってくると述べている。

これらを考えるためには、既存の各教科等の年間指導計画だけでは、マネジメントが不可能である。

そこで、本校では、各学年での各教科等の単元が一覧で見えるようにした。

このことで、各学年が次年度の学習内容を見て、各教科等のつながりが生まれやすいように単元配列を改善したり、指導の関連付けを考えたり、教科等横断的な視点に立った資質・能力について考えたりするなど、既存の各教科等の配列から、より教育活動の質の向上が図られるように、カリキュラム・マネジメントすることができた。

こちらも只今、ホームページ上で公開している。



隣のQRコードから、単元配列表を示しているページにいけます。ページの最後になりますので、最後までスクロールしてください。各学校で変更できるようにWord版ですので、パソコンでの閲覧がおすすめです。



参考資料・学年の単元配列表① * 詳しくは QR コードからご覧ください。

中学部 道南の学校 2年

指導形態別の授業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	「話してみよう・伝えてみよう」	「聞いたことをメモしてみよう」★	「短歌を読もう」	「伝えたいことを文章に書いてみよう」★		「読んでみよう・感想を発表しよう」	「体験したことを書いてみよう」	「作品を読もう」	「経験したことを分かりやすく伝えよう」	「話し合いをしよう」★	「1年間を振り返ろう」	
数学	1000より大きい数	「長さをはかってみよう」「水の量を測ってみよう」	「どのように変わるか調べよう」		「まるい形を調べよう」「三角形を調べよう」		「新しい計算を考えよう～かけ算～」		「角の大きさの表し方を調べよう」			
社会		オ 我が国の地理や歴史「市の移り変わり」			ア 社会参加とさまり				カ 外国の様子「世界と日本の生活」		ク 産業と生活「働く人と私たちの暮らし」	
保健	歓迎会に参加しよう	春を楽しもう	野菜を育てよう	異文化交流会をしよう	夏休みを振り返ろう	学習発表会に参加しよう		秋を楽しもう	修了制作をしよう	お別れ会に参加しよう	卒業式に参加しよう	
音楽												
総合												
体育	「体づくり運動」	「陸上運動」	「球技(ゴール型)」	「器械運動」	「水泳運動」	「武道」	「保健」	「球技(ベースボール型)」	「球技(ネット型)」	「ダンス」		
音楽	「元気に歌おう」	「音楽を始めよう」	「いろいろな楽器を使って演奏しよう」		「みんなで歌や合奏を楽しもう」			「季節の曲に親しもう」		「心を込めて歌おう」		
学級活動	学級内の組織作り役割の自覚	学級や学校における生活上の問題の解決										
特別												
生徒会	前期生徒会総会1											
道徳	B 感謝(8)	B 礼儀(9)	B 友情、信頼(10)	A 節度、節制(3)				C 家族愛、家庭生活の充実(15)	C 勤労、公共の精神(14)		A 個性の伸長(4)	
日誌												

主に中学第1・2段階で設定 留意点 ○年間指導計画の各単科の内容を押しえ、漏れがないように指導していく ○本人の学習の習得状況により同じ領域の段階を合わせて指導をする。

参考資料・学年の単元配列表②＊詳しくはQRコードからご覧ください。

高等学校 通常の学級 1年

指導形態別の授業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	「メモをとりながら話を聞こう」④ 「国語辞典の使い方」 「比べてみよう」④ 「静かめながら聞こう」	「詩を読もう」④ 「好きなことを伝えよう」自	「形を整えて書こう1」(書写) 「お願いやお礼の手紙を書こう」	「人物に伝えたいことをまとめるよう」 「本に親しもう」★		「慣用句を使おう」④ 「言葉で考えを伝える」言	「本に親しもう」④ 「敬語の使い方」★		「物語の仕掛けを探そう」 「形を整えて書こう2」(毛筆)④	「調べた事を報告しよう」④ 「つなぐ言葉の働き」 「グループにまとめて整理しよう」言、情 「調べて要約をしよう」		「音読で表そう」④
算数	「10000、1匹、大きい数」★ 「整数と小数」④	「おそその数」★ 「数の筆算」 「除算」④	「かけ算の筆算のしかたを考えよう」④	「同じ数ずつ分ける時の計算を考えよう」④		「小数のしくみを調べよう」★ 「かけ算わり算の世界」④	「分数」④	「四角形の特ちょうを調べよう」 「形も大きさも同じ図形を調べよう」 「多角形と円をくわしく調べよう」④	「箱の形の特ちょうをしらべよう」④ 「立体をくわしく調べよう」④	「変わり方を調べよう」④	「割合をグラフに表して調べよう」★	
社会	「我が国の国土」 ○世界の国土		「我が国の国土」 ○国土の地形の特色			「我が国の国土」 ○低い土地、高い土地 ○国土の気候の特色(暖かい土地、寒い土地の暮らし)④				「○○の歴史を調べよう」④ *通史ではないので、学習旅行、修学旅行先等の地域④		
理科	「雲と天気の変化」情	「メダカの誕生」情			「流水のはたらき」実			「植物の発芽と成長」④			「ものとのけ方」④	
健康	「自己理解を深めよう」④	「いろいろな仕事」④(知る)	「現場実習に参加しよう」 「実習を振り返ろう」④	「健康実践(清潔・身だしなみ)」④		「社会の仕組み」④ 4.(1) 3年制計	「ビジネスマナー」地	「現場実習に参加しよう」 「実習を振り返ろう」④	「いろいろな事」④(分かる)	「働くことの意味」 「作業製品販売会に参加しよう」④	「作業製品販売会を振り返ろう」④	「自己評価、他者評価」目、★
作業	*各作業班の計画による(指導している教科等:国30、社会27、数学25、理科10、美術10、保健体育5、職業209、家庭20、情報7、自立)											
生涯	高校生として④ 校舎内の施設について知ろう④	「防犯教室・交通安全」④ 健康な生活について考えよう④	現場実習に参加しよう④ 「公共施設の役割と制度」★	働く場を見学しよう④ 「家でできること」④		異世代間交流の準備をしよう④	公共施設を利用しよう④ 「お金の使い方を知ろう」④	現場実習に参加しよう④	健康な生活について考えよう④	3年生の決断をしよう④	感謝の気持ちを伝えよう④ (主権者教育)④	一年間のまとめをしよう④
総合	【問】【地】ゴミについて考えよう。・ゴミを少なくする方法について考える。・どうやってリサイクルできる?・分類用のゴミ箱を作る。・テーマを決めて、リサイクル作品を作ってみよう。④ (日常生活に役立つもの、見たり触ったりして販促のもの芸術品、など)				【地】 交流及び共同学習(地域の高校)④		【防災】【避難】学校や地域について調べて地図に起こし、災害時の避難場所や経路、対応について考え、体験活動を通してより良い方法を見つけ出し、まとめることができる。・校内散策・校外災害が発生した時の対応、避難訓練④		【情】 沼島県について調べよう。ICT調べ方、まとめ方を知り、テーマについてまとめる。まとめたものを発表する。④			
情報	「ICTがもたらす利便性について知ろう」④	「ICTがもたらす危険性について知ろう」④	「情報マナーを知ろう」情	「ワードを使って入力しよう」④		「SNSの安全な利用の仕方について学ぼう」情	「ワードでポスター案内を作ろう」④	「身近にある情報デザインを知ろう」 ピクトグラム、表、グラフの読み取りなど④			「身近なネットワーク機器を知ろう」④	
体育	●体づくり運動 「体はくじ運動」 「体の動きを高める運動」④	●陸上競技 「短距離走・リレー」 「ハードル走」④	●水泳「クロール」④			●球技「バスケットボール」「サッカー」 「バドミントン」等④	●球技 「バスケットボール」「サッカー」 「バドミントン」等④	●球技 「バスケットボール」「サッカー」 「バドミントン」等④	●武道 「柔道(要検定)」④	●ダンス 「創作ダンス」「フォークダンス」④	●保健 「ストレスへの対処」等④	
音楽	「校歌を歌おう」④ 「好きな曲を発表しよう」④ 「季節の音楽を楽しもう」 歌「花」(歌唱)④		「合奏をしよう」情、問	「季節の音楽を楽しもう」 歌「夏の思い出」(歌唱)④		「学習発表会のテーマソング」 「音楽レクリエーション」 「季節の音楽を楽しもう」 ～「ホトトギス」(歌唱)④					「を込めて歌おう」 「部の歌」(歌唱)④ 「君代」④ 「カフオケをしよう」自	
家庭科	「私たちの衣食住」④		「私たちの消費生活」④			「私たちの食生活」 「食生活と健康」④						
外国語	「自分のことを紹介しよう」④ 「パスポートカードを作ろう」④	「身近な人を紹介しよう」④	英ALT授業			夏休みの思い出を「道楽紹介しよう」④					「1年間の思い出を伝えよう」④	
学級活動	ホームルーム内の組織作りや役割の自覚(1)ア	学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解(2)ア	自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成(2)ア			ホームルームや学校における諸問題の解決(1)ア					「1年間の思い出を伝えよう」④	
特活												
生徒会	対面式	前期生徒会総会1				中間部会						
道徳	B教育、習慣(8)④		B教育(7)④	A節度、節制(2)④		Cよりよ学校生活、集団生活の充実						
美術	「3原色を使おう(色彩の変化)表現」④			「文字のデザイン(文字から想像して書く)表現」④			「西洋の絵画を鑑賞しよう」鑑賞④	「伝統				

【活用者の声】
学級に所属していませんが、それぞれの学部、学年でどんな学習をしているかが見てすぐに分かり、外部の方に学校の授業について質問をされてもすぐに答えることができ助かります。



主に高等部1段階で設定 留意点 ○年間指導計画の各教科の内容を押しさえ、漏れがないように指導していく ○本人の学習の習得状況により同じ程度の内容を合わせて指導をする。

(2) 単元配列表による効果

第二 次	2	○	○	○	○	○目の前に見える雲の大きさを調べる活動を通して、雲の空間的な広がり 気づくことができる。 ○目の前に見える雲の色と雲画像の色の違いが生まれた要因を探る活動通 して、雲画像の濃淡と雲の厚みを関係付け、雲の空間的な広がりを探えるこ とができる。 主：実際に実験から振り返り、考えることができるようにする。 副：実験結果を発表して、表現できるようにする。 情：実際にタブレットを用いて、画像にて調べる活動を取り入れる。 準備物：脱脂綿、画用紙とペン 5月7日、14日	
	*自立活動(個々)						
	5	○	○	○	○		○時間的・空間的な見方を働かせて、天気の変化を予想する。 問：気象情報を使えば、自分で天気の変化を予想できるのだろうか。P172 主：画像等を見て、気づくことができるようにする。 ○二日後の天気を予想してみよう。 副：これまでの学習を生かして、天気を予想し、実際の天気を確認してみる。 ○予想と結果の確認 準備物：タブレット(2台、テレビ)もしくは情報処理室 5月21日、28日
	6	○	○	○	○		活用
7	○	○	○	○			
*自立活動(個々)							
第三 次	8	○	○	○	●台風による災害について調べ、自分に何ができるか考える。 問：台風は今後どのように動いていくのだろうか。 主：実際にあった一昨年の台風の動きを考えながら、今後の備 ようにしていく。 6月4日		
【他の単元とのつながり】							
	「過去の単元」4月	「現在の単元」5月	「今後の単元」6月				
	○教科等横断的な教育内 容の検討・考察	○教科等横断的な教育内 容の検討・考察	○教科等横断的な教育内 容の検討・考察				
国語科	「メモを取りながら話を 聞こう」	「詩を読もう」 「好きな事を伝えよう」	「形を整えて書こう」 「お願いやお礼の手紙」				
数学科	「1万、1億の数」	「およその数」	「かけ算の筆算の仕方」				
総合	「学校や地域の災害時における対応」						
情報	ICTがもたらす利便性・危険性		情報モラルを知ろう				

単元案構想時に、他教科が何を学んでいるのかわかるので、そのつながりを授業者が考えやすくなり、発問や単元構想時に反映しやすくなった。

実際の授業での子どもの姿から

各学年で、他の教科等の単元でどのように学んでいるのか明確にしています。単元同士のつながりを授業者が意識し、子供達が、自分たちで学んだことの活用の幅を広げていくことで、枠を越えた力にもつながるようにしています。

例) 「あ、理科で学んだこと、社会でも使える！」 → **問題発見・解決能力の育成**

「(数学的根拠ではなく、何となく×÷等を使い文字式を作っていた生徒が・・・)

数学は、国語だと分かりました。」 → **言語能力の育成**



意味を考え、表現することができた。
 ◎文字式の問題について、しっかりとその意味を理解することの着目しようとしていた。「数学は、数字を書くだけの教科だったのに、だんだんやっていると国語と実感しました。数学で生かすことはしっかりと文章を読んで理解した上で取り込みたいです。数学はただ考える事じゃなくて前に習ったことを生かしてそれを工夫して考えていく教科だと実感しました。」と表現。言うこと無し。
 すごいぞ。君!

学びがつながり、子どもたちが実感する
教育活動の質の向上へ

【日々の研修コラム～教育課程と連動した取組～】

カリキュラム・マネジメントの推進！！

さらなる「教育活動の質の向上」を目指して！

本校の教育課程編成では、教育課程検討委員会と研修部が連携し、「本校の教育活動の質の向上」を目指して、教育課程の編成や年間指導計画、単元配列表の見直し・改善等を図り、本校の育成を目指す資質・能力が確実に育まれるように取り組んでいます。



○各教科等の資質・能力の育成に向けて～3つの教育活動のさらなる充実～



「特別活動」、「総合的な学習（探究）の時間」、「特別の教科道徳」について、今年度の教育課程編成に係る実施アンケートで、この3つが特に課題として挙げられており、再度全職員で整理・検討を行いました。

それぞれの特質に応じた本校の教育における資質・能力の整理、指導内容の整理、単元配列の検討を行いました。活発な議論が交わされ、さらに子供たちの学びが充実できるように改善に取り組みました。



○教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てる～修正・改善～

昨年度作成した12年間の学びを見通した単元配列表について、再度、各教科等の関連、教科内でのつながり等を再度考え、単元配列表の見直し・修正を行いました。短時間ですが、各学級で、各教科等で、さらに教育活動の質の向上を目指して取り組みました。



教育課程検討の日、研修日と、別々な取組をする形ではないので、結果として全体で検討する日の削減にもつながり、その分、授業を準備する時間を確保しています。今後も、本校の子供たちが、学びを味わい、学びを活用し、さらに学びを深めていくように、全職員で日々の授業・単元を大切に、カリキュラム・マネジメント（教育活動の質の向上）に、地道に取り組んでいきたいと思えます。

【突破口6】各教科等を合わせた指導における

“必要に応じて効果的な指導方法を工夫する”考え方と実践

(1)必要に応じて効果的な指導方法を工夫するとは

知的障がい教育において、各教科等を合わせた指導について多くの議論がなされてきた。今回の学習指導要領では、各教科等を合わせた指導については、従前までの「教育課程の編成における共通の事項」から「(3) 指導計画の作成に当たっての配慮事項」に記載部分に変更となった。

これは、知的障がい教育において、必ず各教科等を合わせた指導を行うのではなく、あくまでも学校の創意工夫の一つとしての取り扱いに変更され、より“なぜ、合わせているのか”という説明が必要になってくる。

学習指導要領解説各教科等編には、各教科等を合わせた指導について、次のように示している。

2 個々の児童の実態に即して、教科別の指導を行うほか、必要に応じて各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動を合わせて指導を行うなど、効果的な指導方法を工夫するものとする。その際、各教科等において育成を目指す資質・能力を明らかにし、各教科等の内容間の関連を十分に図るよう配慮するものとする。

この中でのキーワードは、「必要に応じて」「効果的な指導方法を工夫する」である。

本校では、各教科等の年間指導計画により、指導内容が明確になっている。

活動から教科等の指導内容を考えるのではなく、年間の指導内容から、最も効果的な指導方法を考え、指導形態を考えるようにした。そうすることで、教育課程から授業までの流れについて説明が付き、活動ありきで指導内容の履修に偏りが出ることとを避けることができると考えた。

最初は、各教科会で、年間の指導内容から、教科別の指導か各教科等を合わせた指導なのか、最も効果的な指導形態を挙げてもらい、各教科等の年間指導計画には指導形態も明記して意識できるようにした。また、見やすいように各教科等を合わせた指導で取り扱う教科等の一覧を作成し、授業者が計画を立てて指導しやすくした。

このベースがあることで、授業者が一から悩むことがなく、学校として取り扱う教科等を示しているのですぐに単元案等で各教科等の資質・能力を明確にして授業実践ができるようになった。

また、明確にすることで、年間を通して、いつ効果的に指導できるのかを見通すことができ、それらをコントロールすることで、各教科等を意図的に指導することができ、単元構想や授業としても変化が見られてきた。

【作業学習での単元案】

各教科等の年間指導計画の改善や効果的な指導方法を検討する様子

中学部 数学科 1年生の指導内容から

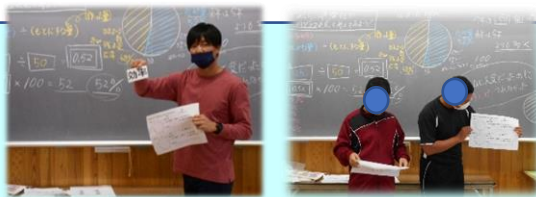
<p>「B 図形」 ア 図形に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ② 直線について知ること。 ③ 三角形や四角形について知ること。 ④ 正方形、長方形及び直角三角形について知ること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ② 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。</p>	<p>「さんかくやしかくの形を調べよう」 ※小2B(1)「三角形や四角形などの図形」p118 教2上p104～</p>
<p>「C 測定」 イ 時刻や時間に関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ② 時間の単位(秒)について知ること。 ④ 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ② 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。</p>	<p>「時刻と時間の求め方を考えよう」 ※小3C(2)「時刻と時間」p166 教3上p27～</p>
<p>「D データの活用」 ア 身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動 (ア) 知識及び技能 ② 身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ② 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりすること。</p>	<p>「わかりやすくあらわそう」 ※小2D(1)「簡単な表やグラフ」p125 特p314 教2上p8～</p>

図形については、教科別の指導が指導しやすい。

時刻や時間に関しては、教科別の指導だけでなく、日生や生単でも取り扱う内容として、目標をあげて指導する。



データ活用に関しては、作業学習でも一部を取り扱い、内容を取り上げ、指導していく。



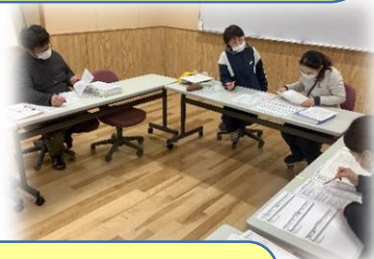
実際の単元研究から、作業学習で、データ活用を取り扱っている授業から得た知見

単元研究会からカリキュラム・マネジメントへ！

高等部 社会科 1年生の指導内容から

高等部 1年生 社会 年間計画	
[1] 前期	
<p>ア 社会参加ときまり (ア) 社会参加する上での大切な社会生活に関わる学習活動 ② 地域の人々を互いに協力することの大切さを理解し、自分の役割や責任を果たすための知識や技能を身に付けること。 ④ 社会生活の中で状況を的確に判断し、自分の役割に責任について考え、表現すること。</p>	<p>単元名 ※小4「社会生活」 ① わたしたちの暮らし ② 国の政治の仕組み</p>
<p>イ 社会生活ときまり (イ) 社会生活を営む上で大切な法やまじりに関わる学習活動 ② 社会生活を営む上で大切な法やまじりの意義と自分との関わりについて考え、表現すること。</p>	<p>※小4「わたしたちの暮らし」 ① わたしたちの暮らし ② 国の政治の仕組み</p>
<p>エ 公共施設の役割と制度 (ア) 公共施設の役割に関わる学習活動 ② 公共施設の役割や公共物の役割とその必要性を理解すること。 ④ 公共施設の役割や公共物の役割の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。</p>	<p>※小4「わたしたちの暮らし」 ① わたしたちの暮らし ② 国の政治の仕組み</p>
<p>オ 公共施設の役割と制度 (イ) 制度に関わる学習活動 ② 我が国の政治の基本的な仕組みや働きについて理解すること。 ④ 国や地方公共団体の政治の仕組みについて調べ、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</p>	<p>※小4「わたしたちの暮らし」 ① わたしたちの暮らし ② 国の政治の仕組み</p>
<p>カ 我が国の国土の自然環境と国民生活 (ア) 我が国の国土の自然環境と国民生活に関わる学習活動 ② 自然環境が国土の自然環境と国民生活との関係で発生していることや、自然環境が国土と国民生活に影響を及ぼすことを理解すること。 ④ 自然環境や国土の自然環境が国土の自然環境と国民生活との関係で発生していることや、自然環境が国土と国民生活に影響を及ぼすことを理解すること。 ④ 災害の種類や発生した位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然環境の状況を捉え、自然環境と国民生活との関係を考え、表現すること。 ④ 国土の自然環境や国土の自然環境が国土の自然環境と国民生活との関係で発生していることや、自然環境が国土と国民生活に影響を及ぼすことを理解すること。</p>	<p>※小4「わたしたちの暮らし」 ① わたしたちの暮らし ② 国の政治の仕組み</p>

「社会参加ときまり」については、教科別の指導よりも、生活単元学習で、実際に校外に出る経験、現場実習等に係る学習等で、関連した中で、単元構想して教えやすい。



小学校の指導要領の内容の文言と同じことから、単元配列を参考にし、子どもの学びやすさから、単元間の配列を改善し、一部2段階の内容を取り入れる。

日々の単元研究がカリキュラムのマネジメントにつながる！

参考資料:効果的に合わせて指導する教科等の一部*実際に活用している物

小学部6年生【生活単元学習】年間350時間

★効果的な指導のために、必要に応じて合わせて指導する教科等

【主に3段階で設定した場合】

<p>生活(□66時間)</p>	<p><input type="checkbox"/>エ遊び <input type="checkbox"/>オ人との関わり <input type="checkbox"/>カ役割 <input type="checkbox"/>キ手伝い・仕事 <input type="checkbox"/>ク金銭の扱い 【社会につながる分野】 <input type="checkbox"/>ケきまり <input type="checkbox"/>学校のきまり ○日常生活のきまり <input type="checkbox"/>自分の物と他人の物との区別 ◎マナー <input type="checkbox"/>コ社会の仕組みと公共施設 <input type="checkbox"/>社会の様子 ○交通機関の利用 【理科につながる分野】 <input type="checkbox"/>サ生命・自然 <input type="checkbox"/>植物の飼育 ○季節の変化と生活 <input type="checkbox"/>シものの仕組みと働き <input type="checkbox"/>風やゴムの力の働き</p>	<p>国語(□77時間)</p> <p>*主に知識・技能だけで示している。それに対応する思考力・判断力・表現力等は選択すること。</p> <p><input type="checkbox"/>イ話や文章の中に含まれている情報の扱い <input type="checkbox"/>我が国の言語文化</p>
<p>算数(□52時間)</p>	<p><input type="checkbox"/>B 図形 <input type="checkbox"/>ア身の回りにあるものの形に関わる数学的活動 <input type="checkbox"/>C 測定 <input type="checkbox"/>ア身の回りのものの量の単位と測定 <input type="checkbox"/>D データ活用 <input type="checkbox"/>身の回りにある事象を簡単な絵や図、記号に置き換えることに関わる数学的活動</p>	<p>音楽(□6時間)</p> <p>*咲笑祭時期</p> <p><input type="checkbox"/>A 表現 <input type="checkbox"/>ア歌唱の活動 <input type="checkbox"/>イ器楽の活動 <input type="checkbox"/>エ身体表現の活動</p>
<p>図画工作(□60時間)</p>	<p><input type="checkbox"/>A 表現 <input type="checkbox"/>ア日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかく、作品をつくったりする活動 <input type="checkbox"/>B 鑑賞 <input type="checkbox"/>自分たちの作品や身の回りにある作品などを鑑賞する活動</p>	<p>体育(□26時間)</p> <p><input type="checkbox"/>ア体づくり運動 <input type="checkbox"/>「体ほぐし運動」 <input type="checkbox"/>「多様な動きを作る運動」 <input type="checkbox"/>E ボールを使った運動やゲーム <input type="checkbox"/>「友達を追いかけたり逃げたりするゲーム」 <input type="checkbox"/>F 表現遊び ○「リズムと動き」 <input type="checkbox"/>G 保健</p>
<p>道徳(□28時間)</p>	<p><input type="checkbox"/>C 伝統と文化の尊重等 (16) <input type="checkbox"/>C 規制の尊重 (11) <input type="checkbox"/>D 感動、畏敬の念 (20) <input type="checkbox"/>A 個性の尊重 (4) <input type="checkbox"/>B 相互理解等 (10) <input type="checkbox"/>B 感謝 (7)</p>	<p>特別活動 0時間</p> <p><input type="checkbox"/> (3) <input type="checkbox"/>イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 <input type="checkbox"/>ウ主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用</p>
<p>自活動(□5時間)</p>		

【留意事項】*あくまでも項目等で示しています。詳しい指導内容は、年間指導計画を参照すること。*各教科等会の担当から提案されている項目です。実践を通して、指導者が、項目にない場合でも、必要に応じて指導内容から合わせて指導してもよい。その場合の変更は赤等で入れること。年度末の改善に参考にするため。

参考資料:効果的に合わせて指導する教科等の一部*実際に活用している物

高等部2年生【作業学習】年間387時間

★効果的な指導のために、必要に応じて合わせて指導する教科等

【主に1・2段階で設定した場合】

国語(□35時間)	<p>*主に知識・技能だけで示している。それに対応する思考力・判断力・表現力等は選択すること。</p> <p>1段階</p> <p><input type="checkbox"/>ア言葉の特徴や使い方 ○(ア) ○(イ) ○(ウ) ○(カ)</p> <p><input type="checkbox"/>イ話や文章の中に含まれている情報の扱い方 ○(ア)</p> <p><input type="checkbox"/>ウ我が国の言語文化 ○(イ)</p> <p>2段階</p> <p><input type="checkbox"/>ア言葉の特徴や使い方 ○(ア) ○(イ) ○(ウ)</p> <p><input type="checkbox"/>イ話や文章の中に含まれている情報の扱い方 ○(イ)</p> <p><input type="checkbox"/>ウ我が国の言語文化 ○(ウ)</p>	社会(□22時間)	<p>2段階</p> <p><input type="checkbox"/>ア社会参加ときまり ○(ア) 社会生活 ○(イ) 法やきまり</p>
数学(□20時間)	<p>1段階</p> <p><input type="checkbox"/>Dデータの活用 ○イ測定した結果を平均する方法に関わる数学的活動</p>	理科(□10時間)	*特に効果が上がる要望無し
音楽(□0時間)	/	美術(□25時間)	<p>1・2段階</p> <p><input type="checkbox"/>A表現 ○ア感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、描いたり、作ったりする活動</p> <p><input type="checkbox"/>B鑑賞 ○ア美術作品や生活の中の美術の働き、美術文化などの鑑賞の活動</p>
保健体育(□5時間)	<p><input type="checkbox"/>A体づくり運動 ○「体ほぐし運動」 ○「体の動きを高める運動」</p>	職業(□28時間)	<p><input type="checkbox"/>A職業生活ア勤労の意義、イ職業</p> <p><input type="checkbox"/>B情報機器の活用</p> <p><input type="checkbox"/>C産業現場等における実習</p>
家庭科(□10時間)	<p>1段階</p> <p><input type="checkbox"/>C消費生活・環境 ○イ消費者の基本的な権利と責任</p>	外国語(□0時間)	/
情報(□7時間)	<p>1段階</p> <p><input type="checkbox"/>C情報通信ネットワークとデータの活用</p>	道徳(□17時間)	<p><input type="checkbox"/>A向上心、個性の伸長 (3)</p> <p><input type="checkbox"/>A真理の探究、創造 (5)</p> <p><input type="checkbox"/>B相互理解、寛容 (9)</p>
自立活動(□8時間)		特別活動(□0時間)	<p><input type="checkbox"/> (3) ○ウ社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ○エ主体的な進路の選択決定と将来設計</p>

【留意事項】*あくまでも項目等で示しています。詳しい指導内容は、年間指導計画を参照すること。*各教科等会の担当から提案されている項目です。実践を通して、指導者が、項目にない場合でも、必要に応じて指導内容から合わせて指導してもよい。その場合の変更は赤等で入れること。年度末の改善に参考にするため。

参考資料：作業学習における年間指導内容

作業学習における年間指導内容

★効果的な指導のために、必要に応じて合わせて指導する教科等で挙げられている指導内容配列

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
活動内容	体験活動	紙すき活動	前期 現場実習	製品作り ・カレンダー等		咲笑祭に 向けて	後期 現場実習	紙すき 活動	販売会に向け て	まとめ			
各教科の指導内容	A職業生活ア勤労の意義・イ職業												
	職業 (224~ 229)	C産業現場・B情報機器		B情報機器		C産業現場		B情報機器					
	国 (34)	ア(2)(4)(5) *段階に応じて		イ(2)ア(2)(4)(5) *段階に応じて		1段階:ウ(イ)⑦ 2段階:ウ(イ)⑦⑧		ア(2)(ウ)(4) *段階に応じて					
	数 (20)	DデータA *1段階		A数と計算 *1段階		DデータA *1段階		Dデータイ *1段階					
	社 (22)	ア社会参加ときまり (イ)法やきまり		ア社会参加ときまり(ア)社会生活				ア社会 (イ)					
	理 (10)	*ちょっと、想像つかない。											
	美 (34)	A表現 B鑑賞 *段階に応じて				A美 * B鑑賞							
	保健 (5)	A体づくり		A体づくり		A体づくり							
	家庭科 (10)	C消費生活 ア*1段階		C消費生活 イ*1段階		C消費生活 イ*1段階							
	情 (7)	Bコミュニケーションと情報デザイン *段階に応じて				C情報通信ネット とデータ活用							
	道 (17)	1年	礼儀	友情	真理・創造		相互理解		公正・公平等				
		2年:向上心等		希望と勇氣		自主・自立	思いやり・感謝		社会参画・公共		遵奉・公德心	公正・公平等	
		3年:勤労		希望と勇氣		自主・自立	思いやり・感謝		社会参画・公共		遵奉・公德心	公正・公平等	
自 (8)	*各自の実態				*各自の実態								
特 (0)	(2)ア他の個性の理解と尊重 (3)ア学校生活と社会的職業の自立 1年				工主体的な進路選択決定 2,3年		ウ社会参画意識、 勤労観・職業観の醸成 2,3 年						

いつ、どの指導内容が効果的に
教えられるのかを考え、年間を見
通して配列しました。

そうすることで、単元案の目標
設定時に悩む時間が減り、どう単
元構想していくかを十分に考える
ことができるようになってきてい
ます。



参考資料：単元案及び学習評価①

*** 愚直にやるのみ** 相馬支援学校 単元案

本校の学校教育目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、臨機し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
自立と社会参加のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自分の考えをもち、他者を理解し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】 主に高等部1段階で設定

作業学習 単元案	単元名	「紙すき体験をしてみよう」
----------	-----	---------------

【単元で育成する資質・能力】 主に高等部1段階で設定 合計17時間

教科	領域	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
職業 (10時間)	職業生活・ ア勤劳の 意義	仕事には、生計を維持するばかりでなく、働くことで自己実現を図るなどの目的があることを理解することができる。	意欲や見通しをもって取り組んだ結果や抱いた役割を果たすことで得られた成果を振り返り、自分の役割を果たすことを考え、表現することができる。	準備や片付け等、活動に見通しをもち、自ら作業等に取り組もうとしている。
	職業生活・ イ職業	材料等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うことができる。	主産や必要な工程の名称や方法が分かり、正しく正確に取り組むための技術について考えることができる。	材料等の特性や扱い方を理解したり、必要な工程やその技術について考えたりしようとしている。
国語 (2単位)	国語 知・技 (ア) A	・社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたいことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。	社会の中で関わる人の声(教師や友達)などを、聴き手が伝えたいことの中に注意して聞き、話の内容を捉えることができる。	言葉の働きに気付いたり、話し手の伝えたいことの中に注意して聞いたりしようとしている。
	2学年 向上心	A 主として自分自身に関すること 「向上心、個性の伸長」 (3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。		
道徳 (2単位)	2学年 勤労	C 主として集団や社会との関わり、(13) 勤労の尊さや意義を理解し、社会に貢献すること。		

単元構想のためのメモ帳

●学習や実践の作業... 各教科等の資質・能力

作業体験日程

4/13 (水)	1	2	3
4/14 (木)	4	5	6
4/15 (金)	7	8	9
4/18 (月)	10	11	12
4/20 (水)	13	14	15
4/27 (水)	16	17	18

※5月2日から後継なるふと



各教科等の資質・能力について、いつそれぞれの目標についてスイッチを入れて教えるのか、評価計画で明確に示すことで、授業者が何となくではなく、意図的に単元の流れに応じて効果的な指導を行っていくようにしました。

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基礎となる資質・能力		現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力			相馬支援学校ならではの力
言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成	生活力や地域力の育成	感染症、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成
					自己理解・自己実現の育成

【何を、いつ、どのように】育んでいくのか

単元	時数	評価規準			どのような指導で(習得、活用、様式)
		1	2	3	
導入	4/13	職業(勤労)	○	○	4/13(水)3h-1年生は1-2、1-1、1-3の順で回ってくる。 ●なぜ、紙すきをするのか、働くことと関連付けて考えてみよう。 ●紙すきを体験してみよう。 活動：紙すき(回ってきた1年生は体験してもらおう) *実際に紙すき体験から始め、失敗しながら必要な技術を考えようとする姿を引き出す。 *2、3年生は、作業工程から自分の役割を理解し、取り組む。 田：実際の取り組みからスタートすることで、作業学習の最後の工程部分の見通しをもち、それに必要な材料等を考えることができるようになる。準備物：ワークシート、紙すき機
	4/14	職業イ職業	○	○	【作業が第1、第2希望であるための、基本ワンタイム2回】 ★2、3年生に対しては、それぞれの評価規準に合わせて、導入時、注中、まのめにおいて、言ひ言葉・能力のスイッチを入れるようにする。
校内学習	4/14	職業イ職業	○	○	【サイクル】 4/14(木)2h - 4/25(月)3h ●生産工程を作製して、役割を体験してみよう。 全ての道具一式から、靴をが全てを扱う!! 活動：ミキサ(全員体験)、ラミネートはがし、牛乳パック切り *14日・生産工程の名称・役割とその成果 *25日・生産工程の名称・役割とその成果、相手が伝えたいこと
	4/15	職業ア勤劳	○	○	
	4/20	職業イ職業	○	○	
	4/20	職業ア勤劳	○	○	
	4/20	道徳向上心	○	○	
	4/20	職業イ職業	○	○	
	4/20	職業ア勤劳	○	○	
	4/20	職業イ職業	○	○	
	4/20	道徳勤労	○	○	
	4/20	職業ア勤劳	○	○	
4/27	道徳勤労	○	○	4/18(月)3h - 4/27(水)3h ●生産工程を作製して、役割を体験してみよう。 最後の工程を作製しよう!! 活動：ラミネートはがし、「ちょっと紙すき1カ所」 *18日・働くことで自己実現・技術の思考・言葉の働き *27日・勤労：自己実現・作業課題正しく・言葉の働き	
4/27	道徳勤労	○	○	4/20(水)3h ●役割を決めて取り組んでみよう。 靴を仕事・水仕事 ●全体の作業工程を振り返ろう。好きな作業に取り組んでみよう。これまでのまとめ 活動：紙すき、ミキサ、ラミネートはがし、もみ、切り、踏み *20日・言葉の働き・向上心・扱いの理解・自己実現	

本格、新生紙すき班のゴー!!!

	「過去の単元」	「4月の単元」	「今後の単元」
1年		職業 自己理解	職業 いろいろな仕事
2年		職業 自己理解	職業 いろいろな仕事
3年		職業 道徳選択	職業 社会人の生活

※評価目標については、生徒の学習の段階に応じて、設定していい、学習評価をしていくこととする。



各教科等の資質・能力に向き合い、観点別学習状況の評価を行っています。そうすることで、各教科等を合わせた指導においても、各教科等の資質・能力に向き合うことができるようになってきています。また、指導と評価の一体化も実感することになり、授業改善にもつながる授業者が増えてきています。

	してその性質を利用して計算方法を工夫したりしようとしている。	
保健 体育	①ラジオ体操等を通して、体を動かす心地よさを味わい、その行い方や方法を理解することができる。 ②ラジオ体操等の準備運動での他の課題を鑑み、他者に伝えることができる。 ③ラジオ体操等の準備運動を通して、心地よさを味わい、自主的に運動したりし	①「あ〜、気持ちいい。」と話しながら、活動前のラジオ体操に取り進んでいた。また、毎回リーダーを受け持つことで、深呼吸、腕の動かしかた、左右の順番など、体の使い方を理解し、取り組むことができた。 ②腕を伸ばす、胸をはるなど、自分が課題と思う点について、意識しながら取り組む事ができた。 *ここよなえ。ラジオ体操で、自分はこの課題なのか、同じ良かった。 ③体を動かす気持ちよさは味わいながら、「ラジオ体操しましょう！」とリーダーとして声かけをするなど、みんなで準備運動しようとする意欲が見られた。
	教科等横断的な観点に立った資質・能力 【問題発見・解決能力】 ○物事の中から問題・疑問を見出し、学習で得た知識から解決方法を探して、結果を予測し実行確認等を行いながら、問題の発見・解決に必要な力を身に付ける。 実習を通して、作業工程の中でおきた問題や課題を振り返り、力の入れ具合、体のつらさに替えたりしながら、解決に本人曰く、問題を発見して、「解決できたよ。」 また、この実習で学んだこととして、解決能力を身に付けることができたと持ち帰るなど「正しく言った。」との言葉も、各製品の製品作りでの失敗を繰り返すなど、確かに私たちにこの実習の意義は、次の自己理解、目標、育もうとしている姿が見られた。 【自己理解・自己実現】 ○生徒が自己理解を深めるとともに、	
産業 生活	①仕事には、自己実現を図る等の目的があることを実感したり、自分の役割を果たすために自らの仕事に励む大切さを理解したりできる。 ②意欲や見通しをもって取り組んだ結果、分組した役割を果たすことで得られた成果などを振り返り、自分の役割を果たすことや協力の仕方について考え、表現することができる。 ③仕事を通して、自己実現が図られていることを実感したり、作業にお	に対して「丁寧にやります。」と決まったプロセス。仕事に対して、自分の目標に対して、実現するという実感が当初無かった。話し合いの中で、「みんなに売りたい」「給料をもらいたい」と少しずつ気付く。また、「目標を達成することです。」と自分を奮起するために働くことなどを意識することができた。作業を通して、紙すきの400枚は「二人でないとできない。」と言葉を意識しながら、自分の役割を果たすこと、実感を、「責任」という言葉で表現するなど、実感を理解することができた。 ②目標設定をすることで、意欲をもって取り組むことができた。紙すきや各組づくりでのカッターなど、分組した役割に責任をもって取り組むことができた。ま

	て自己の役割や協力の仕方について表現しようとしていたりしている。	
産業 生活	①材料等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うことができる。 ②主眼や必要な工程の名称や方法が分かり、正しく正確に取り組むための技術について考えることができる。 ③材料等の特性や扱い方を理解したり、必要な工程やその技術について考えたりしようとしている。	た、自分の役割や協力の仕方について考え、「二人でないとできない。」など、自分一人で取り組んでいることではないことに気付く、みんなで達成感を味わうことができた。 ②作業において、自分の役割をしっかりと行い、友達と一緒に協力し、友達にすいた紙なども期待感を持って見るなど、一人ではなく、全員でやっている意識をもって取り組もうとしている姿が大いに見られた。 ③当初の全てに「丁寧にやります。」と言っていたのが、紙すきの道具の特性を理解し、すいた紙に空気が混ざっている時には、「プラン紙をゆっくりにおろす。」「ローラー掛けを強く下から上にやります。」など、課題に応じて、道具の使い方を意識して正しく扱うことができた。また、製品作りでは、カッターの使い方を学び、「カッターを使うときは、ななめにして切ります。」と角度に気を付けて、線をよく見ながら正しく切ることができました。 ④紙すきに必要な工程について、在庫の状況から、「自分にはないので、ラミネートは私がお願いします。」など、今何が必要かを考えることができた。また、工程の名称だけでなく、正しく紙すきをするための「すき棒」「プラン紙」「裏ローラー」「裏ローラー」など、その名称が分かったり、「空気入っている。」「紙が入っている。」「タマがある。」等、できた紙の状態を表す表現を理解し、活用して表現しながら、どのようにすると正しく取り組むことができるのかを考えることができた。（「プラン紙をゆっくりにおろす。」「ローラー掛けを強く下から上にやります。」等） ⑤紙すきや製品等の扱い方について理解して、それを生かそうとする姿が多く見られた。
産業 生活 実習 等 における 実習	①製品の良否が分かり、不良品を出さないように注意して仕事をしたり、自分の分組に責任をもって最後までやり遂げたりすることができる。 ②自己の課題を明らかにし、解決策を考え、仕事の状況を自己評価し、表現する活動に取り組む、課題を具体的に解決できる。 ③製品の良否を考えて注意して取り組んだり、自己の課題を明確に表現し、解決しようとしていたりしている。	①自分で、紙の状態を判断し、製品の良否が分かり、再度やり直すなど、注意しながら活動に取り組むことができた。また、自分の仕事に責任を持ち、紙すき、各組づくり等、長い時間集中を維持して取り組む事ができた。みんなで、400枚の目標が達成されるとともに、「達成感」と覚えた表現を使ったり、一人一人が「責任をもって取り組めます。」などの表現をしたりするなど、本人としても役割と責任を認識しながら最後までやり遂げることができた。その姿も感じ、表現することができた。 ②紙すきの状況を見て、「紙が入っている。」「空気が入っている。」「白さが濃くなってきている。」など、自分の仕事の状況を評価しながら、「空気が入らないようにプラン紙をゆっくりにおろします。」「裏ローラーで空気をゆっくりにつぶす。」など、解決策を考え、具体的に取り組む改善を図ることができた。 ③良い製品になるように、「丁寧にやります。」から、どこを、どのようにすれば、自分と向き合い、考えて表現しようとする姿が多く見られた。
図画	①相手を見て話したり聞いたりするとともに、間の取り方などに注意して話することができる。 ②相手に合わせるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができた。 ③相手の見ようとしていたり、相手に合わせるように間の取り方などを工夫したりしようとしていたりしている。	①相手を見て話すと同時に、最初、その場に気付くことが難しかったが、ロールプレイをすることで、相手を見て報告すること、話を聞くことが分かり、実際の作業場面においても取り組むことができた。また、話の内容も理解し、ワンパターンではなく、話の内容にあったことを考えて表現することもできた。 ②また、各組を配る時にも、意識して取り組む事ができた。 ③間の取り方では、相手が会話をしている時に、どのように相手に話しかけるかを考えた。「話が終わるまでずっと待っている。」とのことだったので、少し待って話しかける方法を友達から学び、ロールプレイで少し待って「ちょっとよろしいですか」と伝えることがで

(2)令和5年度に向けて～資質・能力から創意工夫としての指導形態を考える～

令和5年度に向けた教育課程編成の全体会において、一旦指導形態についてゼロベースで考える機会を設定し、指導形態ありきにならないようにした。

つまり、各教科等を合わせた指導については、配慮事項で示されており、学校の創意工夫として取り扱っていることになる。

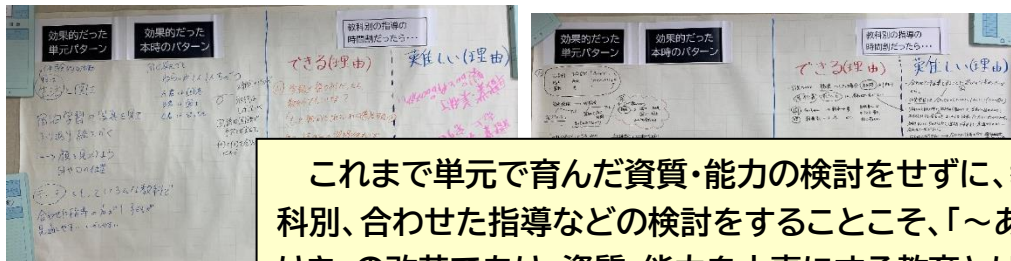
これまでの実践から、学校の創意工夫として、本当に各教科等を合わせた指導が必要かどうか。必要であれば、どのような創意工夫として、その指導形態が必要であるかを話し合った。

【全職員で、資質・能力をベースに意見、アイデアを出し合う様子】



和知校長のもと、
カリキュラムを検討、マネジメントするために、全職員で話し合った。

【集まった知見】



これまで単元で育んだ資質・能力の検討をせずに、教科別、合わせた指導などの検討をすることこそ、「～ありき」の改革であり、資質・能力を大事にする教育とは反する可能性があると考えています。また、「生単ありきじゃない？」と授業者だけが責められないように、学校として説明できるようにしたいと考えています。



現在、まとめており、令和5年度の教育課程に反映する予定

3

授業を考えるための時間確保

◆カリマネ側面(ウ)

及び個々の教師力の向上

～“どう教えるか”教師の本質に向き合う時間の充実～

【突破口7】 単元案の蓄積及び単元配列表クリック作戦での業務短縮

(1)蓄積されてきた単元案～3年で350以上:特別な授業から、日々の単元充実、カリマネへ～

単元案については、「(単元案を) やらない方が、不安になる。」という声があるなど、日々の授業において、単元を構想していくためのツールとして、単元案を活用して取組む先生方が増えている。

しかし、日々の授業や校務分掌を行っていく中で、やはり時間がないという現状に直面する。

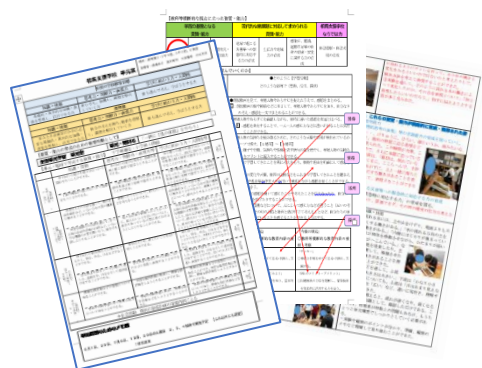
令和3年度ぐらいから同じ各教科等の段階の指導を取り扱っている単元については、以前の単元案をベースに今の学級の実態などに合わせて単元構想の部分だけを練り直すなどのやりとりが見られ始めた。

令和4年4月にこれまで単元案を収集した所、350個以上の単元案が集まった。

これは、先生方が普段の授業や単元をコントロールするために、使用している単元案の数が350個以上存在するということである。

研究授業を行う授業者だけが、単元案の活用や単元構想をするのであれば、これほどの数にはならない。また、校内研究でしばしばある一人一事例を集めるという方法でもこの数にはならない。

多くの先生方が、本校の育成を目指す資質・能力を育むために、単元研究してきた証拠であり、その結果として第1節、第2節にあったような成果が見られ、カリキュラム・マネジメントが充実していったことは動かしがたい事実であると思える。



(2)過去の単元案が活用できるように環境整備～単元案や単元構想の時短へ～

令和4年4月に集めた単元案について、全てプリントアウトして、給湯室の前の棚に置いて、常に誰でも見やすいようにした。そのことで、ちょっと休憩しながら、次の単元のヒントを見たり、自分が困っている時に単元構想の参考にしたりする様子が見られた。

すでに実践してある単元案を見ることで、授業者が一人で悩む時間の短縮を図り、アイデアをもらいながら自分なりの単元構想を行って授業することができる。

蓄積された先輩や同僚の教員たちの「どのように教えたのか」を具体的に見ることができ、自ら授業や単元について考える環境を整え、支援することができた。また、単元案のフォルダについても、各教科ごとに整理し、すぐにデータとして活用できるように整理した。これにより、形式等をすぐに活用したり、学習評価等の様子から指導の参考にしたりするなどして、すぐに単元構想、授業準備がしやすい環境を整えた。



参考：単元案ファイルの棚



写真：各教科等のこれまでの単元案がすぐに見ることができるようになっている。

参考：単元案フォルダの様子

フォルダ整理型★単元案



小学部 国語単元案の一部

- ①6.19 小1-1国語
- 1月説明文を読もう
- 2月作り方を説明しよう
- 3月思い出を発表しよう
- 4月絵本を聞こう読もう
- 5月国語単元展開案
- 7月お話を大人で発表しよう
- 8・9月物語を読もう
- 8・9月国語 物語を読もう 5.0.1

高等部 理科単元案の一部

- 【てこの規則性】単元案
- 5 C物質・エネルギー「物の流れ」
- B目標一評価規準Ver 情報
- メダカの誕生単元案
- 学習評価 理科「流れる水」
- 学習評価中 2 A生命「植
- 高1 電流の働き
- 最終評価 学習評価待ち

【活用者の声】



社会の単元案を見て、単元後半の指導の仕方等、単元構想の参考にしています！また、単元案フォルダの中も、よく見えています。

結構見えています！数学、国語、社会を見て、参考になりました。書き方もそうだけど、授業の運び方、自分がやりたいと思っていた授業を、(単元案を見て)、こうやればいいんだなとアイデアをもらっています！



各教科等を合わせた指導については、これまで多くの先生方が残した単元案や配列表、年間計画などを活用して少しずつ実践していきたいです！



学習指導要領の指導内容をベースに単元案が作られているので、段階や指導内容が同じであると、そのまま活用できます。どう教えるか、単元構想の部分に時間をかけ、研究する時間が持てます！



(3)単元配列表クリック作戦～通称:CK作戦～

令和2年度に文部科学省より出された特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料に評価規準の設定の仕方が示されており、その点についても単元案で押さえる必要が出てきた。

評価規準の設定については、研究授業等で、授業者が挑戦し始めていた。

しかし、普段授業者が学習評価参考資料等を基に調べて考えていくには、時間がない！！と言うのが本音である。

だからといって、研究授業だけやる、というのでは意味がない。

ただ、本校の単元案は、学習指導要領の内容ベースで目標を立てているので、各教科等の年間指導計画において、理論上全ての単元案を事前に作成することができる。また、学習評価参考資料についても、ある程度パターン化していることから、一気に形式を作ることは可能である。

そこで、研修部が立ち上がり、単元配列表や年間指導計画をクリックすることで、すぐに単元案が出てくるシステムを開発した。開発中は、クリックするとすぐに出てくるということで、CK作戦と名付け、ちょっと楽しみながら時間を見つけて集中的に取り組んできた。

まだ、全ての教科が万全とはなっていないが、8割程度、完成しており、単元配列表をクリックすることで各教科等の資質・能力や評価規準が明確になった単元案が出てくるようにシステム化した。

【先生方の声(令和4年度アンケートより)】

CK作戦をたくさん活用させていただいています。単元案がある授業とない授業での明確な差を感じられるようになりました。1時間の中で、生徒たちの「あっ!!!」という発見や、ポロツと出た発言など、授業の中で引き出したいことが明確な分、それらが出た時には、「キター!!!」「やったー!!!」と心の中で喜んでいきます！



「あったらいいな」を具現化

日々の業務、授業準備、授業実践されている先生方、お疲れ様でございます。
授業準備の単元案作成にしても、「どこにあったっけ?」「ここの単元案無いじゃん」等々、ご苦労なさっていると思います。そこで、研修部では先生方の「こんなのあったらいいよね」を作ってみました。単元配列表や年間指導計画の単元名などから、「クリック、クリック」で、単元案を一発表示（最短2クリック）！！まだまだ改良の余地はありますが、先生方の単元案作成の一助になればと思います。ぜひ活用していただき、改善案等いただければと思います。「こんな風にしてほしい。」「こうした方がいいよ」等の改善案がありましたら、研修部ポスト「近道」に入れていただければと思います。

クリック

CK単元案（通称：CK 作戦）の使い方

※ご使用前に下準備・・・

①ワードを開き、ファイルをクリック
②その他（オプション） or 設定をクリック
③詳細設定 → 「Ctrl キー～」チェックを外す。

下準備完了！！

「使い方の流れ」

- ① [「CK 作戦」](#) をクリック・クリック
- ② 自分が担当する学部・学年へ Go !
- ③ [「000●●学部●年単元配列表」](#) のショートカットを作成し、自分の PC へ貼り付け。
- ④ 単元配列表を開き、青文字になっているところをクリックすればOKです。
- ⑤ 単元案を開いたら、名前を付けて自分のPC等に保存してください。なお、[リンク先のファイル名を変更してしまうと、リンクされなくなってしまうのでご注意願います。](#)

教科名をクリックしていただくと、各教科の年計に飛びます。

単元名をクリックしていただくと、単元案に飛びます。配列表にリンクが無い場合は年計から飛んでください。

学部、学年の所をクリックしていただくと、学年の年計一覧のファイルの飛びます

指導別の	4月	5月	7月	8月	9月	10月
国語	「メモをとりながら話を聞こう」 「国語辞典の使い方」 「比べてみよう」 「確かめながら聞こう」	「詩を読もう」 「好きなことを伝えよう」 「おとこの数」	「人物に伝えたいことをまとめよう」 「本に親しもう」 「言葉で考えを伝える」	「慣用句を使おう」 「本に親しもう」	「小数のしくみを調べよう」 「かけ算わり算の世界」	「分数」
数学	「10000、1億、大きい数」 「整数と小数」	「おとこの数」 「数の筆算」	「かけ算の筆算のしかたを考えよう」	「同じ数ずつつける時の計算を考えよう」 「わり算を考えよう」	「小数のしくみを調べよう」 「かけ算わり算の世界」	「分数」
社会	「我が国の国土」 「世界の国土」	「我が国の国土」 「国土の地形の特色」			「低い土地、高い土地」	「我が国」
理科	「雲と天気の変化」	「メダカの誕生」		「流れ水のはたらき」		
職業	「已理解をしよう」	「いろいろな仕事」	「現場実習に参加しよう」 「実習を振り返ろう」	「健康管理(清潔・身だしなみ)」	「社会の仕組み」	「ビジネスマナー」
作業						

*各作業班の計画による (指導している教科等: 国30、社会27、数学25、理科10、美術10)

教科名をクリックしていただくと、各教科の年計に飛びます。
※このページ

こちらの年計からでも、単元名をクリックしていただくと、単元案に飛びます。配列表にリンクが無い場合はこちらからどうぞ。

高等部 1年生 数学 年間計画

単元内容	単元案
<p>【A 数と計算】 数と計算 ア 整数の表し方に関する数学的活動 (ア) 知識及び技能 ① 10 倍、100 倍、1000 倍、$\frac{1}{10}$ の大きさの数及びその表し方の理解を深めること。 ② 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についての理解を深めること。 (イ) 思考力、判断力、表現力等 ③ 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えたとともに、それらを日常生活に生かすこと。</p>	<p>「10000より大きい数」 「1億より大きい数を調べよう」 ※小3-A(1)「数の表し方」 小4-A(1)「整数の表し方」 (解)小P136～、181～ (数)小3上P84～、小4上P84～</p>
<p>【A 数と計算】 数と計算 イ 整数及び小数の表し方に関する数学的活動 (ア) 知識及び技能 ある数の10倍の位置を移すこと。 思考力、判断力、表現力等 ④ 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や表し方を統合的に捉えたとともに、それらを日常生活に生かすこと。</p>	<p>「整数と小数のしくみをまとめよう」 小3-A(2)「整数、小数の記数法」 小P237～ 小5上P8～</p>

ここをクリックすると、教科すべての単元案が出てきます。必要な単元案をご活用ください。なお、ショートカットが貼り付けてありますが、こちらのショートカットから過去の単元案の入ったフォルダに飛びすることもできます

- 📁 高等部1段階 2022/08/...
- 📁 高等部2段階 2022/08/...
- 📁 3 数学 - ショートカット 2022/08/...

どんなに忙しくても、すぐに単元構想ができる!!!

【突破口8】指導に役立つ環境整備と教師一人一人の学びを支える教師寺子屋

(1) 学びの連続性を意識した環境整備と準備・構想時間の短縮

この研究の初年度は公益財団法人福島県学術教育振興財団から、研究への指導助言を受け、研究助成を受けて取り組んできた。

単元研究を進める中で、文部科学省の★本を参考にすることはもちろんであるが、中学部や高等部で示されている各教科等の段階の内容と小学校等の各教科等に示されている内容の文言がほとんど同じであることに気づいた。つまり、内容が同じである以上、求める資質・能力が同じであると考えられる。したがって、小学校等で教えている教科書等に示されている内容と同程度の内容を教える必要があることが見えてきた。「教科書を教える」訳ではないことは十分に承知しているが、そもそも知的障がい教育については、その指導内容を教師が解釈して指導すること自体に課題があり、学びが繋がらない原因ともなっていた。また、全て一から担当教員が構想し、準備するのは、小学校の教員等が、指導要領しかない状況で、一から指導をしていくようなものであり、現実的ではない現状があった。



この問題点を解決するために、公益財団法人福島県学術教育振興財団と連携を取りながら、各教科書や指導のヒントとなる「板書でみる全単元の指導のすべて」の各教科のシリーズ（国語、算数、生活、社会、理科、道徳科、外国語活動、外国語を整備し、授業者が単元構想のヒントや授業のヒントになるように環境整備を進めた。これにより、単元構想で一から悩む時間が減り、参考にしながら学級の実態等に合わせて単元構想をして指導することができるようになった。

(2) 研修掲示板の整備

研修の案内等の周知についても、回覧する時間や回覧を作成する時間がかかり、年間で計算すると多くの無駄な時間になる可能性があるため、研修部では、掲示板に掲示することで、必要な情報が見て分かるようにした。

これにより、学びたい教員が必要な情報を得て学ぶ主体的な環境を整備することができた。また、進路指導部等とも連携し、学校として必要な情報発信ができるようにした。

写真：掲示板前で教科書を参考にしながら話し合っている場面



写真：研修部掲示板、その下には教科書、板書シリーズを整備



すぐに調べられるので、授業や単元を考える場になってきています。

(3)一人一人の学びを支える教師寺子屋

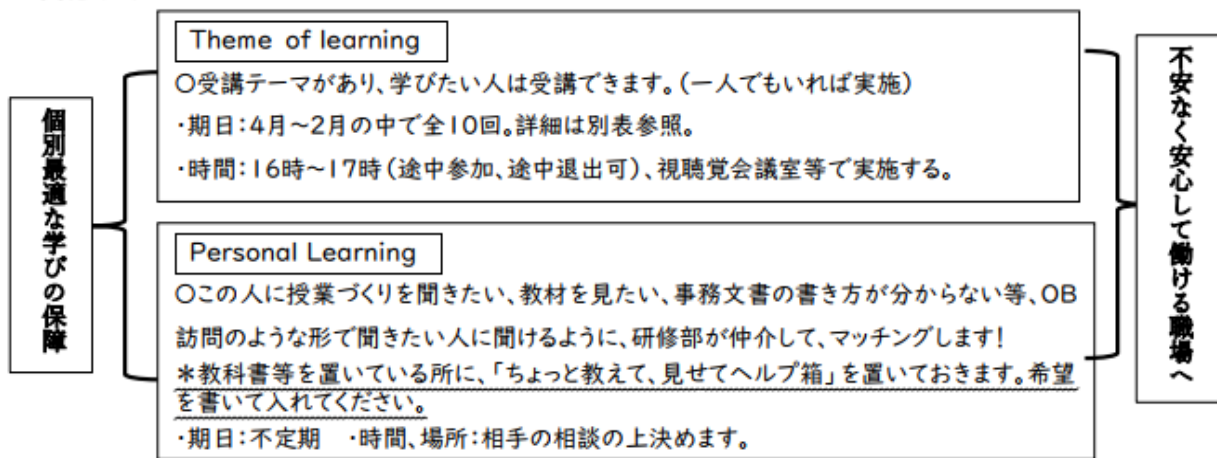
学習指導要領の理解、日々の単元構想、ICT等の活用等、進路についての理解等、教員は求められていることが多い。しかし、それぞれの教員の経験値や得意・苦手分野が異なり、一人一人が学びたい部分や不安に思っている部分は異なる。

しかしながら、忙しそうにしている同僚の教員に「聞きたくても、聞けない。」という声が多いことは、全国的にも言われている。

本校でも、「いつでも相談していいよ。」と言っても難しいという状況があるかも知れないことを考え、研修部が中心となって、一人一人が学びやすい環境を以下のように設定し、提供するようにした。

参考:実際の説明資料

2 実施方法



3 参加者

・希望者。(学びたい人、困っている人。来る者は拒まず、去る者は追わず。)

4 実施内容

【Theme of learning】…日程については変更することがあります。

日にち	内容
4月13日(水)	個別の指導計画・教育支援計画の作成手順について(個別A1・2、B1・2、C)
5月25日(水)	単元案の作成について…各教科等の単元案の一枚目!ほぼ、データ化・使い方プレゼント!
6月29日(水)	学習評価のやり方について…学習評価のポイント、実際にやっちゃって前期提出へ
7月27日(水)	(午前)スイッチ教材づくり/(午後)業務効率化のための教員パソコン教室
8月23日(火)	年に1回は組織学!…OJL研修(小野寺先生)
9月29日(木)	授業に生かすICT(iPad、パワポ、アプリ、ロボット)…授業形式で学び使おう!
11月29日(火)	学習コンテンツ紹介(単元配列表と単元案の紐付け)…そこを押すと出る!マジで!?
12月26日(月) 1月26日(木) 2月28日(火)	…未定。(内容は、後日検討し、周知する。)

【Personal Learning】

○年間通して、随時、「あの人の使っている教材が知りたい」や「この人に教科の授業作りについて聞いてみたい」などのニーズを叶えるために、個別に話ができる「(就職活動の)OB訪問」のような機会を設け、研修部が仲介人となりマッチングさせます。

Do For Others…皆様の御協力よろしくお願いします。

参考資料: 実際のチラシ(一部)

今回はこんなお悩みを近道・解決

山形支援学校 研修部
～テーマ Learning～

「ムロメモに聞く！
学習評価の仕方について

～ポイント、実践～

今回の講師の先生は・・・

「自己評価」



評価のポイントは

室井プロ 根本プロ

日時：令和4年7月13日(水)
16:00～16:30

場所：視聴覚会議室

持ち物：自分に取り組んでいる単元案
評価できる具材 等

実際にその場でちょっと、やっちゃいましょう！個別の
前期提出が楽になるよ！分からない時は、聞いてちょう！



今回はこんなお悩みを近道・解決

「一人一台端末に向けた
ICTタブレット活用講座」

今回の講師の先生



安島プロ、大関プロ



日時：令和4年8月23日(火)
13:30～14:30

場所：視聴覚会議室

持ち物：配当されているタブレット端末

参考資料: 実際の感想(一部)

学習評価を行うことで見えてくるものがあるということで、私も早くその領域に行けるように頑張りたいです！夏休みに時間をかけて学習評価を自分でやってみて、学びを深めたいです！！



両プロが共通して言っていた事
「評価する事が自分自身の授業改善につながる。」
生徒の姿が、自分の授業の姿…「鏡」なのかなとおもいました。
向き合います！！



ジャムボード使ったことがなかったですが、研修を受けてすぐに授業で使用してみよう！と思いました。共有・修正がホワイトボードよりも非常に楽なので、付箋機能をつかって生徒の考えを共有したり、体育・職業の時間のグループきめなど使用したいと思います！



研修掲示板にチラシをはって、参加したい人が参加できるようにしています。感想も掲示板に貼るなどして、どんな学びをしたのか情報提供することで、学ぶことが楽しい雰囲気を促進できるようにしています。



【突破口9】カリキュラムを支えるその他の資料

(1) 授業者の悩みについて、補助する資料

【突破口8】に示したように、資質・能力を育むことができる授業実践を行うための理解度や不安な部分は、授業者によって様々である。そのために、様々な補助資料を作成し、授業者が安心して働けるようにした。一部を紹介する。

授業

本校の資質・能力を育むための

授業の作り方は？
指導計画との連動？
道徳と目の目標は？

業

単元配列表の見方は？
習得状況が合わない生徒は？
各教科等を合わせた指導で何を合わせるの？

計画

知ってあくと悩む指導法・業者総論

画

ガイド

4月最初の職員会議で、カリキュラムについて理解し、働きやすいようにしました。

令和2年度 研究集録

資質・能力を育むための
単元研究会からの
カリキュラム・マネジメントの推進

単元研究会が、何故カリマネにつながるのか？

子どもの学びを真取る

最小の単位、「単元」

令和2年3月4日
福島県立相馬支援学校

単元をデザインする単元案

▼単元について (単元の構成について詳しく知りたい方は「単元とは、一体どんな構成なのか」へ！)

上図の図のように、1時間の授業(Aの視点)のみでは、本当に資質・能力を育むことができたか、十分に考えられていない可能性があります。
だからこそ、単元のまとまり(Bの視点)で授業を授え、観点別学習状況の評価、子どもの学びの観点に立った授業改善を行っていくことが、本当の子どもの資質・能力の育成につながります。

1時間の授業のみでは、子どもの学び、評価の両面において、その一部分しか切り取ることができないだね。単元で見ると、資質・能力の育成に向かう主体的・対局的で深い学びの授業実践。そして、子どもの学びの姿を評価することがあるんだ！
授業を単元で考える必要性は分かったけど、実際に単元を構成する時のポイントはありますか？

単元をデザインするためのポイント

- 1 本校の育みたい資質・能力から、教科等の資質・能力へのつながり
- 2 単元における育む資質・能力の明確化
- 3 教科等横断的な視点に立った資質・能力の明確化
- 4 単元における評価規準 ― いつ、どの資質・能力を育んでいくか。
- 5 授業改善の視点 ― 単元構想における主体的・対局的で深い学びの意図的な設定
- 6 子どもたちの学びの過程 (習得、活用、探究) をデザイン
- 7 単元間のつながり (教科内、教科等間)
- 8 「何が身に付いたのか」観点別学習状況の評価と授業改善

これを全部考えて単元をつくるのは大変そう...

大変って思った方に朗報です！ 解決策は次のページで！



チェックできます！



チェックできます！

学習指導要領の基本や研究の内容が分かりますので、ぜひ、チェックしてみてください。



ちょっと聞きたい…!!
シリーズ

見方・考え方？
共生社会？
合理的配慮？
学習評価の仕方は？
障害者の権利に関する条約？
主体的・対話的で深い学び？

チェックできます！



**研修
コラム**

チェックできます！



**授業改善
アイデアハンドブック**
Vol.3
～日々の取組を大切に～
教科等横断的な視点に立った質高・能力の育成も目指して

相馬支援学校

チェックできます！



【特別支援教育に関わる情報提供】
本人・保護者に伝えるBOOK

【主な情報提供】

- ◆どんな教育の場があるの？
- ◆教育的ニーズって？
- ◆合理的配慮って？
- ◆就学先決定までの流れ
- ◆どんな支援を受けられるの？

子供の可能性を
最大限に伸ばす！

令和3年6月文部科学省初等中等教育局特別支援教育課から出された最新の「障害のある一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて」等を参考に作成！！

チェックできます！



単元研究会での実践報告が「授業改善ハンドブック」につながったり、日々の単元研究から「ちょっと聞きたいシリーズ」の各教科等の見方・考え方の掲載につながったりと、このために作成するというより、副産物として出来上がることが多かったです。本校のみならず、ホームページで広く公表することで、「参考にしている。」「楽しみにしている。」等の話を受けることがあり、本校の取組が特別支援教育の充実の一助になっていることを嬉しく思います。



【突破口10】カリキュラム・マネジメントを推進するための強力な講師陣

令和2年度・令和4年度



講師 田中 裕一 先生

(兵庫県青少年本部兵庫県立山の学校長、過去に兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課副課長兼教育推進班長、文部科学省初等中等局特別支援教育課特別支援教育調査官を歴任)

R2:教育講演会

「単元研究会の検証及びカリキュラム・マネジメントの推進に向けて」

R4:学校公開 講演会

「学習指導要領の着実な実施とは～シン・カリキュラムマネジメント」

本校の研究について、令和2年度の研究当初からご助言をいただきながら進めています。特に、単元研究会の進め方や教科等横断的な視点に立った資質・能力等について、大いに参考になるご助言があり、その後の取組みに大きな示唆を与えていただきました。



写真:令和2年校内研修・教育講演会

令和3年度講師



講師 加藤 宏昭 先生

(文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)

R3:学校公開

「教科等横断的な視点に立った資質・能力も育成するための仕掛けとは」

令和3年度の研究についてご助言をいただきました。教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成について、どうやって各教科等の資質・能力を育みながら育成していくのか具体的にご助言をいただいたり、単元構想の在り方や評価規準について、大いに参考になるご助言があり、その後の取組みに大きな示唆を与えていただきました。



写真:令和3年学校公開

令和2・3・4年度講師

年に1回は組織学！！



チームとは何か？コツは？

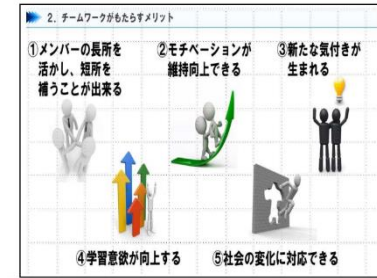


講師 小野寺哲夫 先生

(東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科 准教授)

【専門領域】

○産業組織心理学：自治体・企業組織の研究、学習する組織、システム思考
○学校心理学：学校風土改革・チームワーク・モチベーションアップ
○臨床心理士・公認心理師・心理学・臨床心理学
(認知行動療法・森田療法・家族療法・催眠療法) 等



学びたい人が参加するスタイルです。

【令和2年度】

「うまくいくチームのコツとは？企業で学んでいる組織(OJL)を学ぶ
～自ら考え、動く組織・チームを創るために～」

【令和3年度】

「人材育成の視点を踏まえ、学校の取組を加速させるために必要なポイントとは」
「校務分掌でキャップ”になっちゃいました！？どうやったら、みんなでうまくいくチームが創れるの？～OJLを学び、楽しくかつ創造的に働くチームを創るために～」シーズンⅠ

【令和4年度】

「働き方改革を目指すためのリーダーの視点と戦略」
「校務分掌でキャップ”になっちゃいました！？どうやったら、みんなでうまくいくチームが創れるの？～OJLを学び、楽しくかつ創造的に働くチームを創るために～」シーズンⅡ

資質・能力を育むために、あらゆる授業、校務分掌でチームが発生して取り組んでいる。

夏季休業中に、希望者が組織学やチームを活性化させるために必要なことを学ぶ機会を設けることで、より目的に向かって創造的に取り組んでいく、持続可能な組織を作っていく人材を育成していく視点で実施した。



学び続けることが、カリキュラムを整え、マネジメントするための原動力となった。



第3章

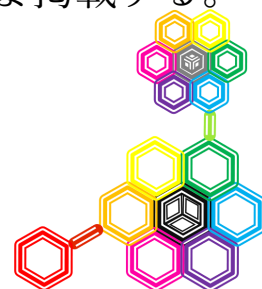
単元案と学習評価 ～これまでの事例紹介～

◆ 6つの単元案と実践例

今年度、独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所「知的障害教育における授業づくりと学習評価に関する研究」の研究協力校となっている。

この研究協力の内容は、本校では単元案等を通して、日々取組んできた内容である。

単元研究会等の後に報告された学習評価から「指導と評価の一体化」に直面しながら、取組んできた実践のごく一部をそのまま掲載する。



参考: 実際の単元案・学習評価①

指導者: 小学部1年1組 遠藤砂絵



相馬支援学校 単元案

生活単元学習

本校の学校教育目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
小学部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
身近な生活で扱う基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、友達と一緒に課題を解決していく力	自ら学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

生活単元学習単元案	単元・題材名	「すなあそびをしよう」
-----------	--------	-------------

【単元・題材で育成する資質・能力】 主に小学部1段階で設定

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活科 ④遊び	砂遊びや砂遊びの道具・おもちゃ、友達の遊び方等に関心をもつことができる。	一人で好きな遊びをしたり、友達と関わり合ったりしながら一緒に砂遊びをすることができる。	道具を使って自分の好きな砂遊びをしたり、友達の遊び方に注目して真似をしたりしている。
図画工 作科 A 表現	砂や小石等の自然物に触れながら、砂を握る、積み上げる、砂山を崩す、小枝を並べる等の遊びをすることができる。	作りたいものをイメージしながら砂を握ったり押ししたりして形を変えたり、道具を使ったりして表現することができる。	砂や小石、小枝等の自然物に触れながら砂遊びをしたり、進んで道具を使おうとしたりしている。
算数科 D 測定	砂遊びを通して、砂山の大きい・小さい等の違いに気付いて区別することができる。	大小や多少等で区別することに興味をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現することができる。	砂遊びを通して、大きい・小さい等の違いに気付いたり、量の大きさを表す言葉を使おうとしたりしている。

* 自立活動 個別の指導計画の指導内容による

単元構想のためのメモ欄

8/25、26、31、9/1、2 (本時)、7、8、9 計8時間

※ふれあいコート1の砂場で展開する。暑さ対策として、また、雨天時にも実施できるように砂場にテントを設置する。(大雨、雷等の悪天時は延期や中止を検討する。)

※砂の感触を楽しめるように裸足で行うが、裸足が苦手な場合や砂が熱い場合も想定し、ビーチサンダルも用意する。

※砂場で水を使用できるように、教室の水道からホースを伸ばしておいたり、キャンプ用のタンクを用意したりしておく。

※1時間を前半と後半に分けて、前半は設定遊び、後半は自由遊びを展開するようにする。

62

【「何を、いつ、どのように」育んでいくのか】

展開	時数	評価規準○				●どのように【学習活動】 どのような指導で(習得、活用、探求)	
		教科名	知・技	思判表	主		
第一次	1 2	生活	○			8/25、26 (2h) ●すなあそびをつくらう。 主・対: ・道具(スコップ)を探して、砂山を作る。 ・2チームに分かれて砂山を作り、どちらが大きい(高い)かを比べる。 〈悪天時案〉 ・粘土で山を作って、大きさ(高さ)を比べる。	習得・活用
		図工	○				
		算数	○	○	○		
		* 自立活動(個々)					
第二次	3 4 5 (本時)	生活	○	○		8/31、9/1、2(本時) (3h) ●みちをつくらう。 主・対・深: ・第1次に作った山の周りに道路を作る。道路は掘って作る、小石を並べる等、児童が考えて作れるようにしておく。 ・山にトンネルを掘って道路をつなげる。(本時) 〈悪天時案〉 ・砂の道を通る車のおもちゃを作る。(ペットボトル等)	習得・活用・探究
		図工		○	○		
		算数			○		
		* 自立活動(個々)					
第三次	6 7 8	生活		○	○	9/7、8、9 (3h) ●うみをつくらう。 対・深: ・海を掘り、水をためる。その際、水がどこから流れてくるか考え、山から川、海へとつながるように展開する。 ・海に水がたまったら、魚や船を浮かべる。 ・砂を固めてお家やお城を作り、一つの町として完成させる。 〈悪天時案〉 ・砂絵をする。	活用・探究
		図工		○	○		
		算数			○		
		* 自立活動(個々)					

※自立活動と密に関連して展開する。

【他の単元とのつながり】

	「過去の単元」	「現在の単元」	「今後の単元」
国語科	「なまえはなに」 ・道具の名前	「あいうえお」をよもう ・道具の名前	「おはなしであそぼう」 ・山、川、海等の自然、町
算数科	「あるかな ないかな」 ・対象物の存在 「なかまわけをしよう」 ・乗り物、道具	「かぞえてみよう」 ・道具の数	「かたちあそびをしよう」 ・図形 「おおきい、ちいさい」 ・大きさ比べ
生活単元学習	「ねんどであそぼう」 ・粘土遊び	「すなあそびをしよう」 ・砂遊び	「のりものであそぼう」 ・乗り物遊び
日常生活等	「休み時間」 ・砂遊び		

【「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」とのつながり】 ※幼稚園教育要領を参照

	S・Y	K・R
2、自立心 (領域: 人間関係)	やりたい遊びがあっても「一緒にやろう。」と誘ったり、一人で集中して遊んだりすることができず、すぐに遊びを替えてしまう。	好きな遊びを十分に楽しむ姿は見られるが、できないことがあるとすぐに先生に「やってください。」と頼んでしまうことがある。

参考・実際の単元案・学習評価②

	配慮事項	目標に準拠した学習評価
生活科	<p>③ 学びに向かう力、人間性等</p> <p>①砂遊びや砂遊びの道具・おもちゃ、友達との遊び方等に関心をもつことができる。</p> <p>②一人で好きな遊びをしたり、友達と関わり合ったりしながら一緒に砂遊びをすることができる。</p> <p>③道具を使って自分の好きな砂遊びをしたり、友達との遊び方に注目して真似をしたりしている。</p>	<p>○おもちゃのかごの中からスコップやざる、お玉等を選んで砂遊びをしたり、友達がじょうろに水を汲んでいる様子を真似して水を汲みにいたりすることができた。</p> <p>○自由遊びでは、ざるを使って石集めをしたり、先生から提案されたおもちゃ探しをしたりしながら砂遊びをすることができた。特におもちゃ探しでは、先生が隠したおもちゃを掘って見つけたり、おもちゃを埋めて友達を誘ったりして遊ぶことができた。</p> <p>○ざるや植木鉢を使って小石集めをしたり、友達がバケツをひっくり返す様子を真似したりしていた。</p>
図画工作科	<p>①砂や小石等の自然物に触れながら、砂を握る、積み上げる、砂山を崩す、小枝を並べる等の遊びをすることができる。</p> <p>②作りたいものをイメージしながら砂を握ったり押ししたりして形を変えたり、道具を使ったりして表現することができる。</p> <p>③砂や小石、小枝等の自然物に触れながら砂遊びをしたり、進んで道具を使おうとしたりしている。</p>	<p>○砂や小石、枝等に触れながら砂を積み上げる、固める、砂山を足で踏む、枝を折って使う等の遊びをすることができた。</p> <p>○トンネルを作るためには「砂山を作る→固める→掘る」という流れが必要であることを理解し、じょうろで水をかけて固めたり、スコップや手を使って穴を掘ったりしながらトンネルを作ることができた。</p> <p>○小石を集める際に、ざるをゆらして大きめの石を集めようとしたり、枝を半分折ってトンネルのように使いながら石をつまんで集めたりしていた。</p>
算数科	<p>①砂遊びを通して、砂山の大きい・小さい等の違いに気付いて区別することができる。</p> <p>②大小や多少等で区別することに関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現することができる。</p> <p>③砂遊びを通して、大きい・小さい等の違いに気付いたり、量の大きさを表す言葉を遣おうとしたりしている。</p>	<p>○砂山に棒を立てて印を付けながら大きい・小さいの違いに気付いて区別することができた。</p> <p>○教師が「どっちが大きい?」「昨日より小さいね。」等と砂山の大きさについて言葉で表現することができた。</p> <p>○大きい砂山を作ろうと友達の砂山と自分の砂山を見比べながら砂をたくさん集めたり、自分から「棒を貸してください。」と言って棒を砂山に立てながら大きさを比べたりしていた。</p>

各教科等を合わせた指導でも、各教科等の資質・能力をしっかりと学習評価します。評価することで、効果的な単元構想、教科別の指導が効果的である指導内容があることなど、気づくことができました。



実際は、学習した子どもの分だけ学習評価をしています。紙面上一部の紹介です。以下、どの単元案の学習評価の例も同様です。

保健体育科

相馬支援学校 単元案

本校の学校教育目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
中学部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活につなげようとする力	自ら考え、協働し、課題に気付いて改善しようとする力	自ら進んで学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

保健体育単元案	単元・題材名	球技「ベースボール型」ソフトボール (ティールール)
---------	--------	----------------------------

【単元・題材での学習指導の目標】 知的障害者教科等編(中学部) 体育科2段階

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	イ 各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見つけ、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	ウ 各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進と回復に進んで取り組む態度を養う。

知的障害者教科等編(中学部) 体育科2段階 球技

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 内容のまとまりのこと	・ベースボール型の楽しさや喜びを味わい、打つ・投げるの行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、ティールールのゲームを行っている。	・打つ・投げるについて自分や他者の課題を見つけ、その解決のために友達と考えたり、工夫したりすることを他者に伝えている。	・球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場の用具の安全に留意したりし自己の力を発揮して運動している。

単元構想のためのメモ帳

- 生徒の実態
 - ・昨年度に球技「ベースボール型」を履修している。基本的な動きは知っているが、技能習得しているまでは至らなかった。「ボールは打てるけど・・・?」「ボールは投げられるけど・・・?」
 - 今回取り上げるベースボール型の知識・技能(楽しさや喜び)
 - (第一次) 投げる(投げるために大切なポイント)を話し合い活動を通して導き、打球が以前より飛ぶ
 - ・足の動き、体の向き、投げる角度
 - (第二次) 打つ(打つために大切なポイント)を話し合い活動を通して導き、打球が以前より飛ぶ
 - ・腰の動き・バットの入射角
 - (第三次) 簡易化したゲーム(知識・技能を活用してティールールのゲームに取り組むことができる)
 - ICT活用(知識・技能を深めるための手立て) 1グループに1台 iPad
 - ・授業や行うスポーツの見通しをもたせるために、導入でパワーポイントをもとに説明したり、実際のゲームを見たりする時間を設定する。

参考：実際の単元案・学習評価③

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基盤となる 資質・能力		現代的な諸課題に対応して求められる 資質・能力		相馬支援学校 ならではの力
言語能力	情報活用能力	地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成	生活力や地域力の育成	自己理解・自己実現の育成

「何を、いつ、どのように」育んでいくのか？

展開	時数	知・技	思・判・表	主	横断的な力	●どのように【学習活動】 どのような指導で（習得、活用、探究）
第一次	1	○	○			●オリエンテーション（実際の試合や動きを見る） 【ソフトボールの試合を見る】【基本的な動きや用具について知ることができる】【感覚運動を行う】ソフトボールについてのイメージをもつことができるように、導入時に動画や学習資料、パワーポイント等を準備する。【主・対ソフトボールへ意欲をもって参加できるように、実際に用具に触れたり、基本的な動きを体験したりする】 ＜感覚運動＞片足バランス、パチン・フンブン体操、力ため体操、セルフキャッチ
	2	○	○			●遠くに飛ばす投げ方を考えよう。 【タオル投げスローイング】20m【より遠くに投げるポイントについて気付くことができる】【自他の投げ方の課題に気付くことができる】【主・対より遠くに投げるポイントに気付くことができるように、見本の動画を準備したり、ポイントを焦点化したりする。】 【主・対自分の体の動きや変容に気付くことができるように、iPadでスロー再生の動画をとる係を設定する。（ポイント）体の向き、あし的位置、腕の動き
	3	○	○			●遠くに飛ばす打ち方を考えよう。 【ホームランゾーンに飛ばしてみよう】20m【より遠くに打つポイントについて気付くことができる】【自他の打ち方の課題に気付くことができる】【主・対より遠くに打つポイントに気付くことができるように、見本の動画を準備したり、ポイントを焦点化したりする。】 【主・対自分の体の動きや変容に気付くことができるように、iPadでスロー再生の動画をとる係を設定する。（ポイント）腰の動き、バットの入射角
第二次	4	○	○			●簡易化したゲーム（ティーボール）を行う 【基本的な動きやこれまで学んだことを意識して試合する】【試合に積極的に取り組み、まきまりや簡単なルールを守る】【主・対これまで学んだことを意識して行うことができるように、試合前に作戦を考えたり、ポイントを提示したりしながら試合を行う。（見える化）】 【主・対すべての生徒が楽しめるように、場の設定やルールを工夫する。（バット置き点、距離の工夫）】 【主・対スポーツの4つのかかわりの中の「見る・する・支える」について意識できるように、試合前に提示する。応援する。得点版等
	5	○	○			
第三次	6	○	○			
	7	○	○			
	8	○	○			
	9	○	○			

【他の単元とのつながり】

	「過去の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察	「現在の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察	「今後の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察
保健体育科	「球技」 サッカー・バスケットボール	「球技」 ソフトボール	「球技」 卓球
国語科	「話してみよう・伝えてみよう」	「作品を読もう」	「話し合いをしよう」
数学科	「数と計算」 小数の表し方	「図形」 三角形、四角形を調べよう	「図形」 大きさを調べよう
社会科	「社会生活に必要なまきまり」 ○家庭や学校でのまきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。	「身近な地域の移り変わり」 ○身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知る。	「伝統や文化」 歴史的背景や文化の継承、文化の発展、文化の交流、文化の創造、文化の表現すること。



単元構想がしっかりしてくると、授業者が各教科等で「見方・考え方」が働かせることができるように単元構想等で追究することが多くなりました！

【内容のまとめりごとの評価規準と観点別学習状況の評価】

① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に取り組む態度	手立てや配慮事項	①より遠くに打つ・投げるために、「バットの軌道を②にする」や「腰を回す」「腕の振り大きくする」といった発言から、より遠くに打つ・投げるためのポイントを理解していた。技能の習得については、意識しながら打つ・投げるに取り組んだ結果、打球が強くなったり、はじめより遠くに打つ・投げたりすることができた。
①知識・技能 ベースボール型の楽しさや喜びを味わい、打つ・投げるの行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、ティーボールのゲームを行っている。 ②思考・判断・表現 打つ・投げるについて自分や他者の課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりすることを他者に伝えていく。 ③主体的に取り組む態度 球技に積極的に取り組み、まきまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場の用具の安全に留意したりし自己の力を発揮して運動している。	○自分の考えを説明することができるように、説明の仕方の手本を示したり、ポイントを焦点化したりする。 ○視力が弱いため、iPadの映像を確認する際に正面の位置で見るように言葉がけをする。	②自他のスイングをiPadで確認する時間では、「自分は②で振っているつもりだったけど、こんなに①なんだ」という自身の課題に気づいた発言があった。工夫したこと実践したりすることができるといふ点では、「打つ前にバットの軌道を確認する」という工夫を挙げ、実際の試合でバットの軌道を打つ前に確認しながら取り組む姿があった。 ③各種のゲームでは、全力で塁間を走ったり、バットゾーンに静かにバットを置いたりする姿から、積極的に取り組み、まきまりを守りながら取り組んでいた。友達と助け合う目標については、片付け等で協力して片付けていることはできたが、ゲーム中に助け合う場面は見られなかった。→場の設定が不十分だったかな。

各教科等横断的な視点に立った資質・能力についても学習評価をすることで、実践感覚が見えてきました。

各教科等の学習の文脈の中で、これらの資質・能力が横断的に育成・発揮された姿

＜教科等横断的な資質・能力＞：問題発見・解決能力
学習で得た知識から解決方法を探して、結果を予測し試行錯誤等しながら、問題・発見に必要な力を身に付ける。

【評価】
問題発見は、②は下からバットをふるとボールが上がりやすくなるという発言から、スローイングや理科？で「経験し、学んだ知識」を活用した姿が見られ、結果を予測して考えることができていた。解決能力については、「打つ前にバットの軌道を確認する」という工夫を考え、実際の試合でバットの軌道を打つ前に確認しながら取り組む姿があった。

①より遠くに打つ・投げるために、「バットの軌道を②にする」や「腰を回す」「腕の振り大きくする」といった発言から、より遠くに打つ・投げるためのポイントを理解していた。技能の習得については、打つ・投げる共に習得している。次の段階は、狙った方向に打つ等かな。

手立てや配慮事項
①より遠くに打つ・投げるために、「バットの軌道を②にする」や「腰を回す」「腕の振り大きくする」といった発言から、より遠くに打つ・投げるためのポイントを理解していた。技能の習得については、意識しながら打つ・投げるに取り組んだ結果、打球が強くなったり、はじめより遠くに打つ・投げたりすることができた。
②自他のスイングをiPadで確認する時間では、「自分は②で振っているつもりだったけど、こんなに①なんだ」という自身の課題に気づいた発言があった。工夫したこと実践したりすることができるといふ点では、「打つ前にバットの軌道を確認する」という工夫を挙げ、実際の試合でバットの軌道を打つ前に確認しながら取り組む姿があった。
③各種のゲームでは、全力で塁間を走ったり、バットゾーンに静かにバットを置いたりする姿から、積極的に取り組み、まきまりを守りながら取り組んでいた。友達と助け合う目標については、片付け等で協力して片付けていることはできたが、ゲーム中に助け合う場面は見られなかった。→場の設定が不十分だったかな。

参考: 実際の単元案・学習評価④

生活単元学習

小学部1学年1組 生活単元学習
日 時: 令和3年11月18日(木) 第3校時
場 所: 小学部1年1組教室
指導者: 相原聖美(T1)、鈴木奈緒(T2)



本校の学校教育目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
小学部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
身近な生活で扱う基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、友達と一緒に課題を解決していく力	自ら学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

(生活単元学習) 単元案	単元・題材名	「あきをさがそう」
--------------	--------	-----------

【単元・題材での目標】主に小学部1段階で設定

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活科 1段階	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心を持ち、感じたことを伝えようとする。	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編 (小学部) 生活科1段階 サ生命・自然

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめと評価 規準	身の回りの自然に触れ、四季の特徴や自然について関心をもっている。	身の回りにある自然や四季の特徴に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとしている。	身近な神社や公園の自然に触れる活動を通して、身近な自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりしている。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
国語科 2段階	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編 (小学部) (小学部) 国語2段階 知技:イ(イ)、 思判表:Aア

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめと評価 規準	遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しんでいる。	「聞くこと・話すこと」において、身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりしようとしている。	教師や友達とのやり取りを通して進んで言葉による表現に親しんだり、自然に触れた学習を生かして事柄と語句を結び付けたり、語句から事柄を思い浮かべたりしようとしている。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
音楽科 1段階	音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心に向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようにする態度を養う。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編 (小学部) 音楽科1段階 A表現:A(ア)(イ)(ウ)イ [共通事項] (1)ア、B鑑賞:A(ア)(イ) [共通事項] (1)ア

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめと評価 規準	(表現) ・思い合った表現をするために必要な、表現する音や音楽に気付いている。 ・思い合った表現をするために必要な、音や音楽を感じて楽器の音を出す技能を身に付けている。	(表現) 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたことの間わりについて考え、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとしている。	(表現) 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽作りの学習活動に取り組もうとしている。
	(鑑賞) 聴こえてくる音や音楽に気付いている。	(鑑賞) 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたことの間わりについて考え、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとしている。	(鑑賞) 音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

単元構想のためのメモ欄

・11/1 (秋にはなにがある?)、2 (夏を覚えてもらおう)、4 (校庭で秋を探そう)、8 (鶯内稲荷神社で秋を探そう)、10 (2h: さくらホールで秋を探そう)、11,15 (見つけたものなあに)、16,18 (秋の音を見つけよう: 本時)、19,22(秋の発表会をしよう: 音をよく聴いて選ぼう、発表会の練習をしよう)、24 (秋の発表会をしよう: 234年生と発表会)、25 (まとめ)・・・14h (本時10/14)

- ・(生活) 今年は秋、冬。2年計画で四季を一周。
- ・(音楽) 9・10月の音楽の単元「いろいろな音を楽しもう」を生かしてほしい。打楽器の色々な鳴らし方。「さがしてみよう ならしてみよう」で曲を聴こうとしたり、曲に合わせて簡単なリズム打ちをしようとするのではないかな。学習した身近になった音楽を使用したい。そして、秋の音を見つけることを通して、じっくり音を聴くことをさせたい。
- ・音を「じゃらじゃら」「ざざー」「からから」など表現する。→国語「なんのおとかな」で学んだ。→言語活用能力。

参考: 実際の単元案・学習評価⑤

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基盤となる 資質・能力			現代的な諸課題に対応して求められる 資質・能力		相馬支援学校 ならではの力
言語能力	情報活用 能力	問題発見・ 解決 能力	地域で起こる 災害等への緊急 時に対応する 力の育成	生活力や地 域力の育成	自己理解・自己 実現の育成

「何を、いつ、どのように」育んでいくのか

展開	教科	知・技	思・判・察	主	横断	育得
●どのように【学習活動】 どのような指導で【習得、活用、探求】						
第一次 (2h)	生活	○	○			習得
	国語	○	○			
*自立活動(個々)						
第二次 (6h)	生活	○	○			習得 活用
	国語		○	○		
*自立活動(個々)						
第三次 (6h) 本時2/6	1・音	○	○			探求
	2・国					
	3・音	○	○			
	4・国					
	5・音					
	6・国					
*自立活動(個々)						

【他の単元とのつながり】

	「過去の単元」 ○教科等横断的な教育内容の 検討・考察	「現在の単元」 ○教科等横断的な教育内容 の検討・考察	「今後の単元」 ○教科等横断的な教育内容 の検討・考察
生活単元 学習	「のりものであそぼう」 ・役割、協力、読み聞かせ	「あきさがそう」 ・季節、音楽遊び	「すごろくをしよう」
音楽科	「いろいろなおとをたのしもう」 ・楽器(打楽器)	「おとをあわせてたのしもう」 ・楽器(打楽器と鍵盤楽器)	
国語科	「なんのおとかな」 ・擬声語、擬音語、擬態語	「おとをみようかい」 ・仮名	

学習評価参考資料をもとにすることで、共通的事項の取り扱いも忘れず、評価規準に取り入れ、授業の中で指導と評価の一体化を図ることができました。



【内容のまとめりごとの評価規準と観点別学習状況の評価】

	①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③主体的に取り組む態度	手立て及び配慮事項	観点別学習状況の評価
生活	①身の回りに自然に触れ、四季の特徴や自然について関心をもっている。 ②身の回りにおける自然や四季の特徴に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとしている。 ③身近な神社や公園の自然に触れる活動を通して、身近な自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしてしている。	○活動に誘うために、友達ややっていることに注目できたりするよう言葉かけをする。 ○見つけたものは何かを問いかけるなどして、伝える経験を増やせるようにする。	①校庭や鶯内稲荷神社、さくらホールに行き、友だちと一緒に自然物に触れながら探検シートに書いてある黄色の葉っぱ、松ぼっくりなど秋のものを採ることができた。 ②校外で何を採ってきたか教師から問われると、「赤い葉っぱ」「えのころぐさ」など、積極的に発言できた。また、実物を貼って、名称をなぞり書きした発見カードももっと書きたいようであった。 ③校外で秋を探すことを楽しみと保護者にも伝えているようであった。見つけるのを忘れてしまうこともあったが、友達と一緒に行動して、自然物に触りながら自然と関わっていた。朝の会で歌っていたどんぐりころころも大きな声で歌うことができた。
音楽(表現)	①思いに合った表現をするために必要な、表現する音や音楽に気付いている。 ・思いに合った表現をするために必要な、音や音楽を感じて楽器の音を出す技能を身に付けている。 ②音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考え、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとしている。 ③音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽作りの学習活動に取り組もうとしている。	○複数の木の実や容器などを準備し、組み合わせることで自分なりの音を表せるようにする。 ○音楽で学んだ鳴らし方をやってみせ、鳴らし方を思い出して自分なりに音を表わせるようにする。	①音楽で鈴を鳴らしたように上下に振ったり、叩いたりするなどの音の出し方ができ、平な箱にどんぐりを入れ、前後に揺らして音を出すこともできた。音楽に合わせて「ちゃんちゃんちゃん」と合の手を入れるように拍を取って音を出すこともできた。 ②平な箱にどんぐりを入れ、前後に揺らして音を出すことができた。皆がやっていない音の出し方を模倣すると、自分の音の出し方の一つとして受け入れたようで、発表の場面でもその出し方を選択してやってみようとした。 ③自分で見つけた缶に入った音を友達に「ピーピーピーピー」など節をつけて歌いながら出して見せ音楽活動に誘い、自分で創造したことを友達にも広げようとする様子が見られた。

ここで、学習規準の
習得は、あと
通表、探検シート
全て連絡し
ますからね。



それに、音の違いを感じ
て面白さを感じたので、
発表でも選択して、しめお
けたいですね。

参考: 実際の単元案・学習評価⑥

作業学習

相馬支援学校 単元案

高等部 作業学習
 日時: 令和3年10月28日(木) 第3校時
 場所: 紙すき室
 指導者: 濱尾康史 (T1)、富村和哉 (T2)、大関克也 (T3)、室井郷司 (T4)、樋口裕香 (T5)

本校の学校教育目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
高等部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
自立と社会参加のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自分の考えを持ち、他者を理解し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

作業学習 単元案	単元名	咲笑祭でいろいろな製品を売ろう。
----------	-----	------------------

【単元・題材で育成する資質・能力】主に高等部1段階で設定

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
職業生活ア 勤労の意義	自分の能力や適性を発揮しながら、班の一員としての役割を果たすために、自ら作業に励む大切さを理解することができる。	分担した役割を果たすことで得られた成果等を振り返り、自分の役割を果たすことや協力することで得られる効率性や連帯感について考えることができる。	作業や実習等に達成感を得て、計画性をもって主体的に取り組もうとしている。
職業生活イ 勤労の意義	道具の特性を理解して正しく扱い、確実性や持続性、巧緻性を高め、状況に応じて作業することができる。	作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ることができる。	状況に応じた作業をしたり、作業効率の改善をしたりしようとしている。
数学 データの活用	数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフの意味や用い方を理解することができる。	目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するためにグラフを読み取り、考察することができる。	数量の関係を割合で捉えたり、問題を解決するためにグラフを読み取るうとしていたりしている。
国語 A	相手を見て話したり聞いたりするとともに、聞の取り方などに注意して話すことができる。	相手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、聞の取り方などを工夫することができる。	相手を見て話そうとしたり、相手に伝わるように聞の取り方などを工夫しようとしている。

単元構想のためのメモ



何となくではなく、いつ、どこで、教科のスイッチを入れて、勝負をするのか明確にして、授業に臨むことができるようになりました。

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基盤となる資質・能力	現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力	相馬支援学校ならではの力
言語能力	地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成	自己理解・自己実現の育成
情報活用能力	生活力や地域力の育成	
問題発見・解決能力	感染症、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成	

【「何を、いつ、どのように」育んでいくのか】

学年	時数	知・技	思・判・表	主	横断的な力	【学習活動】 どのような指導で(習得、活用、探求)	
第二次	10/4	職業ア	○	○		○	●咲笑祭までの見通しをもとに、 主咲笑祭は何日に行われるのか、作業の時間は何日あるのかを確認し見通しをもてるようにする。 ☑・☑在庫として残っている商品と今回作る商品をまとめた資料から、およそどれくらいの紙を準備しなければいかに計算して考えることができるようにする。 ・製品をつくるにあたって足りない紙をすいたり、ミキサーをかけたりなど、自分の能力や適性を発揮して班の一員としての役割を果たすことができる。 ・咲笑祭に向けて、看板を作り始めることができる。
		職業イ					
*自立活動(個々)							
第二次	10/6	職業ア	○	○			●製品を仕上げよう 紙すき: 足りない枚数や相模ショップ、販売会でも必要となる紙を生産する。 カレンダー: 日付の作成、原画・日付のスクリーン、使用する紙を精選、印刷、帳合しレールをつけて袋に入れる。 3連カレンダー: A3用紙に3月分(1~3月、4~6月、7月~9月、10月~12月)のカレンダーを合わせ印刷し、余分な箇所を切りキトリ線をつけ、帳合し袋に入れる。 ハンドマスク: A4サイズの紙を半分に切り、その紙を型紙に合わせて余った部分を折り返し貼り付ける。 ToDoリスト: 印刷し、25枚重ね規定のサイズに切る。上部をボンドで接着し乾いたら袋に入れる。 印刷用紙: A4サイズに紙を切ったり、すいたりする。 大看板・小看板作成: 紙すき班をアピールすることができるように、見やすい色や文字の大きさを作成する。生徒の写真なども貼り付ける。 会場準備: 販売しやすい配置し、どのように製品を並べるのかを考える。
		職業イ	○	○			
	10/7	職業ア	○	○		○	☑得意な作業や自分に合った作業等を様々な役割を経験して気付くことができるようにし、自信をもって作業に取り組むことができるようにする。 ☑それぞれの役割で分担し、協力して作業することによって効率的に作業を進められることに気付くことができるように進捗状況伝える。 ☑与えられた作業が終わった時や、手順、やり方が分からない時などに自分から友達や教師に聞くことができるよう、話しやすい空気や伝えなければいけない状況(周りは黙々と取り組み、自分は作業が進まない状況)を設定する。なんて聞けば良いのかを考え表現することができるよう言葉かけをする。
		職業イ	○	○		○	
	10/11	職業ア	○	○	○	○	・一人のミスが、全体の目標生産個数に影響を及ぼすことを知り、責任をもって作業に取り組むことができる。緊張感・危機感を抱かせる。 ☑咲笑祭当日に向け、時間や役割の確認をし、場に応じた声の大きさを接客等を行うことを伝える。見通しをもつことができるようにする。
		職業イ	○	○		○	
	10/13	職業ア	○	○			●咲笑祭を振り返ろう。 ・班全員で役割分担し協力したからこそ、危機的状況を乗り越えることができたことを感じ、連帯感の大切さを確認することができる。 ☑何が1番売れたのか表やグラフから考え読み取ることができるように着目するポイントを伝える。 ☑・☑売上をデータやグラフから読み取り、次回の咲笑祭、販売会等では何を生産するべきかを考え表現することができる。 ・達成感や一体感はピンチを乗り越えると育まれる。ピンチはチャンス。
		職業イ	○	○			
	10/14	職業ア	○	○	○	○	
		職業イ	○	○			
10/18	職業ア	○	○				
	職業イ	○	○				
10/20	職業イ	○	○	○	○		
	国語	○	○				
10/21	職業ア	○	○	○	○		
	国語	○	○				
*自立活動(個々)							
第三次	10/27	数学	○	○		○	
		10/28(本時)	数学	○	○		○
*自立活動(個々)							

【他の単元とのつながり】

	「過去の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察	「現在の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察	「今後の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察
1年	職業「働くことについて学ぼう」 数学「小数に仕組みを調べよう」 国語「好きなことを伝えよう」	職業「電話の対応の仕方を知ろう」 数学「分数」 国語「確めながら話を聞こう」	職業「現場実習に参加しよう」 数学「割合をグラフに表して調べよう」 国語「敬語の使い方」
2年	職業「働くことについて学ぼう」 数学「つり合いのとれた図形を調べよう」 国語「形を整えて書こう」	職業「写真を撮って紹介しよう」 数学「比例の関係を調べよう」 国語「友達と意見交換しよう」	職業「社会人になるために」 数学「割合の表し方を調べよう」 国語「古文に親しもう」
3年	職業「社会人になるために」 数学「数量やその関係を式に表そう」 国語「場面に応じた言葉遣い」	職業「現場実習に参加しよう」 数学「立方体の立方体の大きさの考えよう」 国語「朗読で表現しよう」	職業「社会人になるために」 数学「割合の表し方を調べよう」 国語「漢文に親しもう」

参考: 実際の単元案・学習評価⑦

【個別の指導目標及び手立てと学習評価】

	本時の指導目標	手立て・配慮	目標に準拠した学習評価
職業ア	①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等	・製品の準備する数を提示しておくことで見通しをもって作業に取り組むことができるようにする。	・製品を準備する数に目々向き合い、達成に向けて真剣に与えられた作業に取り組むことができた。自分の作業を終えた際には、教師に「次やることはありますか」と聞き、率先して作業に励むことができた。 ・与えられた役割に責任をもって取り組んだ結果、目標個数を納期までに準備することができた。その際、笑顔で喜ぶ様子や「おー！嬉しいな！」などと言葉にしており、協力する大切さや効率性について身をもって感じることができていた。 ・協力して乗り越えた咲笑祭では、売り上げを確認し、班員と喜ぶ姿が見られた。データやグラフを読み取り、来年度は今回よりも計画的にすめられるよう生産個数を考えることができた。
職業イ	①道具の特性を理解して正しく扱い、確実性や持続性、巧緻性を高め、状況に応じて作業することができる。 ②作業上の安全や衛生及び作業の効率性について考え、改善を図ることができる。 ③状況に応じた作業の進め方について考えることができる。	・気をつける箇所や、工程の流れを一緒に確認しながら取り組む。 ・終わったら、一緒に確認をしてどの作業工程の	・カレンダーの土日や祝日に色を付ける作業で、教師の説明をよく聞いて、枠からはみ出さないように紙を回しながらから塗ることは、消しゴムを使いきれいに消すことができていた。 ・片付けでは、率先してほうきとちりとりを持って活動していたが、ごみを集めてからとるのではなく、見つけたらその都度とることをしていた。ほうき、ちりとりを使い方、効率的にごみを集める方法について話をしたが、もう一度全員で共通理解をしておく必要がある。 ・カレンダーにレーンを通す作業の際に、うまく通せない時間があった。周りの友達は黙々と進めているが、自分は進まない状況だった。その時に「うまくできません。教えてください」と言ったり、カレンダーを持ってきて、「ひもが外れてしまいました。どうしたら良いですか」と相談することができた。このままでは進まないという状況で、どうしたら進むことができるのかを考えて行動することができた。自分にとって難しい作業を理解することができていた。
数学	①数量の関係を割合で捉え、円グラフや帯グラフの意味や使い方を理解することができる。 ②目的に応じてデータをまとめて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するためにグラフを読み取り、考察することができる。 ③数量の関係を割合で捉えたり、問題を解決するためにグラフを読み取りようとしていくことができる。	・正確なデータを出すために、電卓を使用して確認できるようにする。 ・数で比べるだけでなく、グラフからも読み取れないか言葉かけをする。	・円グラフなどが用いられている場面で、「コロナのニュースで見たことある」との発言が見られた。数量を割合に直し、グラフに表すことができた。 ・「100%は嬉しい、52%は寂しい」などの発言からそれぞれのデータの特徴や傾向に着目することができていた。また、そこから本人なりに52%よりも増やすために、作る個数を増やすという解決方法を考えた。大関Tより、具体的な数字で説明を受けたことで、作る個数を「今年よりも少なく」と、考

何となくではなく、各教科等の学習評価に向き合います。効果的だった姿が学習評価と共に見えたり、その逆だったり、「～ありき論」ではなく、根拠をもって指導形態を考える根拠となりました。



音楽科

相馬支援学校 単元案

研究授業日時：令和4年7月12日（火）6校時
場所：音楽室
指導者：五十嵐早織(T1)八巻美貴(T2)山田敦子(T3)山本祐一(T4)



本校の学校教育目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
高等部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
自立と社会参加のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自分の考えを持ち、他者を理解し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

音楽科 単元案	単元・題材名 「合奏をしよう」
---------	-----------------

【単元・題材で育成する資質・能力】 高等部2段階

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
2段階		
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようになる。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

知的障害者教科等編(上)(高等部) 音楽2段階A表現イ器楽、共通事項

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりとこと評	・多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりを理解している。 ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体を使い方を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じたこととの関わりについて考え、曲に対するイメージを膨らませたり、他者のイメージに共感したりして、思いや意図をもち、工夫して演奏している。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

単元構想のためのメモ帳

- ・3年1組7名、2組6名の13名。(+H・Hさん)
- ・4/26、5/10・17・31、6/7・28、7/5・12・19の9回(5/31④、7/12⑤五十嵐研究授業)
- ・「ゴジラ-メインタイトル」、「木星(組曲「惑星」から)」を2グループに分かれて演奏する。7/19に発表会
- ・①鑑賞 グループ・パート分け②パート練習③パート練習④合わせ練習⑤合わせ練習⑥合わせ練習⑦ステージ構成⑧ステージ構成⑨発表会
- ・「ゴジラ」ピアノ、打楽器(ボンゴ、カホン等)「木星」木琴 or 箏、トーンチャイム、ハンドベル
- ★共通事項：音楽を形づくっている要素に関わる用語や記号と音楽の動きの関係に気付こうとしている。
↑こちらは、主に知識・技能の理解する過程や結果において理解されるものである。

参考: 実際の単元案・学習評価8

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基盤となる 資質・能力		現代的な諸課題に対応して求められる 資質・能力			相馬支援学校 ならではの力	
言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成	生活力や地域力の育成	感染症、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成	自己理解・自己実現の育成

「何を、いつ、どのように」育んでいくのか

展開	知・技	思・判・表	主	横断的な力	●どのように【学習活動】 どのような指導で(習得、活用、探求)
1	○	○			●グループ・パート分けをしよう。4/26 【合奏する曲を鑑賞し、使用する楽器を知る】 由2曲を聴き比べながら、雰囲気を感じ取ることができるようにする。 習得
2	○				●パート練習をしよう。5/10・17・31 ●合わせて練習しよう。6/7、6/28、7/5 活用
3	○				【範奏や楽譜をみて演奏の練習に取り組む】
4	○			言	由楽譜から必要な情報を読み取るために、五線譜や音楽記号を学ぶ機会を設定し、興味をもって取り組めるようにする。
5		○		言	対パート内やグループ内で合わせて練習しながら、自分の演奏したいイメージを伝えたり、相手のイメージに共感したりしながら、自分の演奏に対する考えを広げ、強弱やテンポなどを変えるなどの工夫をして演奏できるようにする。
6		○		問	習練方法方法を工夫しながら取り組み、演奏したいイメージを再現できる場面を設定していく。
7		○		問	●聴いて伝えよう。7/12 【他のグループの演奏を鑑賞する】 由聴くときのポイントを設法を聞き取る場面を設定し、対・深感じ取った雰囲気イメージに近づけることができるようにする。 【他者の演奏を聞く場 よう ●発表 【編 演発 感想や かわか

初任者でも、単元のまとめごとに、単元案や学習評価に向き合うことで、授業力、単元構想力、学びを見取る力が飛躍的に向上しました。

【他の単元とのつながり】

	「過去の単元」	「現在の単元」	「今後の単元」
国語	「新聞を読み比べよう」 ○情報を読み取る力	「和の文化を伝えよう」 ○情報を読み取る力 ○分かりやすく伝える力	「心が動いたことを17音で表そう」 ○自分の思いを表現する力
音楽	「合奏しよう」 ○楽譜の読み方 ○楽器の演奏の仕方		「クリスマスの曲を合奏しよう」 ○楽譜の読み方 ○楽器の演奏の仕方

【内容のまとめりとごとの評価規準と観点別学習状況の評価】

① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に取り組む態度	観点別学習状況の評価
①多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりを理解している。 ・創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方を身に付けている。 ②・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ったことに関わりについて考え、曲に対するイメージを膨らませたり、他者のイメージに共感したりして、思いや意図をもち、工夫して演奏している。 ③音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	①ボンゴの2つの太鼓の音色の違いや、マレットやパチで叩いたときと手で叩いたときの音の響きの違いに気付くことができた。 ②音を鳴らすタイミングがあっていると、聴き取りやすいということに気付いたり、盛りあがった雰囲気をだすためにはどちらの太鼓の音色があうかを考えて、「強い」音のするほうを選んで演奏したりすることができた。(「強い」という言葉が高低なのか、音色なのか「強い」が分らなかった。) ③はじめはボンゴをパチを使用して演奏していたが、友達が手で叩く姿を見て、自分も手で叩いて演奏したり、友達のかげ声に合わせて練習したりすることができた。
各教科等の学習の文脈の中で、これらの資質・能力が横断的に育成・発揮された姿 <教科等横断的な資質・能力>: 言語能力:「創造的・論理的思考の表現力」の育成を図る。 問題発見解決能力:学習で得た知識から解決方法を探して、結果を予測しながら実行して振り返る力を育む。 ○自分の持つイメージを「強い感じ」や「盛り上がった雰囲気」などの言葉で伝えることができた。 ○テンポや強弱を意識して、演奏の仕方を考えることができた。 ○はじめは、身体の状態からパチを使用したいと申し出ていたが、音色を変えるにはどうしたら良いか考え、手でたたくことに挑戦することができた。	

五十嵐先生は、10日と同じ単元でしたが、あの時の単元研究の学習評価から、生徒に教える目標にせよ指導力、単元構想、おもしろい授業改善まで、すごいと思いました。
今日の授子前
「思、判、表」が3つに決まるとして進まえておきました」
と一言、単元で育むことの意味を端的に表していました。
その発言から、確かに、①-③の学習目標とかが育ち、行動としていえることがわかりました。
いい単元でよかった。
2学期、学校の音楽、よしくおかわかしよす!
「共通の事柄」の扱、指導感覚、実践種目などから教えること、

参考:実際の単元案・学習評価⑨

理科

相馬支援学校 単元案



本校の学校教育目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
高等部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
自立と社会参加のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自分の考えを持ち、他者を理解し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

(理科)単元案	単元・題材名	「雲と天気の変化」
---------	--------	-----------

【単元・題材での目標】 知的障害者教科等編(上)(高等部) 理科1段階B地球・自然

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
流れる水の働き、気象現象の規則性についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	流れる水の働き、気象現象の規則性について調べる中で、主に予想や仮説を基に、解決の方法を考える力を養う。	流れる水の働き、気象現象の規則性について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。

知的障害者教科等編(上)(高等部) 理科1段階B地球・自然イ天気の変化

評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの	<ul style="list-style-type: none"> 天気の変化は、雲の量や動きと関係があることを理解している。 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想と理解している。 観察、実験的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 天気の変化の仕方について調べる中で、天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮説を基に、 	<ul style="list-style-type: none"> 気象現象の規則性についての事物・現象に進んで関わり、学んだことを学習や生活に活かそうとしている。

単元構想のためのメモ

- *実際に1週間、タブレット等を活用し
- *予想、実験方法を事前に構想する。
- その際、授業の展開できるようにする。
- *教科等横断的な資質・能力を育むことに加え、災害等へ緊急時の文脈の中で、

ある授業者曰く
「取組めば取組んだ分、様々なことが見えてきます。」
と語っています。

単元案や学習評価を通して、単元をコントロールする感覚、本時の感覚、学習評価の意味、指導と評価の一体化等の意味を実感でき、繰り返す実践者ほど、授業力を飛躍的に向上させ、個別の指導計画等の業務スピードも速くなる授業者が多いです！もちろん、学級の子どもたちが資質・能力を伸ばし、変容していくのは言うまでもありません。

【教科等横断的な視点に立った資質・能力】

学習の基礎となる資質・能力	現代的な課題に対応して資質・能力
言語能力 情報活用能力 問題発見・解決能力	地域における災害等の緊急時に対応する力 生活力や地域力の育成

「何を、いつ、どのように」育んでいくのか？

●どのように指導する？

展 示 期 間	知 識 技 術	思 考 判 断 力	主 眼 点	横 断 的 な 資 質 ・ 能 力	
第一 次	1	○	○	○	●雨が降るときの天気の変化について、雲と雲の動き、雨雲レーダーの動きを捉え、観察の方法を考える。 ●実際に外の様子を1週間観察し、観察結果を見て、天気の変化の仕方を調べる。
第二 次	2	○	○	○	●雲の空間的な広がりについて考える。 ○目の前で見える雲の大きさを調べる活動を行うことができる。 ○目の前で見える雲の色と雲画像の色の違いが生じた原因を探る活動を通して、雲画像の濃淡と雲の厚みを関係付け、雲の空間的な広がりを探ることが出来る。 ●実際に実験から振り返り、考えることができるようにする。 ●実際にタブレットを用いて、画像にて調べる活動を取り入れる。 ●実験結果を発表して、表現できるようにする。 ●実験結果を発表して、表現できるようにする。 ●実験結果を発表して、表現できるようにする。
	3	○	○	○	●実験結果を発表して、表現できるようにする。 ●実験結果を発表して、表現できるようにする。 ●実験結果を発表して、表現できるようにする。
	4	○	○	○	●実験結果を発表して、表現できるようにする。 ●実験結果を発表して、表現できるようにする。 ●実験結果を発表して、表現できるようにする。
第三 次	5	○	○	○	●時間的・空間的な見方を働かせて、天気の変化を予想する。 ●気象情報を使い、自分で天気の変化を予想できるのだろうか、P172 ●画像を見て、気づくことができるようになる。 ●二日後の天気や予想してみよう。 ●これまでの学習を生かして、天気や予想し、実際の気象を確認してみる。 ●予想結果の検証 準備物：タブレット(2台、テレビ)もしくは情報処理室 5月21日、28日
	6	○	○	○	●気象による災害について調べ、自分に何が出来るか考える。 ●実際に今何とどのように関わっていくのだろうか。 ●主として実際にあった一件の気象の動きを考えながら、今後の備えにつながるようにつなげる。 6月4日
	7	○	○	○	●実際に今何とどのように関わっていくのだろうか。 ●主として実際にあった一件の気象の動きを考えながら、今後の備えにつながるようにつなげる。 6月4日

【他の単元とのつながり】

過去の単元	現在の単元	今後の単元
4月 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察 「メモを取りながら話を聞く」	5月 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察 「詩を詠もう」 「好きな事を伝えよう」	6月 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察 「形を整えて書こう」 「お祝いやお礼の手紙」
国語科 「1万、1億の数」	「およその数」	「かけ算の筆算の仕方」
数学科	「学校や地域の災害時における対応」	
総合	ICTがもたらす利便性・危険性	情報モラルを知ろう

冊子の都合上、これは、ごく一部。
国語、算数、数学、社会、様々な教科等があり、総数は単元案としては400以上！！
学校内のフォルダに整理されている単元案の学習評価を見て、「こんな感じなんだ」と参考にする先生もいます。

観点別学習状況の評価

知識と関係がある気象情報を用いている。初歩的な技能

調べる中の量や動きと見を基に、解

ての事物・現ことを学習や

①実験結果や気象衛星や雨雲レーダーの時間による変化から、「雲」がだんだん濃くなって、雨が降った。「西(日本)の天気は雨雲は多いから、雨(日本)にはいけばいくほど、雨雲は少なくなるから晴れている。」など、知識を活用しながら、雲と天気の変化が分かり、予想することができた。

②台風などの動き方を検証する時に、「1つの動きでは検証できない。他の台風の動きを調べないといけない。」と確かめるための解決方法を考え提案することができた。実際に、複数の台風の動きを調べること、(だいたい)南で発生し、北上しながら東にそそれる。」と大きな動きを考え、表現することができた。また、雲の厚さと天気の関係については、実験結果と結びつけ、「雲の多さ(実験だと線)が重なっていくと目の前の雲の色が違う」「黒くなってると雨が降る。」とその因果関係を理解するなど、予想や仮説をもとに、結果からその関係性を表現することができた。

③天気や雲の色の変化について、「前は考えていなかった」と話していたが、提示された天気や気象衛星や雨雲レーダーなどから、天気との関係が分かり、今後は、「天気予報や台風の動きを見る(予想する)」と知識を活用し、予想したり、実験のためには、複数のデータが必要なことに気付いたり解決方法を考え、取り組もうとする姿が見られた。

各教科等の学習の学習の文脈の中で、これらの資質・能力が横断的に育成・発揮された姿

<教科等横断的な資質・能力>: 情報活用能力
ICT等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理したりする力。

【評価】
現在の天気や調べるという名目のもと、「どのようにして調べる？」とその時点で、教師が発問して、子供たちに考えさせることで、授業の中で使っていた情報に気づき、「雨雲レーダー」で調べるなど、必要な情報を得ることができた。また、友達が必要な地点の情報が得られない時には、教えるなどする場面が見られ、タブレットの使い方の視点で、教え合う姿が見られた。また、この活動を通して、複数の情報と情報とのつながりから、何が分かるのか、点で捉えるのではなく、連続した関係で考えを書くことができるようになってきた。

<教科等横断的な資質・能力>: 地域の実態に応じた各教科等横断的な資質・能力の育成
「緊急時に対応する力」の育成を図る。

自分の状況などを活発に活用し、「台風の動きを見よう」として、避難準備する、地味なことに避難所や避難経路を調べる、等々を学ぶ上で、危険な



第4章

これまでの取組の考察

第1節 資質・能力に向き合い、単元研究し、 カリキュラム・マネジメントは充実したのか



1

資質・能力に向き合い、単元研究し、 カリキュラム・マネジメントは充実したのか ～アンケート結果からの考察～

1 資質・能力を育む単元研究について～単元案の視点～

(1)令和2年度以前について

令和2年度の研究当初は、右図のように、日々の単元においては、単元計画等はあまりせず56%を越える先生方が、頭の中だけで単元構想をして、その自分の感覚で単元を展開し、学習評価をしている状況であった。学習指導要領の基準性から考えると、第2章第1節【突破口1】で示したように、8つの抑えるべき視点について、何となく取組んでいて、単元をコントロールしているとは言い難い状況があった。また、悉皆研修等では、これまで詳しく記述した学習指導案と向き合ったにもかかわらず、その後の単元に生かされない現状があった。さらに、研究授業等に該当しない教員は、資質・能力の明確化や単元構想、学習評価において非常に弱い部分があった。

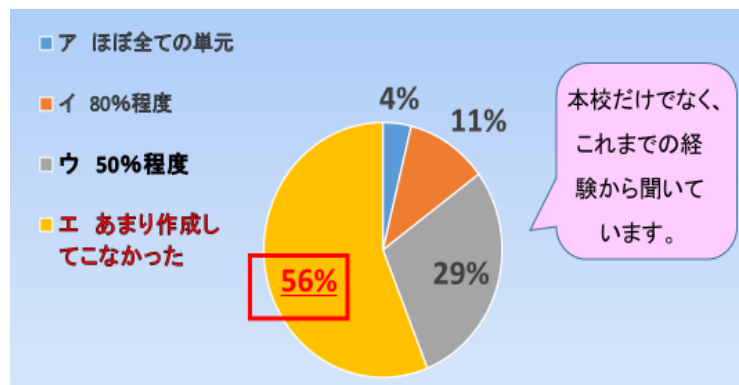


図8：日々の授業の単元案等の作成について

(2)3年間の取組みを経て、令和4年度の途中経過から見えること

上記のデータと単純比較はできないが、令和4年度9月段階でのアンケートで、ほとんどの教員が資質・能力を育むために「単元案」のもと単元構成して単元をコントロールしていることが言える。(図9)

単元案を活用して単元をコントロールしている教員は、単元案がない時の単元の質や授業の質がコントロールできないことを実感することが多い。また、この単元案を活用したサイクルが多い教員ほど授業力の向上が見られ、安定した単元展開が行われ、子どもたちの資質・能力を最大限に伸ばすことが多く見られた。

こうした日々の愚直な取組みが、県内外の各種研修会で、本校の取組が注目を浴び始めている。

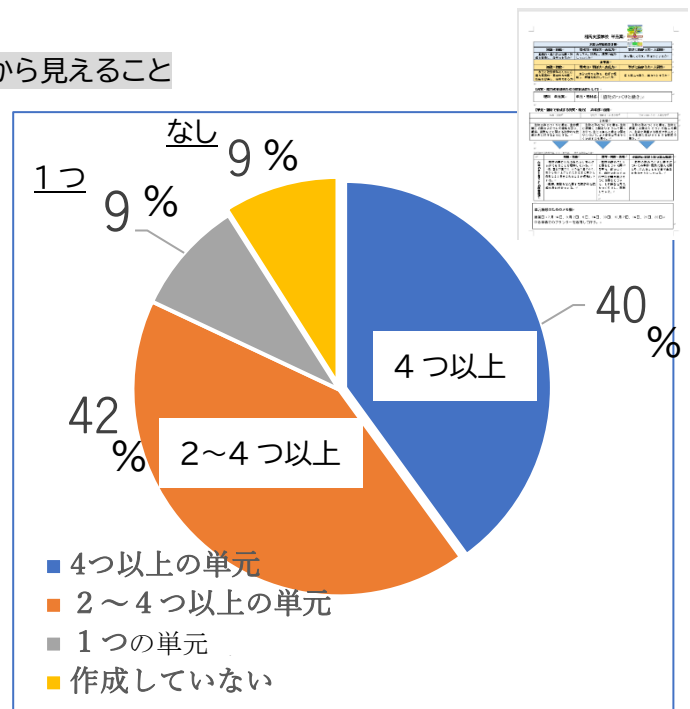


図9：令和4年度単元案を活用した数

(3) 今後も私たちの仕事の本質として

私たちの仕事は当然ながら“授業”である。

学習指導要領という基準性を遵守し、取り組むことが公務員として求められる。

子どもたちに、仕事やルールを守ることを求める以上、この示す基準性については、今後も愚直に向き合い、授業の本質を追究していく必要があると考える。

令和4年度、現在では単元案は定着し、単元をコントロールするために単元案を活用することが当たり前になってきている。今後も、学習指導要領の基準性を、私は“やったつもり”だけにならないように、今後も日々の単元をコントロールしていく必要がある。

【活用者の声(R2 研究集録、R3 授業改善ハンドブック、R4 アンケートより)】



昨年度は単元案の作成に取り組めていなかったのですが、今年度は頑張るぞという気持ちで取り組んできました。単元案を作ることで目標が明確にでき、達成のための展開についてもよりしっかり考えられたように思います(いきあたりばったり、、、のようなことがなくなった気がする)。もっと早く取り組んでいればと今年の自分に言いたいです。

教科等横断的な視点に立った資質・能力について、意図的に単元案にて実践、評価してみると、生徒への学習効果、こちらの発問等が変わってくるのが分かりました。おもしろい経験でした。今後も深めたいです。



単元案で授業を行うことで、その観点にあった教材や支援の度合いが変わりました。時短でありながらの単元案を活用した確実な実践につながりました。

単元案を作成することで、これまで以上に教科等横断的な視点を意識するようになりました。また、評価、指導と、一体化して、その都度意識して取り組めるようになりました。



教員と授業の相談するベースが単元案、学習指導要領であり、ビジョンが一致しやすいです！こういった感覚で、ほぼ全職員が話ができる環境はとてありがたいです！

取組めば取組んだ分、様々なことが見えてきます(課題も含め)。その課題と一緒に向き合ってくれる先生方が周りにいるので徐々に取組んでいます。



**学校全体が資質・能力の確実な育成を目指す。
やればやるほど、単元コントロールの面白さ、授業力の向上の実感へ！**

2 資質・能力を育む単元案と単元研究会は

カリキュラム・マネジメントにつながったのか

(1) 令和4年9月のアンケートより

令和4年9月に「単元案や単元研究会によって得た効果を教えてください。」というアンケートをとった。自分が当てはまる項目に全て○をつけてもらうようにしている。

その結果が図10である。

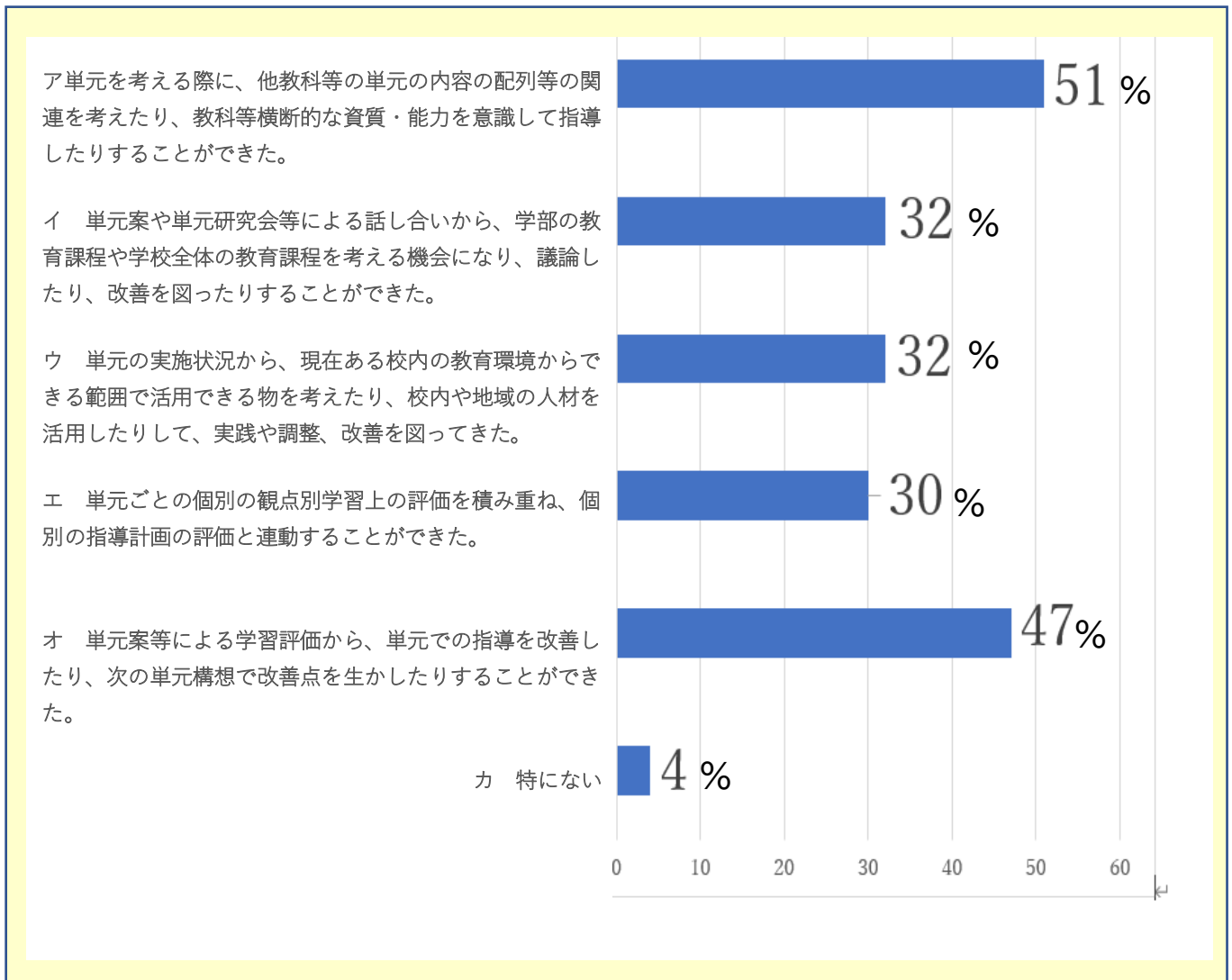


図10:単元案や単元研究会で得た効果について

この質問項目ア～オについては、実はカリキュラム・マネジメントの4つの側面と対応している。

結果として、教育活動の質の向上のために、もっとも大切である「他教科との関連付けや教科等横断的な視点に立った資質・能力について」効果があったと答えている先生が51%、教育課程改善につながる議論や改善につなげたという先生が32%、校内の教育環境において調整、改善を図ってきた先生が30%、単元における学習評価、つまり個別の指導計画の実施状況から次の単元構想等に生かした先生

が47%、特にないが4%であった。

実質、96%の先生方が、カリキュラム・マネジメント4つの側面に、授業者として単元を研究する中で何らかの形で働きかけ、本校の教育活動の質の向上に向けて向き合っていたという結果がでた。

まさに、授業者による日々の取組みが、そのままカリキュラム・マネジメントにつながる証拠と言える。そして、その結果として、この3年間の様々な教育的課題に向き合い、開発・改善しながら、より教育活動の質の向上に向かうことができた。

(2) 単元研究をしていくことが、本質的な持続可能なカリキュラム・マネジメントの出発点

私たちの仕事は、日々様々な業務に追われている。

だからこそ、カリキュラム・マネジメントとは、普段の業務に付け加えて、アンケートをしたり、分析したりするなどの仕事のビルドではない。

もっと身近な私たちの普段の授業、単元構想を充実させ、「何が身に付いたのか」学習評価をして向き合うことで、それがカリキュラム上の課題や改善点につながったり、カリキュラムを教育活動の質の向上のために全職員でマネジメントすることにつながったりすることを研究から実感することができた。

しかしながら、気を付けるべきは、単元構想をする時の基本をしっかりと押さえた授業である。

【学習指導要領で示されている単元づくりで押さえるべき点】

- ① 本校の育みたい資質・能力から、教科等の資質・能力へのつながり
- ② 単元における育む資質・能力の明確化
- ③ 単元における評価規準と評価計画（いつ、どの資質・能力を育てていくのか。）
- ④ 授業改善の視点（主体的・対話的で深い学びの単元構想における意図的な設定場面）
- ⑤ 子どもたちの学びの過程（習得、活用、探究）をデザイン
- ⑥ 単元間のつながり（教科内、教科等間）
- ⑦ 教科等横断的な視点に立った資質・能力を育む視点
- ⑧ 「何が身についたのか」観点別学習状況の評価と授業改善

この8点について、第2章第1節でも説明したが、全て頭の中で取り組むことは、ほとんど不可能に近い。実際に「単元案のある授業とない授業での明確な差を感じられるようになりました。」と、実践者ほど単元コントロールが容易ではないことを実感している。カリキュラム・マネジメントは、基本を徹底した実践、追究から、子どもの学びが見えてくる。充実した単元コントロールを求めるから、カリキュラム上の課題に気付き、マネジメントの必要性を感じることができる。

私たちが本来の業務である授業に集中し、追究することがカリキュラム・マネジメントにつながる。

この本質を間違えると、「～ありき」「～チェックすること」の方向性で進められることがあり、日々の授業、単元における子どもたちの資質・能力を検討しないカリキュラム・マネジメントが行われ、実質の授業改善が図られないままの本音と建て前に陥る危険性があり、仕事のビルドで終わる可能性がある。

本校の研究のアンケートには、

「時短や業務短縮について、めちゃくちゃ感じます！」

「時短でありながら、単元案を活用した確実な実践につながりました。」

「業務短縮に向けた取組みが少しずつ増えてきているので、とても良いと感じています。業務短縮のために感謝の気持ちで一杯です。」 等

このような感想があるなど、この3年間の研究を通してカリキュラムやCK作戦（単元案クリック作戦）が整うことで、授業者の「何を教えるか」というこれまでの知的障がい教育であった悩みや不安が減り、授業者本来の「どのように教えるか」という部分を追究することができ、それが時短や業務短縮につながっていると感じる。

しかしながら、教員の仕事は、日々多忙な状況にある。

だからこそ、今後も、より授業や単元に向き合える時間を確保できるように、学校全体で取組んでいきたいと考える。

3 最後に

学習指導要領の内容を履修する時、研究当初は、「その教科の学びは本当に子どもたちが社会に出て役立つのか」という議論が少なからずあった。しかし、実際の多くの学習評価から、子どもたちは、自ら学びをつなげ、これまで断片的だった知識や技能の活用の幅を広げ、生きた知識・技能として働かせている様子が単元研究会等での学びの姿より見えるようになってきた。

ある生徒が、国語の授業中に

「学びをつながないといけない。自分が言っていたことにたどりつけない。大人につづいていけない。」と、これまでの学習を生かしていくこと、自分たちが学ぶ意義について、実際の経験から話し始めた。

活用の幅を広げるために、教育の内容を教科等横断的に組み立てて教育活動の質の向上を図っていくこと、つまり学びをつなげていく意識が、カリキュラム・マネジメントによって生徒たちにも伝わってきたと感じる。知識・技能が断片的になりやすい知的障がい教育にとって大事な視点である。他の生徒からも「〇〇教科で学んだ内容を使ってさ・・・」と話す様子を耳にする機会も増えてきている。

このような姿が増えてきたのは、研究授業等の特別な授業だけでなく、全ての教員が一人一人、愚直に取組んできた積み重ねだと感じている。

単元構想が充実するからこそ、子どもたちの新たな学びを引き出し、学びに浸る姿、学びを味わう姿に教師が会うことができる。それは、私たち教師の充実感や喜び、生きがいにもつながっていくと感じる。だからこそ、今後も、本校の育成を目指す資質・能力に向かって、私たち教員も日々学び続け、愚直に単元に向き合い、日々、実践していきたいと考える。

本校の取組のゴールは常にシンプル！

「本校の育成を目指す資質・能力」

を充実するための研究・研修です！



チェックできます！

参考文献

- 文部科学省（2018）「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年 4 月告示」海文堂出版株式会社
- 文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）」開隆堂出版株式会社
- 文部科学省（2018）「特別支援学校学習指導要領各教科等編（小学部・中学部）」開隆堂出版株式会社
- 文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」開隆堂出版株式会社
- 中央教育審議会（2016）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
- 中央教育審議会（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
- 東京都立光明学園（2018・2019）「全国公開研究会資料」
- 東京都立光明学園（2018）『授業者支援会議を活用した「授業改善」の勧め』
- 福島県教育委員会（2019）「平成 31 年度学校教育指導の重点」
- 福島県教育委員会（2019 一部改訂）「頑張る学校応援プラン」
- 大分県教育委員会 Web サイト『「育成を目指す資質・能力」の三つの柱を踏まえて行う教育目標の設定・見直し』について
- 福島県特別支援教育センター（2018）「小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育システム推進のためのコーディネートハンドブック」
- 高木展郎（2016）『「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは-アクティブな学びを通して-』東洋館出版社
- 高木展郎（2015）「変わる学力、変える授業。21 世紀を生き抜く力とは」三省堂印刷
- 高木展郎（2019）「評価が変わる、授業を変える 資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価」三省堂印刷
- 奈須正裕（2018）『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社
- 浅田すぐる（2016）『トヨタで学んだ「紙 1 枚！」にまとめる技術』三省堂印刷
- 新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム（2019）「相馬支援学校の教育課程の抜本的見直しに係る改善及び必要な方策等について（答申）」
- 中央教育審議会（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）【概要】
- 画像：出典：<https://ai-catcher.com/>

第一次～第三次研究における研修部

【令和2年度 研修部】(◎主任 ○副主任)

小学部 ○根本麻美、立石茉由子、大和田布佐子

中学部 荒井郁絵、川俣つぐみ

高等部 岡千愛、飯田里佳子、室井郷司、◎富村和哉

【令和3年度 研修部】(◎主任 ○副主任)

小学部 ○根本麻美、相原聖美、青木梨紗

中学部 岡千愛、川俣つぐみ

高等部 飯田里佳子、○室井郷司、富山淳史、馬目昭典、◎富村和哉

【令和4年度 研修部】(◎主任 ○副主任)

小学部 ○根本麻美、相原聖美

中学部 藤田秦人

高等部 黒澤圭太、加藤優良、◎富村和哉

編集後記

この3年間は、学習指導要領の着実な実施に向けて、様々な挑戦の連続でした。

“従来”の考え方の踏襲ではなく、学習指導要領を読み込み、“本当にやるべきことは何か”を洗い出し、それが持続可能になるように本質を見極めて取組んできました。ただし、仕事のビルド&ビルドでは現在の多忙な業務の中では持続可能にならないと考えます。そのために、これまでの慣習だけで取組んできた研修や形式等については、思い切って廃止するなどして、学習指導要領の着実な実施に向けて研修関係の業務改革にも取組んできました。

その中で開発された単元案は、3年間で400個以上の単元で活用されました。単元をコントロールすることで、子どもたちの学びを引き出し、単元が充実することにつながっていることを実感し、研究授業だけでなく、普段の単元の中でも自然と広がってきました。まさに、相馬支援学校の先生方の授業や単元に真摯に向き合うプロの姿勢だと思います。私も同じ授業者としていつも刺激を受けております。そして先生方が、子どもたちを新しい学びに導いた瞬間を語り合う、楽しむ会話も多く聞かれるようになり、授業に、単元に浸る雰囲気が広がってきていることも嬉しく思います。

相馬支援学校の先生方は、すごい先生方であり、すごい学校です。

ここに至るまで、カリキュラム等で解決しなければならない様々な問題点にぶつかってきました。私たちが向き合ってきた問題は、そもそも全国的に調べても明確な答えや見本が示されていない問題が多かったのですが、令和2年度、令和3年度、令和4年度の研修部の先生方が「誰かがやってくれる」を待つのではなく「自分たちがやるしかない！」と自ら立ち上がり、課題解決のために突破する力強さがありました。まさに、研修部の先生方が、子どもたちだけでなく、働く同僚のために、全国で悩んでいる先生方のために、well-beingの気持ちをもって働いていたように思います。このようなメンバーたちと一緒に働けたことに本当に幸せを感じます。

今後も、一人一人が単元研究をして互いに学び合い、「ちょっとベター」を積み重ねながら「教育活動の質の向上」を図り、本校の育成を目指す資質・能力を着実に育むことができるように愚直に取組んでいきたいと思えます。

最後に、本校の研究にご協力いただきました、田中裕一様、加藤宏昭様、横倉久様、嶋野隆文様、丹羽登様、小野寺哲夫様、小暮創史様、そして子どもたちの授業のために、語り合った全ての先生方に改めて感謝申し上げます。今後ともご指導の程、よろしく申し上げます。

(文責：富村和哉)



Soma special education school

自分の学びが、子どもの学びへ



福島県立相馬支援学校

〒979-2333 福島県南相馬市鹿島区寺内字鷺内79
電話:0244-67-1515 FAX:0244-46-3915

E-mail:soma-sh@fcs.ed.jp

